

令和4年度

人権問題に関する県民意識調査

調査結果報告書

福井県

目 次

①調査目的 ②調査の概要 ③調査項目 ④回答者の属性	1
----------------------------------	---

基本的人権の尊重

問1 あなたは、「今の日本は、基本的人権が尊重されている社会である」と思いますか。	3
---	---

人権に関する法律・条例

問2 あなたは、人権に関する次の法律や条例を知っていますか。	6
--------------------------------------	---

人権の侵害

問3 (1) <u>これまでに</u> 、あなたやあなたのご家族が人権侵害を受けたことがありますか。	7
問3 (2) それはどのような人権侵害ですか。	11
問3 (3) (2)に記載していただいた内容について、 <u>過去5年間に限ると</u> 、どのような人権侵害を受けたことがありますか。	13
問4 あなたが人権を侵害された場合、まずどのような対応をしますか。	15

主な人権課題に関する意識

問5 日本における人権課題について、あなたの関心があるものはどれですか。	17
--	----

女性の人権

問6 女性に関し、あなたは現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。	19
--	----

子どもの人権

問7 子どもに関し、あなたは現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。	21
---	----

高齢者の人権

問8 高齢者に関し、あなたは現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。	23
---	----

障がい者の人権

問9 障がい者に関し、あなたは現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。	25
--	----

部落差別（同和問題）

問10 部落差別（同和問題）について、あなたが初めて知ったきっかけは、何からですか。	27
問11 部落差別（同和問題）に関し、あなたは現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。	33
問12 (1) あなたは、現在でも部落差別があると思いますか。	35
問12 (2) 現在でも部落差別が残っているとすれば、あなたは、その原因はどこにあると思いますか。	39
問13 あなたは、部落差別に関する問題を解消するために効果的と思われることは何ですか。	41
問14 あなたは、部落差別に関する問題を解消するために、学校教育や啓発（講演会、研修会、広報等）を今後どのようにすればよいと思いますか。	43

外国人の人権

問15 日本に居住している外国人に関し、あなたは現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。……………45

感染症患者等（エイズ患者、HIV感染者、ハンセン病患者等）の人権

問16 感染症患者やその家族に関し、あなたは現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。……………47

犯罪被害者等の人権

問17 犯罪被害者やその家族等に関し、あなたは現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。……………49

性的マイノリティ（LGBTなど）の人権

問18 同性愛、両性愛といった性的指向に関し、あなたは現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。……………51

問19 からだの性とところの性が一致しない性同一性障害者に関し、あなたは現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。……………53

問20 あなたは、性的マイノリティについて、どのような考えやイメージをもっていますか。……………55

問21 あなたは、身近な人（家族、友人、職場の同僚等）から性的マイノリティであることをカミングアウト（自分が当事者であることを他人に告白すること）された場合、どうしますか。……………59

問22 性的マイノリティへの配慮に関し、あなたは、どのような取り組みが必要だと思いますか。……………63

被災者の人権問題（東日本大震災に伴う人権問題）

問23 被災者の人権問題に関し、あなたは現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。……………65

北朝鮮当局によって拉致された被害者等

問24 北朝鮮当局によって拉致された被害者やその家族等に関し、あなたは現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。……………67

刑を終えて出所した人

問25 刑を終えて出所した人に関し、あなたは現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。……………69

インターネットによる人権侵害

問26 インターネットによる人権侵害に関し、あなたは現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。……………71

問27 インターネットによる人権侵害を解決するために、あなたは、どのようなことが必要だと思いますか。……………73

結婚等に関する人権意識

問 2 8 既婚の人は（１）、未婚の人は（２）にお答えください。

（１） **既婚の人のみ**お答えください。

仮に、あなたのお子さんの結婚や交際しようとする相手が、A～Fの人であれば、あなたはどうしますか。お子さんがいない場合は、いると仮定してお答えください。 ……………75

（２） **未婚の人のみ**お答えください。

仮に、あなたがA～Fの人と結婚や交際しようとしたとき、親や親戚から強い反対を受けたら、あなたはどうしますか。 ……………81

問 2 9 あなたは、近所の人が、A～Fの人であるか否か気になりますか。 ……………83

問 3 0 あなたは、求人に対する応募者や職場の同僚が、A～Fの人であるか否か気になりますか。 ……………84

人権課題の解決のための方策

問 3 1 県・市町では、人権に関する取組みとして、下記のような啓発活動を行っておりますが、あなたは、このような人権に関する啓発活動を知っていますか、または、啓発活動に参加していたことがありますか。 ……………85

問 3 1 (2) あなたは、どのような理由で参加しませんでしたか。 ……………91

問 3 2 県内において、人権啓発を推進するためには、あなたは県民に対してどのような啓発広報活動が効果的だと思いますか。 ……………95

問 3 3 あなたは今後、人権課題の解決に向けて、どのようなことに力を入れていけばよいと思いますか。 ……………97

集計結果表（属性別）

人権問題に関する県民意識調査結果報告書

① 調査目的

平成13年度に実施している「人権問題に関する県民意識調査」を踏まえ、「福井県人権尊重の社会づくり条例」を制定し、平成27年度にも「人権問題についてのアンケート調査」を実施している。また、国は、令和元年度に「部落差別の実態に係る調査」を、令和4年度に「人権擁護に関する世論調査」を実施している。

平成27年度の本県調査を基本に、国の調査項目との整合性を図り、令和4年度に県民意識調査を実施し、今後の人権施策の参考とする。

② 調査概要

調査対象者：18歳以上の県民2,500人

抽出方法：住民基本台帳からの無作為抽出

調査期間：令和4年11月11日～令和4年11月30日

調査方法：郵送調査（無記名回答）

調査実施機関：一般社団法人福井情報技術協会

回収結果：配布数2,500(A)、回収数:1,224(B)、回収率:49.0%(B/A)

③ 調査項目

- ・設問：33問
- ・属性：4項目（年齢、性別、地区、職業）

④ 回答者の属性

【性別】

男性	女性	その他	無回答	合計
527 (43.1%)	673 (55.0%)	7 (0.6%)	17 (1.4%)	1224 (100.0%)

【年齢別】

18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳
73 (6.0%)	114 (9.3%)	178 (14.5%)	194 (15.8%)
60～69歳	70歳以上	無回答	合計
254 (20.8%)	397 (32.4%)	14 (1.1%)	1224 (100.0%)

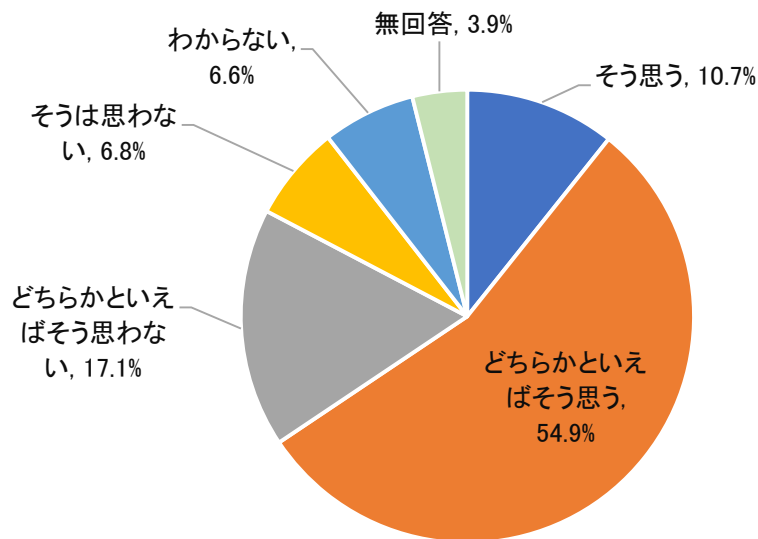
【地区別】

福井地区	坂井地区	奥越地区	丹南地区
468 (38.2%)	128 (10.5%)	147 (12.0%)	346 (28.3%)
嶺南地区	無回答	合 計	
117 (9.6%)	18 (1.5%)	1224 (100.0%)	

【職業別】

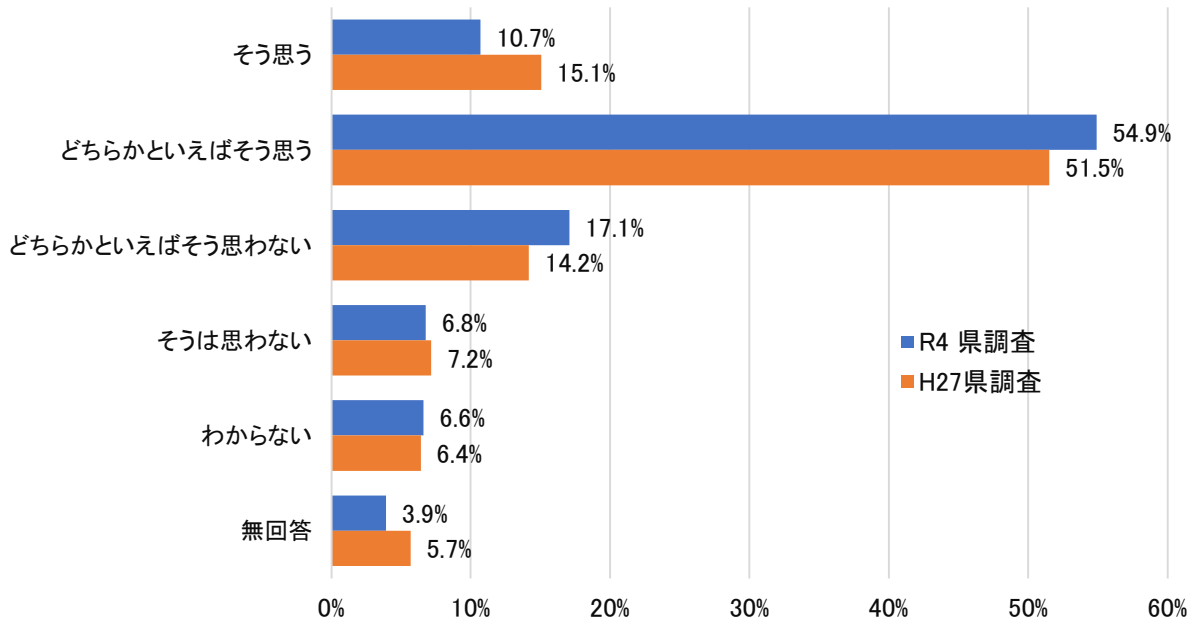
自営業	会社員・ 各種団体役職員	公務員	教員	臨時・パート・ アルバイト
101 (8.3%)	380 (31.0%)	63 (5.1%)	14 (1.1%)	198 (16.2%)
学生	無職	その他	無回答	合 計
22 (1.8%)	386 (31.5%)	42 (3.4%)	18 (1.5%)	1224 (100.0%)

問1 あなたは「今の日本は、基本的人権が尊重されている社会である」と思いますか。
 (1つ選択)



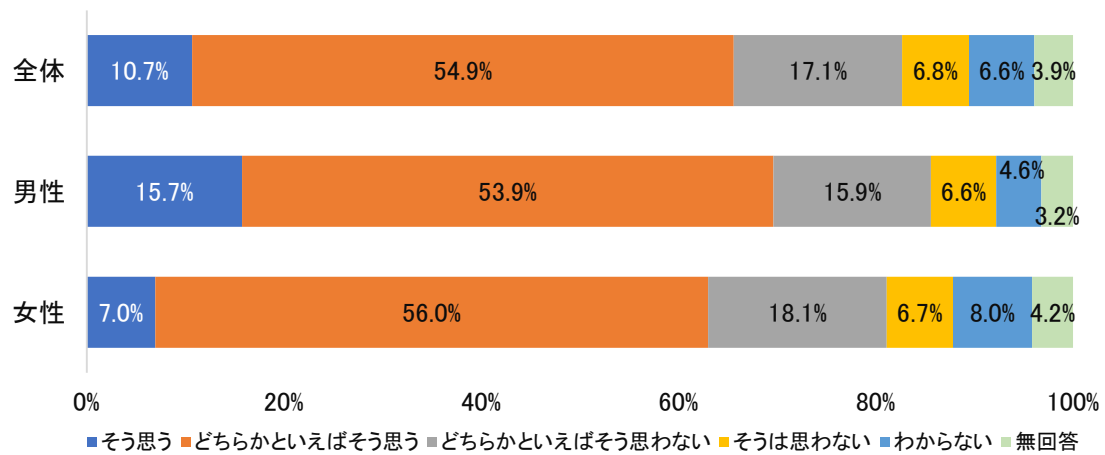
「そう思う」・「どちらかといえばそう思う」は、全体の7割（65.6%）となっている。

【経年比較】



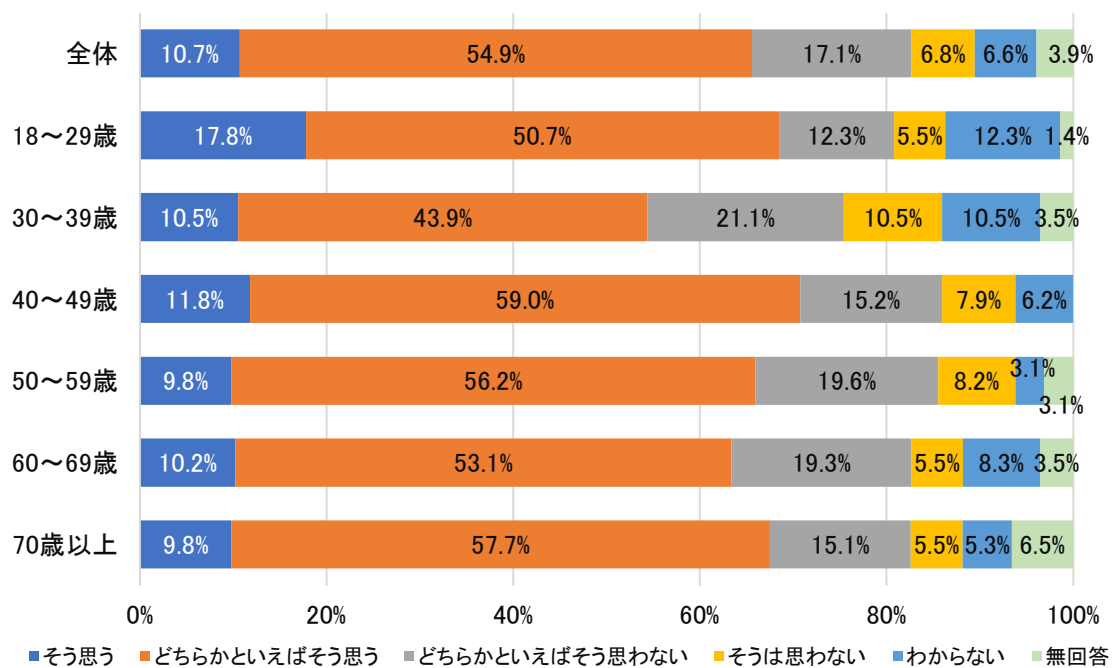
平成27年に実施された県民意識調査（以下、H27県調査）と比較すると、「そう思う」・「どちらかといえばそう思う」は、減少（66.6%→65.6%）している。

【性別】



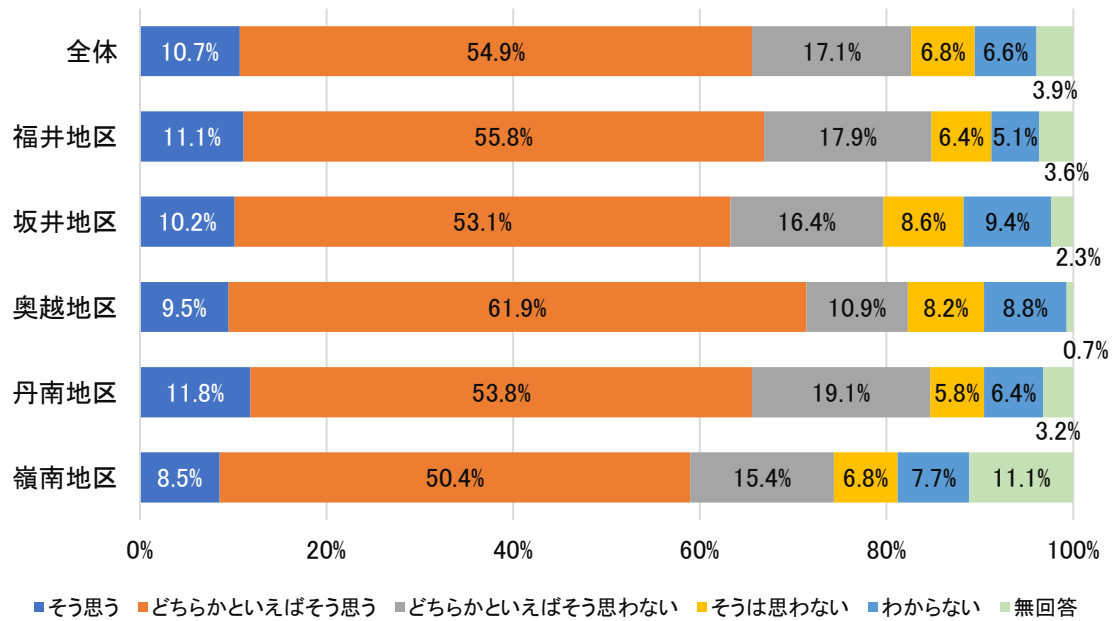
「そう思う」・「どちらかといえばそう思う」は、男性の方が高くなっている（男性：69.6%、女性：63.0%）。

【年齢別】



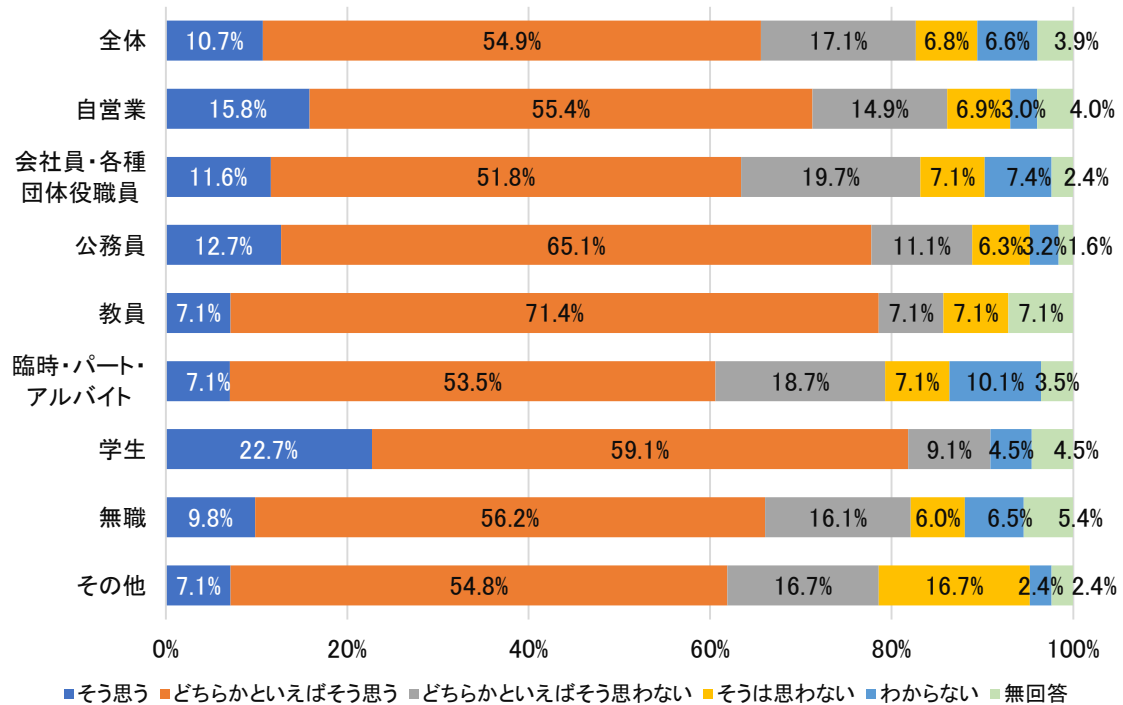
「そう思う」・「どちらかといえばそう思う」は、40～49歳（70.8%）が最も高く、30～39歳（54.4%）が最も低くなっている。

【地区別】



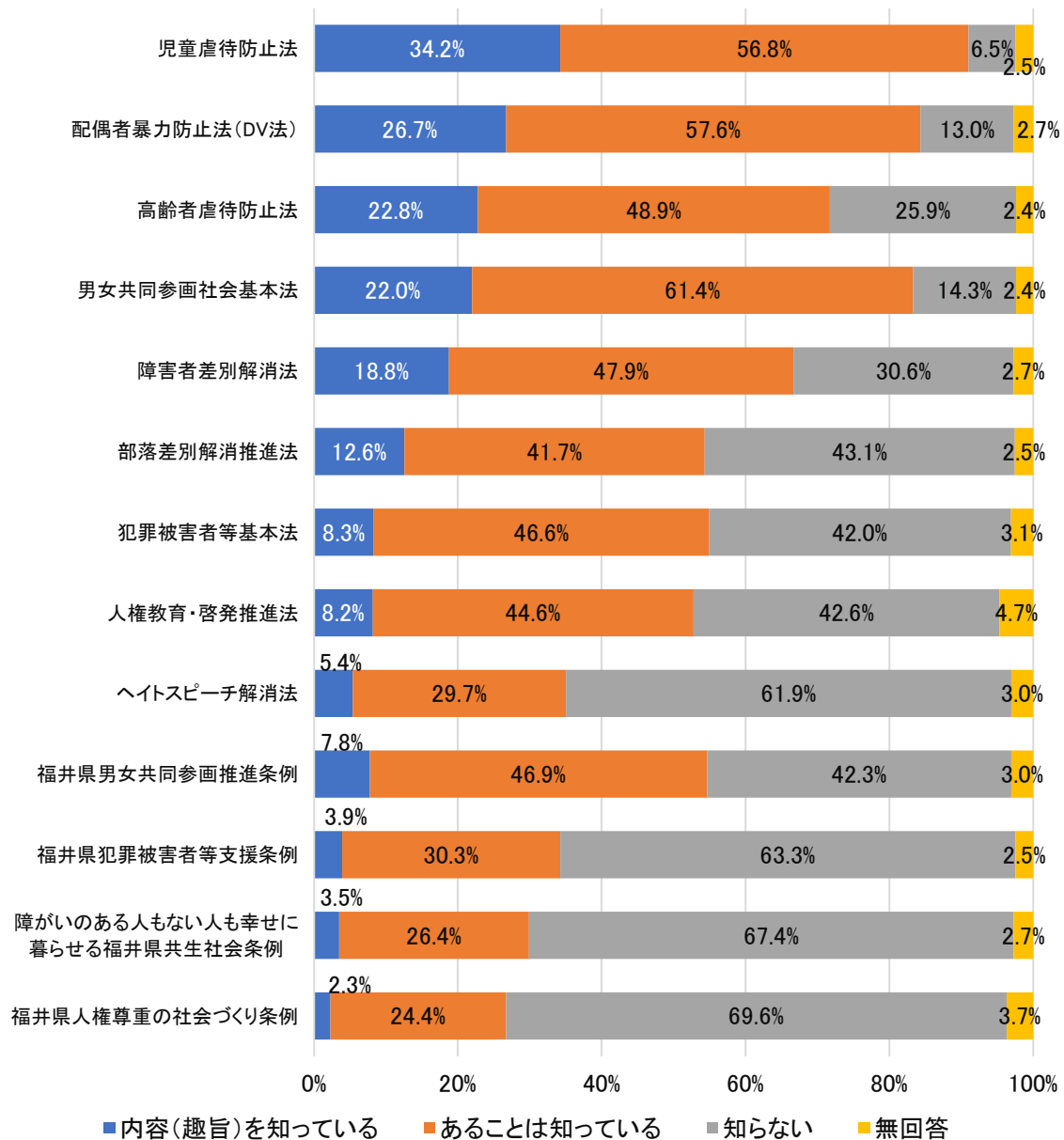
「そう思う」・「どちらかといえばそう思う」は、奥越地区（71.4%）が最も高く、嶺南地区（58.9%）が最も低くなっている。

【職業別】



「そう思う」・「どちらかといえばそう思う」は、学生（81.8%）が最も高く、臨時・パート・アルバイト（60.6%）が最も低くなっている。

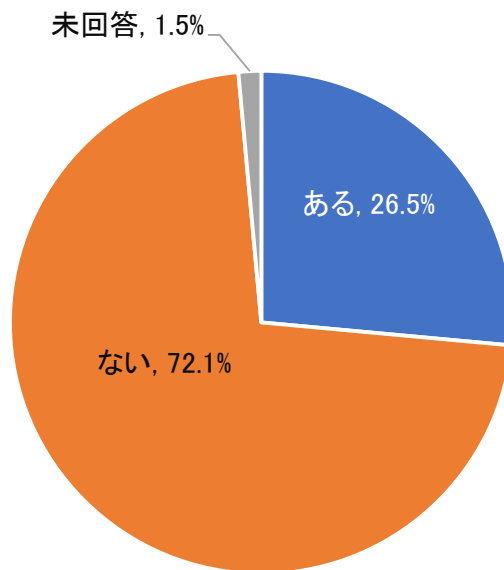
問2 あなたは、人権に関する次の法律や条例を知っていますか。(1つ選択)



「内容(趣旨)を知っている」は、児童虐待防止法(34.2%)が最も高く、「ヘイトスピーチ解消法(5.4%)」が最も低くなっている。

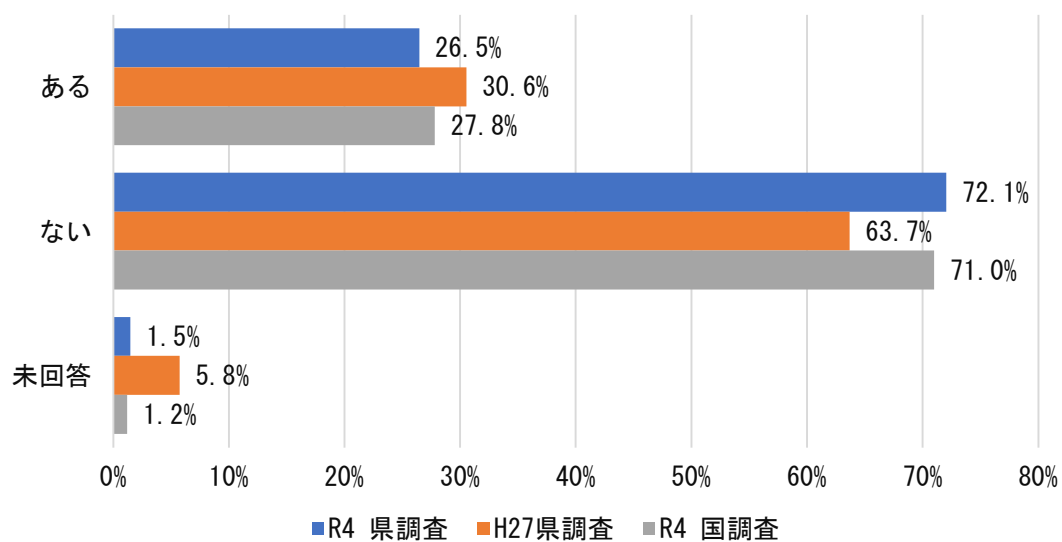
児童虐待防止法、配偶者暴力防止法(DV法)、高齢者虐待防止法、男女共同参画社会基本法、障害者差別解消法、部落差別解消推進法、犯罪被害者等基本法、人権教育・啓発推進法、福井県男女共同参画推進条例は「内容(趣旨)を知っている」と「あることは知っている」の合計は、5割以上となっている。

問3 (1) これまでに、あなたやあなたのご家族が人権侵害を受けたことがありますか。 (1つ選択)



「ある」は、26.5%、「ない」は、72.1%となっている。

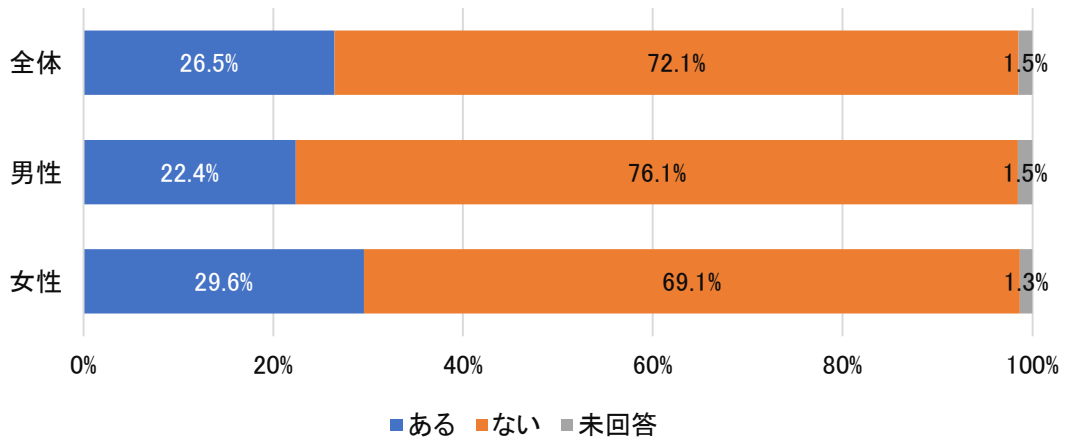
【経年比較】



H27 県調査と比較すると、回答者や回答者の家族が人権侵害を受けた割合は減少 (30.6%→26.5%) している。

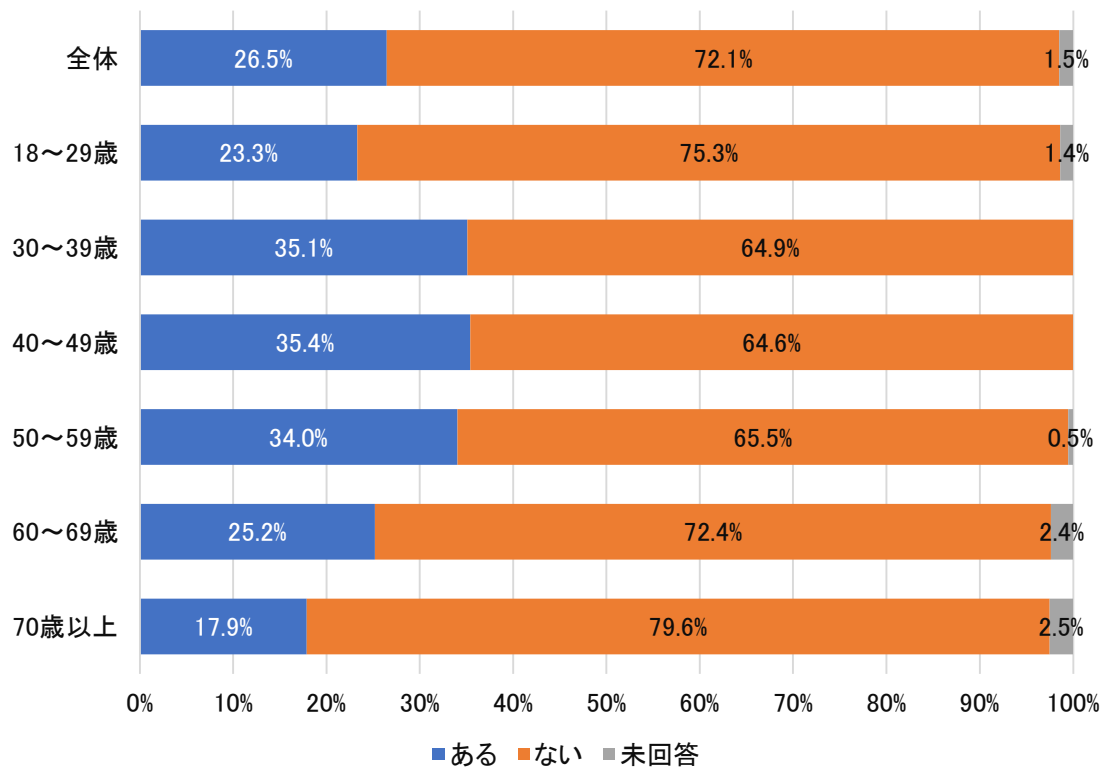
「人権擁護に関する世論調査 (内閣府) (令和4年8月調査。以下、R4 国調査)」と比較すると、「ある (国:27.8%、県:26.5%)」が低く、「ない (国:71.0%、県:72.1%)」が高くなっている。

【性別】



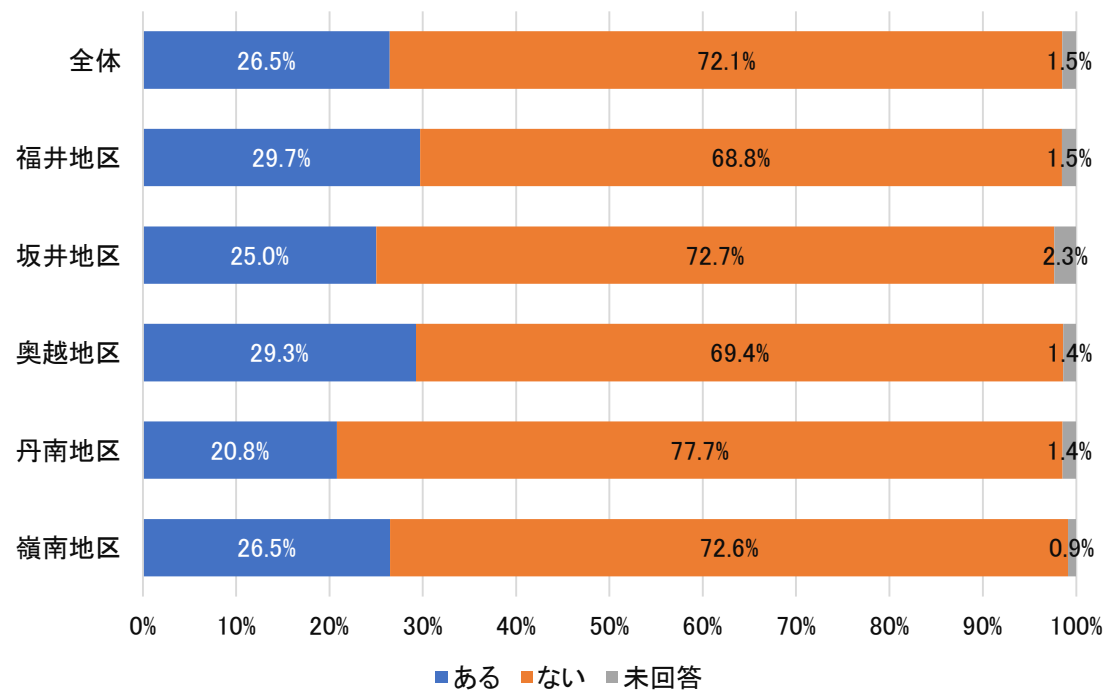
「ある」は、男性（22.4%）より女性（29.6%）が高くなっている。

【年齢別】



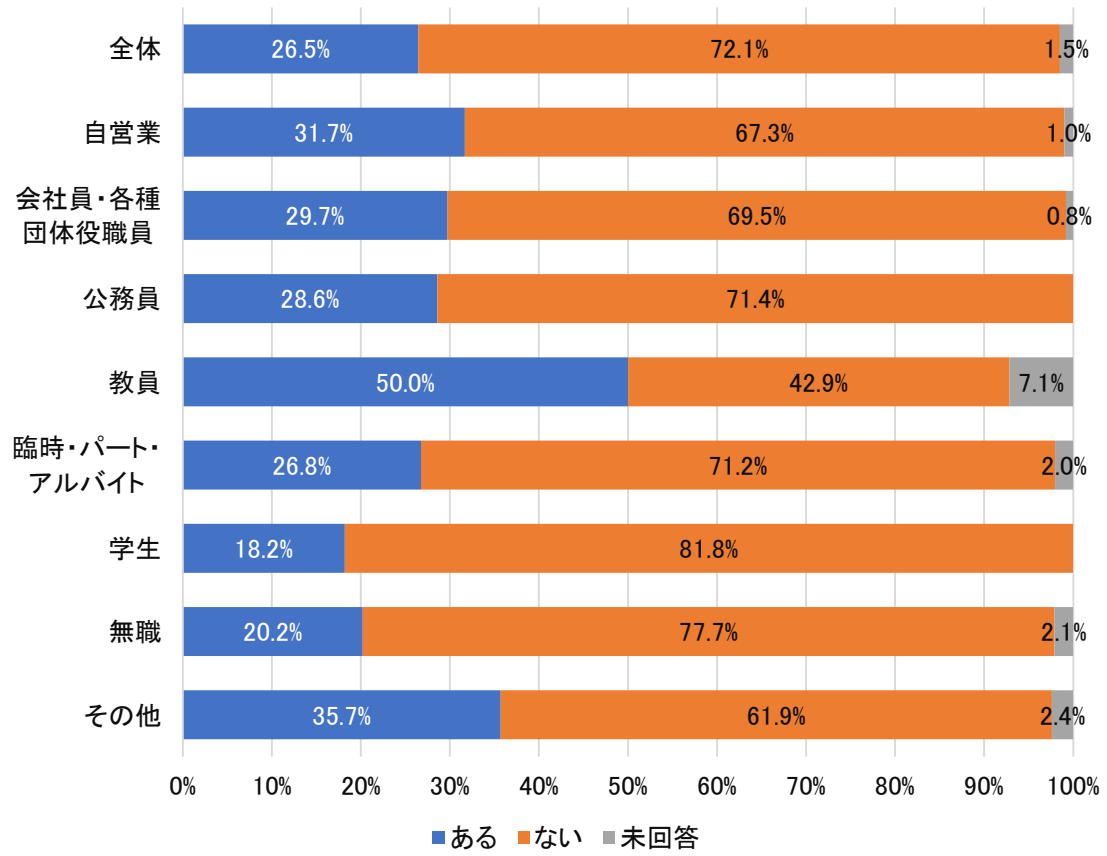
「ある」は、40～49歳（35.4%）が最も高く、70歳以上（17.9%）が最も低くなっている。

【地区別】



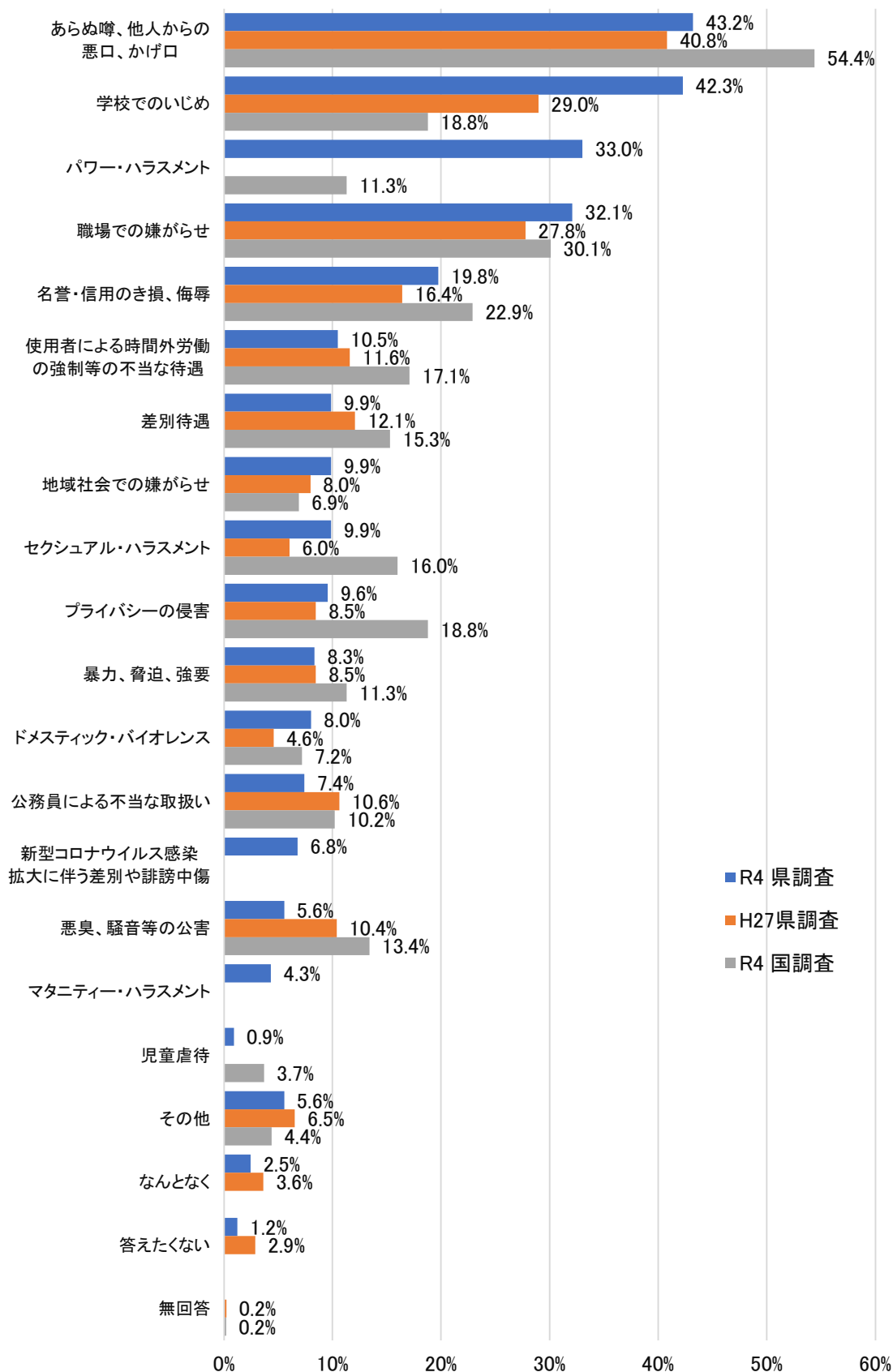
「ある」は、福井地区(29.7%)が最も高く、丹南地区(20.8%)が最も低くなっている。

【職業別】



「ある」は、教員(50.0%)が最も高く、学生(18.2%)が最も低くなっている。

問3 (2) それはどのような人権侵害ですか。(複数選択)



「これまでに、あなたやあなたのご家族が人権侵害を受けたことがありますか。」という問い「ある」と回答している方にその内容を聞いたところ、「あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口(43.2%)」が最も高く、次いで、「学校でのいじめ(42.3%)」、「パワー・ハラスメント(33.0%)」が高くなっている。

H27県調査と比較すると、「学校でのいじめ(29.0%→42.3%)」などが増加している。

R4国調査と比較すると、「学校でのいじめ(国:18.8%、県:42.3%)」、「パワー・ハラスメント(国:11.3%、県:33.0%)」が高く、「プライバシーの侵害(国:18.8%、県:9.6%)」、「悪臭、騒音等の公害(国:13.4%、県:5.6%)」が低くなっている。

【性別】

男性、女性とも「あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口」が最も高くなっている。

「セクシャル・ハラスメント(男性4.2%、女性:13.6%)」、「ドメスティック・バイオレンス(男性:0.8%、女性:12.1%)」で女性が高くなっている。

【年齢別】

18～29歳、40～49歳、50～59歳、60～69歳では、「学校でのいじめ」が最も高く、30～39歳、70歳以上では、「あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口」最も高くなっている。

【地区別】

福井地区、坂井地区、嶺南地区では、「学校でのいじめ」が最も高く、奥越地区、丹南地区では、「あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口」が最も高くなっている。

【職業別】

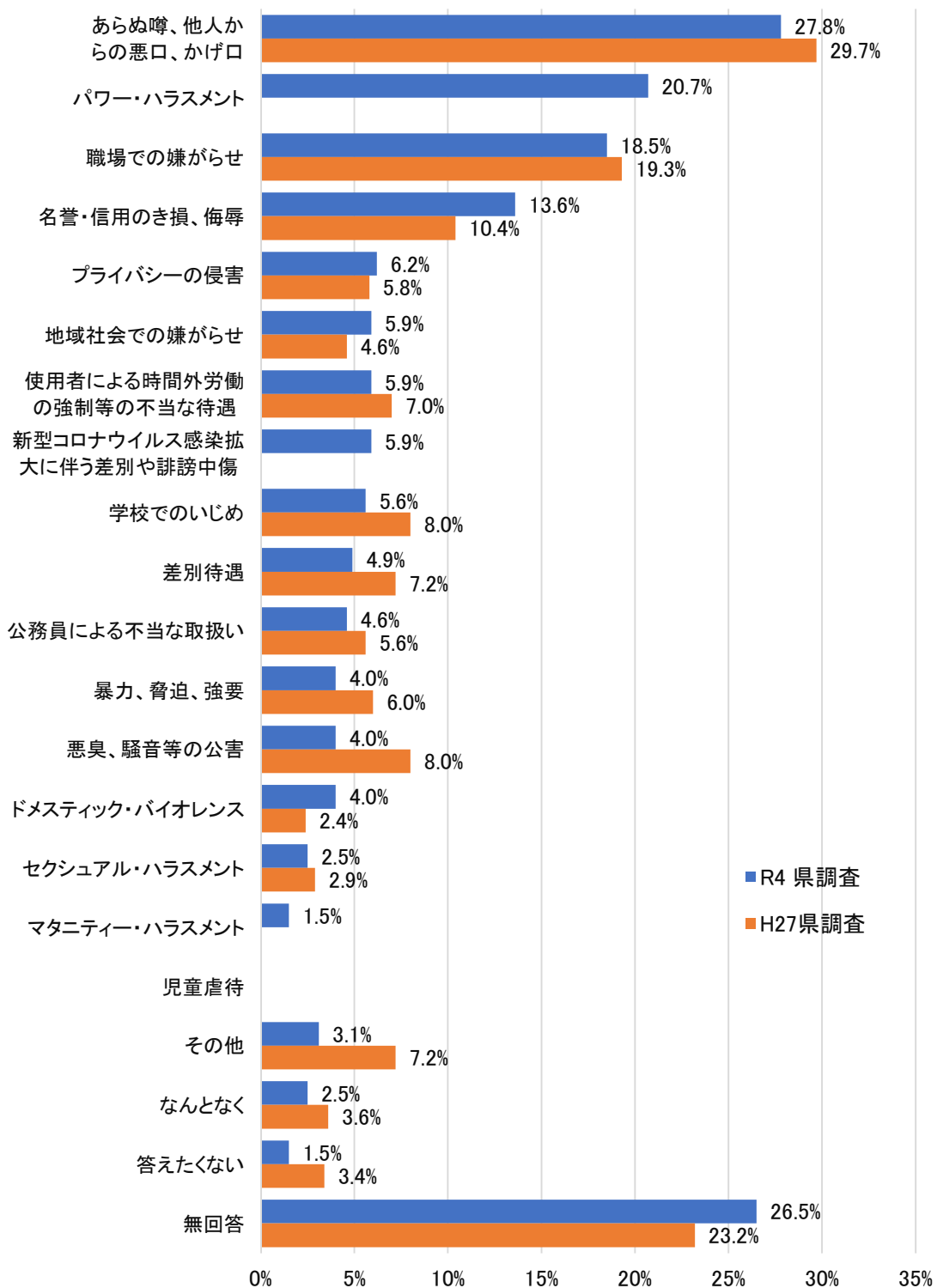
自営業、公務員、無職では、「あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口」が最も高くなっている。

会社員・各種団体役職員、学生では、「学校でのいじめ」が最も高くなっている。

教員では、「あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口」と「学校でのいじめ」が最も高くなっている。

臨時・パート・アルバイトでは、「パワー・ハラスメント」が最も高くなっている。

問3 (3) (2)に記載していただいた内容について、過去5年間に限ると、どのような人権侵害を受けたことがありますか。(複数選択)



「あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口 (27.8%)」が最も高くなっている。次いで、新項目として追加した「パワー・ハラスメント(20.7%)」、「職場での嫌がらせ(18.5%)」が高くなっている。

設問3（2）と比較すると、「学校でのいじめ(42.3→5.6%)」が大きく減少している。

【性別】

男性、女性とも「あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口」が最も高くなっている。

【年齢別】

40～49歳では、「パワー・ハラスメント」が最も高く、他の年齢では、「あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口」が最も高くなっている。

【地区別】

福井地区、奥越地区、嶺南地区では、「あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口」が最も高く、丹南地区では、「パワー・ハラスメント」が最も高い。坂井地区では、「あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口」と「パワー・ハラスメント」、「職場での嫌がらせ」が最も高くなっている。

【職業別】

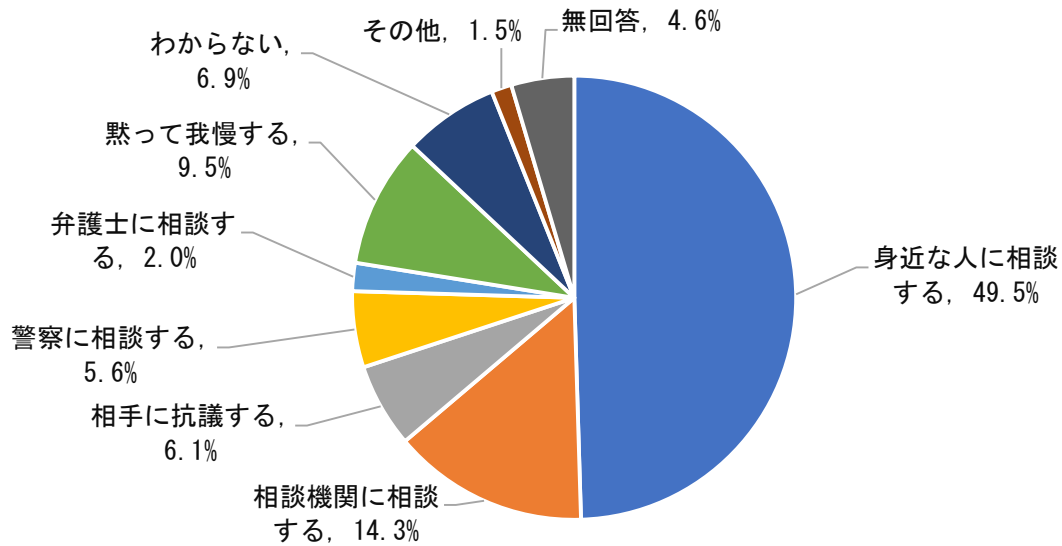
自営業、教員、無職では、「あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口」が最も高くなっている。

会社員・各種団体役職員では、「あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口」と「パワー・ハラスメント」が最も高くなっている。

公務員では、「パワー・ハラスメント」が最も高くなっている。

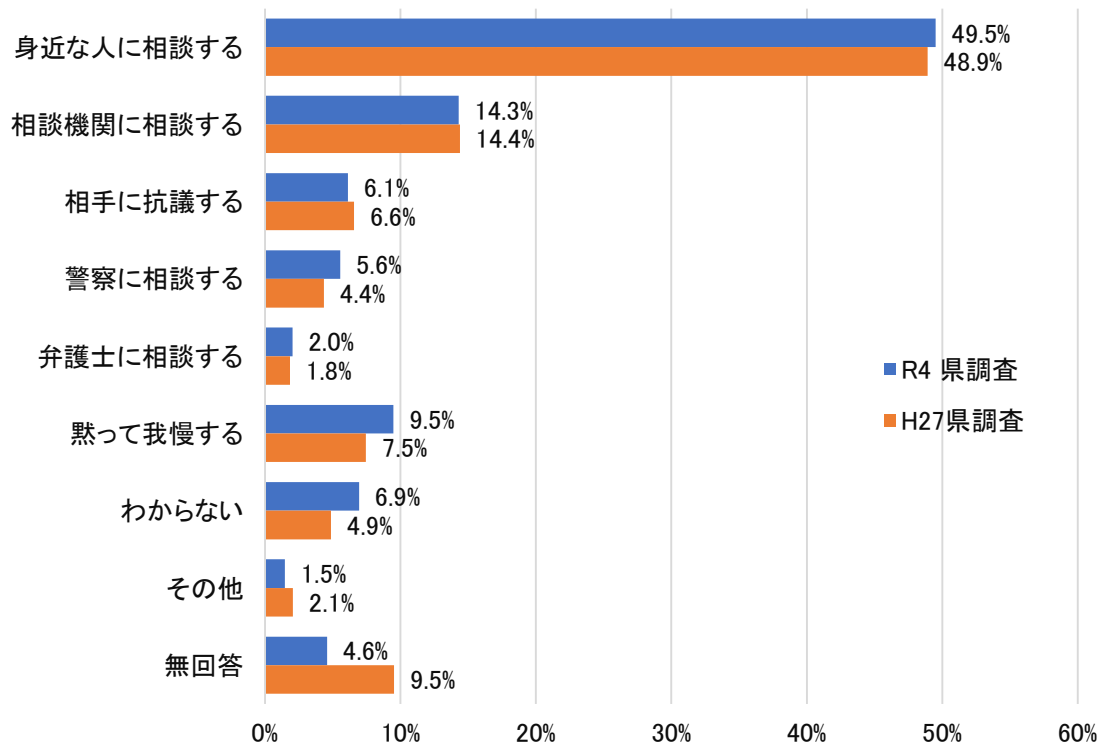
臨時・パート・アルバイトでは、「職場での嫌がらせ」が最も高くなっている。

問4 あなたが人権を侵害された場合、まずどのような対応をしますか。(1つ選択)



「身近な人に相談する (49.5%)」が最も高く、次いで、「相談機関に相談する (14.3%)」、「黙って我慢する (9.5%)」が高くなっている。

【経年比較】



H27 県調査と比較すると、大きな差は見られない。

【性別】

男性、女性とも「身近な人に相談する」が最も高くなっている。

【年齢別】

どの年齢も「身近な人に相談する」が最も高くなっている。

【地区別】

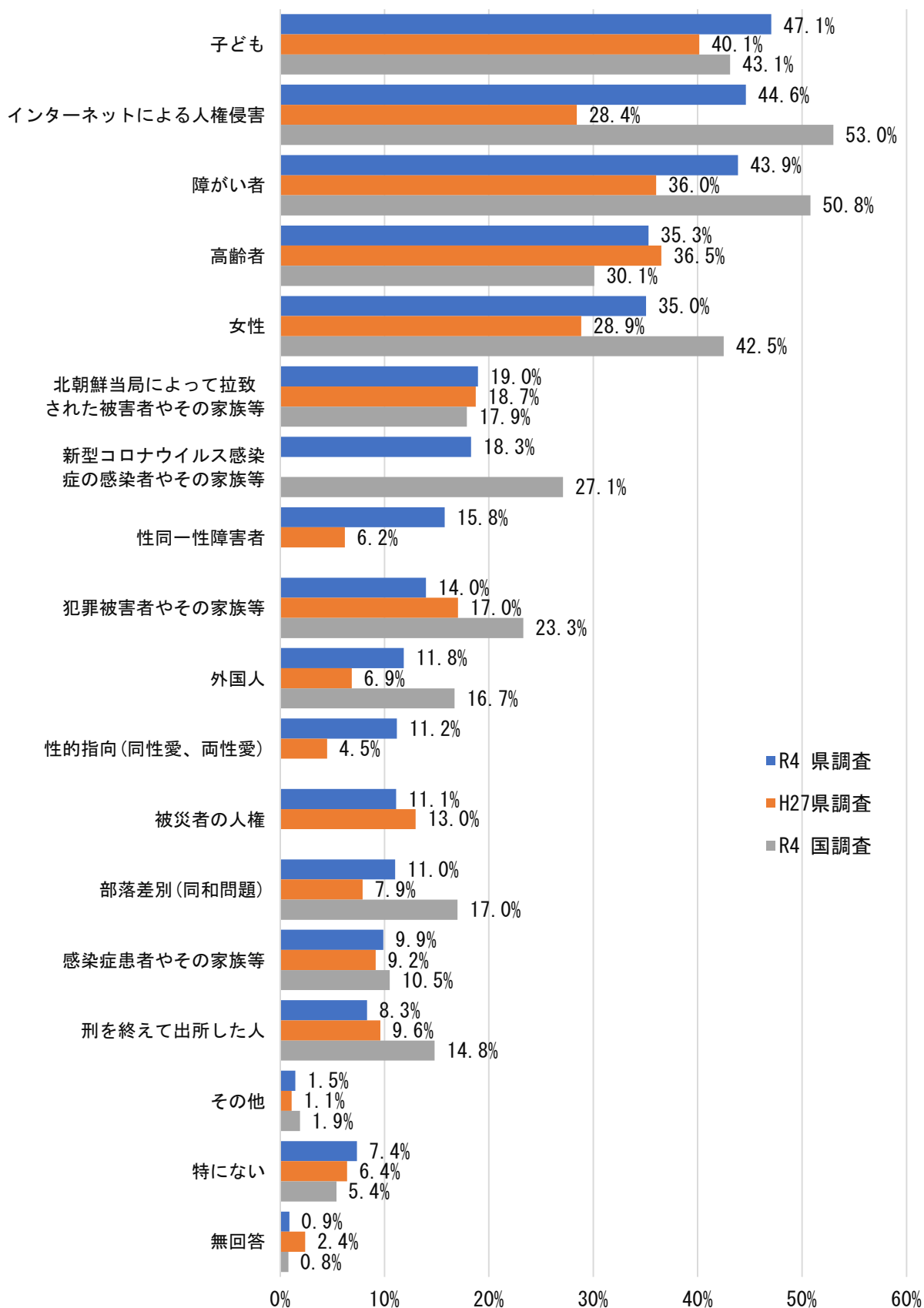
どの地区も「身近な人に相談する」が最も高くなっている。

【職業別】

どの職業も「身近な人に相談する」が最も高くなっている。

問5 日本における人権課題について、あなたの関心があるものはどれですか。

(複数回答可)



「子ども(47.1%)」に対する関心が最も高くなっている。

H27県調査と比較すると、「インターネットによる人権侵害(28.4%→44.6%)」への関心が高くなっている。

R4国調査と比較すると、全体的に人権課題への関心が低くなっている。

【性別】

男性では、「障がい者」が最も高く、女性では、「子ども」が最も高くなっている。

【年齢別】

18～29歳と50～59歳では、「インターネットによる人権侵害」が最も高く、70歳以上では「高齢者」が最も高くなっている。他の年齢では、「子ども」が最も高くなっている。

【地区別】

福井地区、坂井地区、嶺南地区では、「子ども」が最も高くなっている。

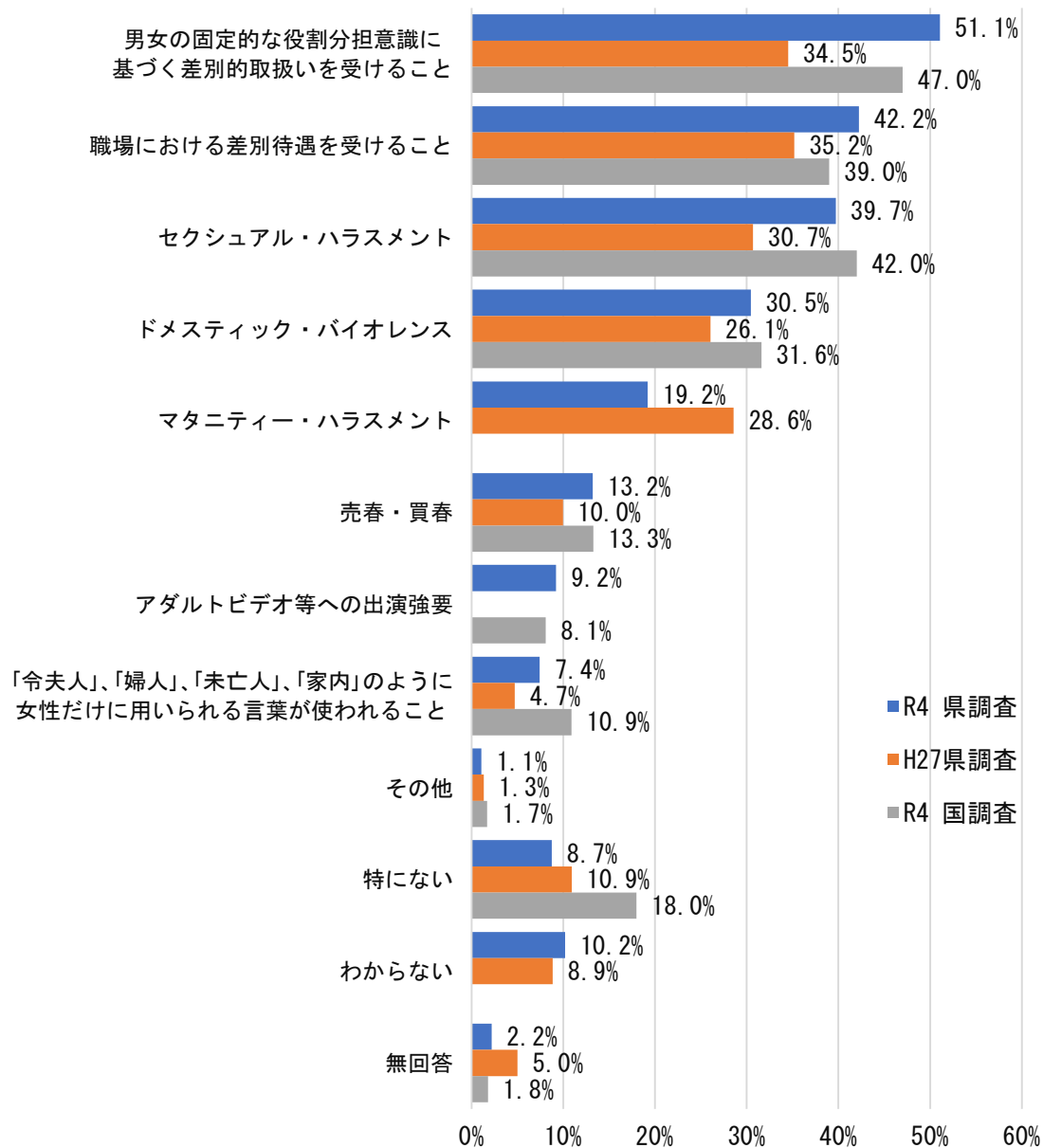
奥越地区では、「障がい者」が、丹南地区では、「インターネットによる人権侵害」が最も高くなっている。

【職業別】

自営業、教員では、「障がい者」が最も高く、会社員・各種団体役職員、公務員、学生では、「インターネットによる人権侵害」が最も高くなっている。

臨時・パート・アルバイトでは、「子ども」が最も高く、無職では、「高齢者」が最も高くなっている。

問6 性別に関し、あなたは現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。
(複数回答可)



「男女の固定的な役割分担意識に基づく差別的取扱いを受けること (51.1%)」が最も高く、次いで、「職場における差別待遇を受けること(42.2%)」、「セクシュアル・ハラスメント (39.7%)」が高くなっている。

H27 県調査と比較すると、「マタニティー・ハラスメント」が減少 (28.6%→19.2%) しているものの、他の項目は増加している。

R4国調査と比較すると、「男女の固定的な役割分担意識に基づく差別的取扱いを受けること(国:47.0%、県:51.1%)」、「職場における差別待遇を受けること(国:39.0%、県:42.2%)」が高く、「セクシャル・ハラスメント(国:42.0%、県:39.7%)」「ドメスティック・バイオレンス(国:31.6%、県:30.5%)」が低くなっている。

【性別】

男性、女性とも「男女の固定的な役割分担意識に基づく差別的取扱いを受けること」が最も高くなっている。

【年齢別】

18～29歳では、「セクシャル・ハラスメント」が最も高くなっている。

他の年齢では、「男女の固定的な役割分担意識に基づく差別的取扱いを受けること」が最も高くなっている。

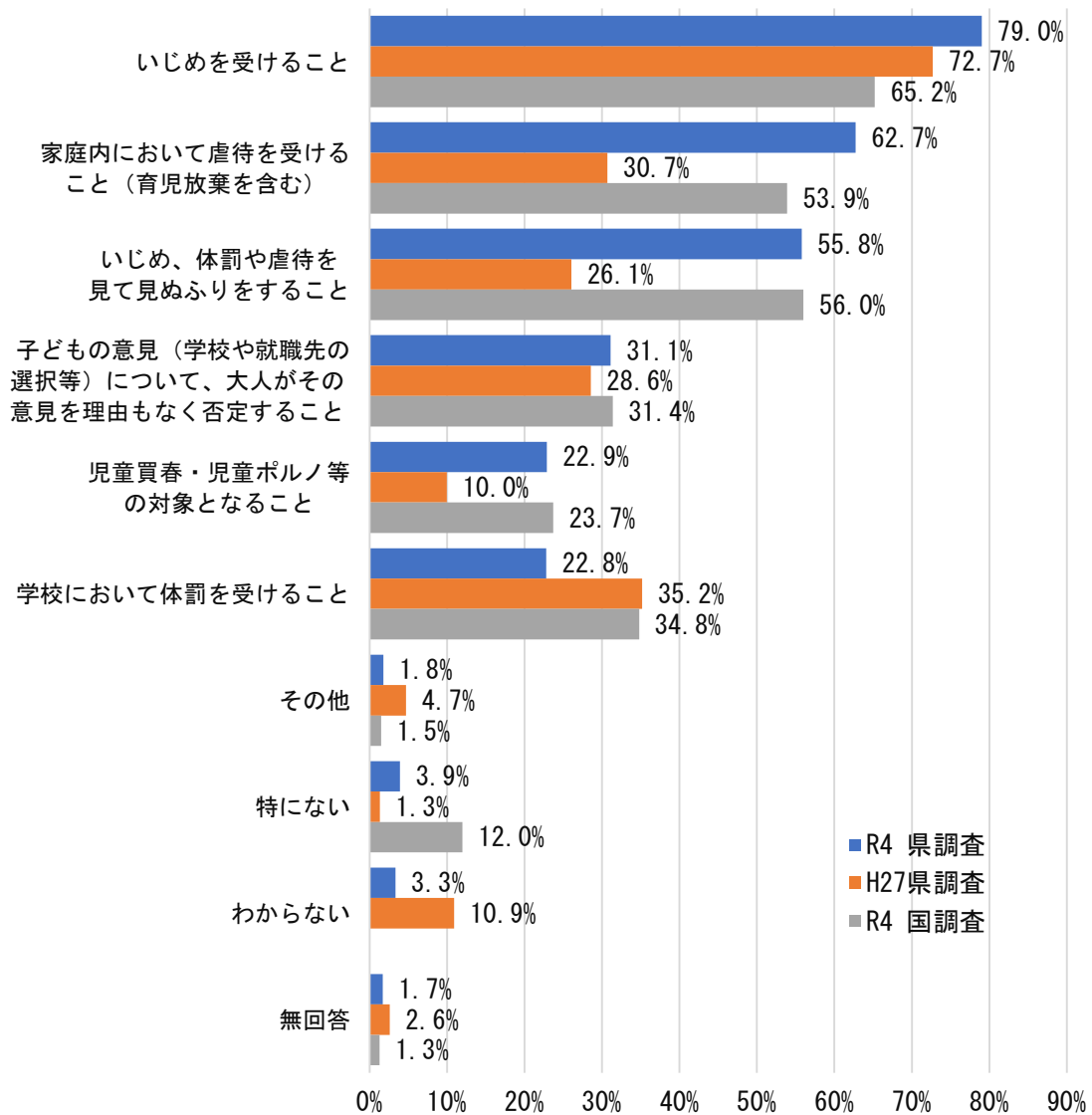
【地区別】

どの地区も「男女の固定的な役割分担意識に基づく差別的取扱いを受けること」が最も高くなっている。

【職業別】

学生では、「セクシャル・ハラスメント」が最も高く、他の職業では、「男女の固定的な役割分担意識に基づく差別的取扱いを受けること」が最も高くなっている。

問7 子どもに関し、あなたは現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。
(複数回答可)



「いじめを受けること(79.0%)」が最も高くなっている。

H27 県調査と比較すると、「家庭内において虐待を受けること (育児放棄を含む) (30.7%→62.7%)」「いじめ、体罰や虐待を見て見ぬふりをする (26.1%→55.8%)」が増加している。一方、「学校において体罰を受けること (35.2%→22.8%)」が減少している。

R4 国調査と比較すると、「いじめを受けること (国:65.2%、県:79.0%)」、「家庭内において虐待を受けること (育児放棄を含む) (国:53.9%、県:62.7%)」が高い一方、「学校において体罰を受けること (国:34.8%、県:22.8%)」は低くなっている。

【性別】

男性、女性とも「いじめ受けること」が最も高くなっている。

【年齢別】

どの年齢も「いじめ受けること」が最も高くなっている。

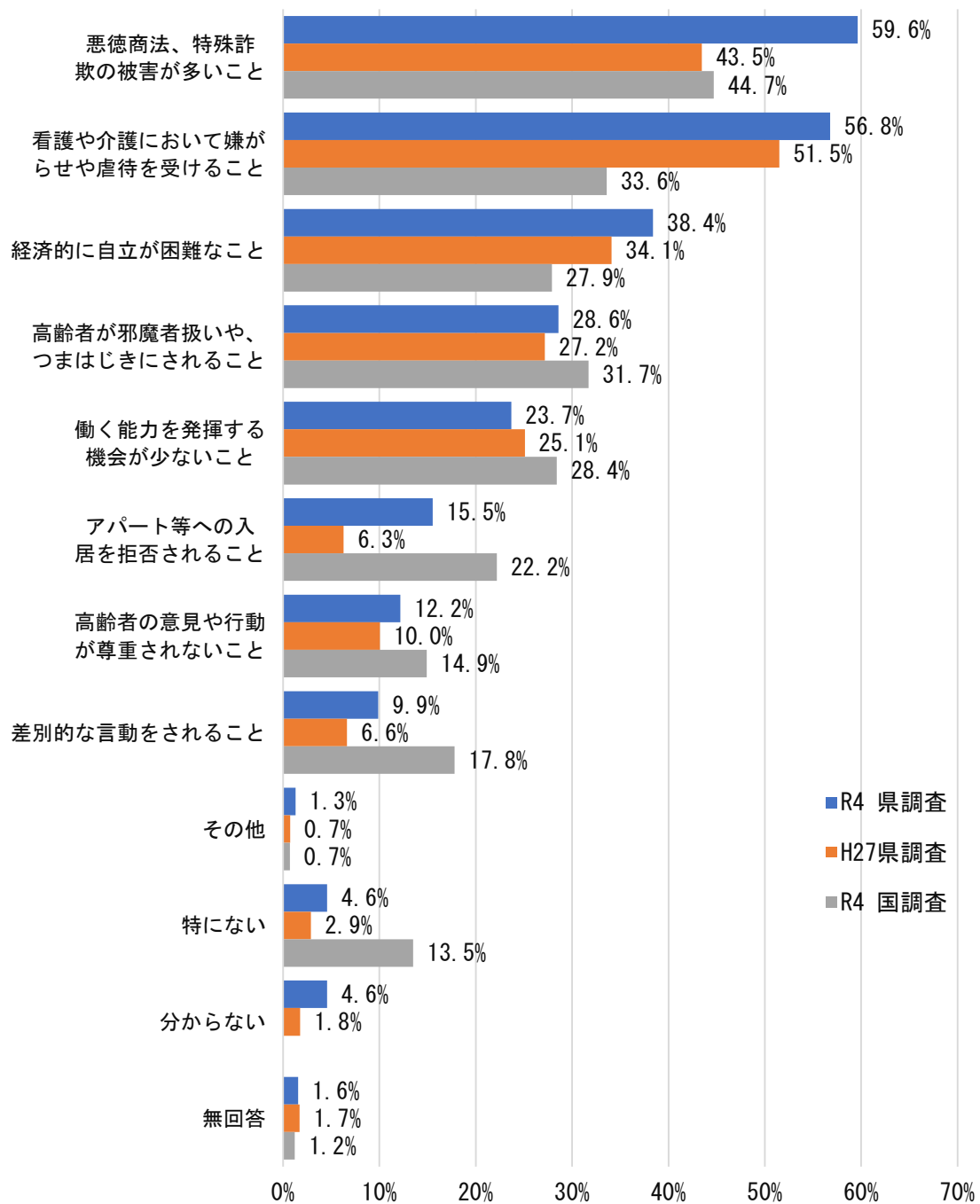
【地区別】

どの地区も「いじめを受けること」が最も高くなっている。

【職業別】

教員では、「いじめを受けること」と「家庭内において虐待を受けること（育児放棄を含む）」が最も高く、他の職業では「いじめを受けること」が最も高くなっている。

問8 高齢者に関し、あなたは現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。
(複数回答可)



「悪徳商法、特殊詐欺の被害が多いこと (59.6%)」が最も高く、次いで、「看護や介護において嫌がらせや虐待を受けること (56.8%)」、「経済的に自立が困難なこと (38.4%)」が高くなっている。

H27県調査と比較すると、「悪徳商法、特殊詐欺の被害が多いこと (43.5%→59.6%)」など多くの項目で増加している。

R 4 国調査と比較すると、「悪徳商法、特殊詐欺の被害が多いこと(国:44.7%、県:59.6%)」、「看護や介護において嫌がらせや虐待を受けること(国:33.6%、県:56.8%)」、「経済的に自立が困難なこと(国:27.9%、県:38.4%)」が高く、他の項目では低くなっている。

【性別】

男性では、「悪徳商法、特殊詐欺の被害が多いこと」が最も高く、女性では、「看護や介護において嫌がらせや虐待を受けること」が最も高くなっている。

【年齢別】

18～29歳、30～39歳、50～59歳では、「看護や介護において嫌がらせや虐待を受けること」が最も高く、他の年齢では、「悪徳商法、特殊詐欺の被害が多いこと」が最も高くなっている。

70歳以上では、「悪徳商法、特殊詐欺の被害が多いこと(56.9%)」、「看護や介護において嫌がらせや虐待を受けること(48.6%)」、「経済的に自立が困難なこと(36.0%)」、「高齢者が邪魔者扱いや、つまはじきにされること(26.2%)」の順となっている。

【地区別】

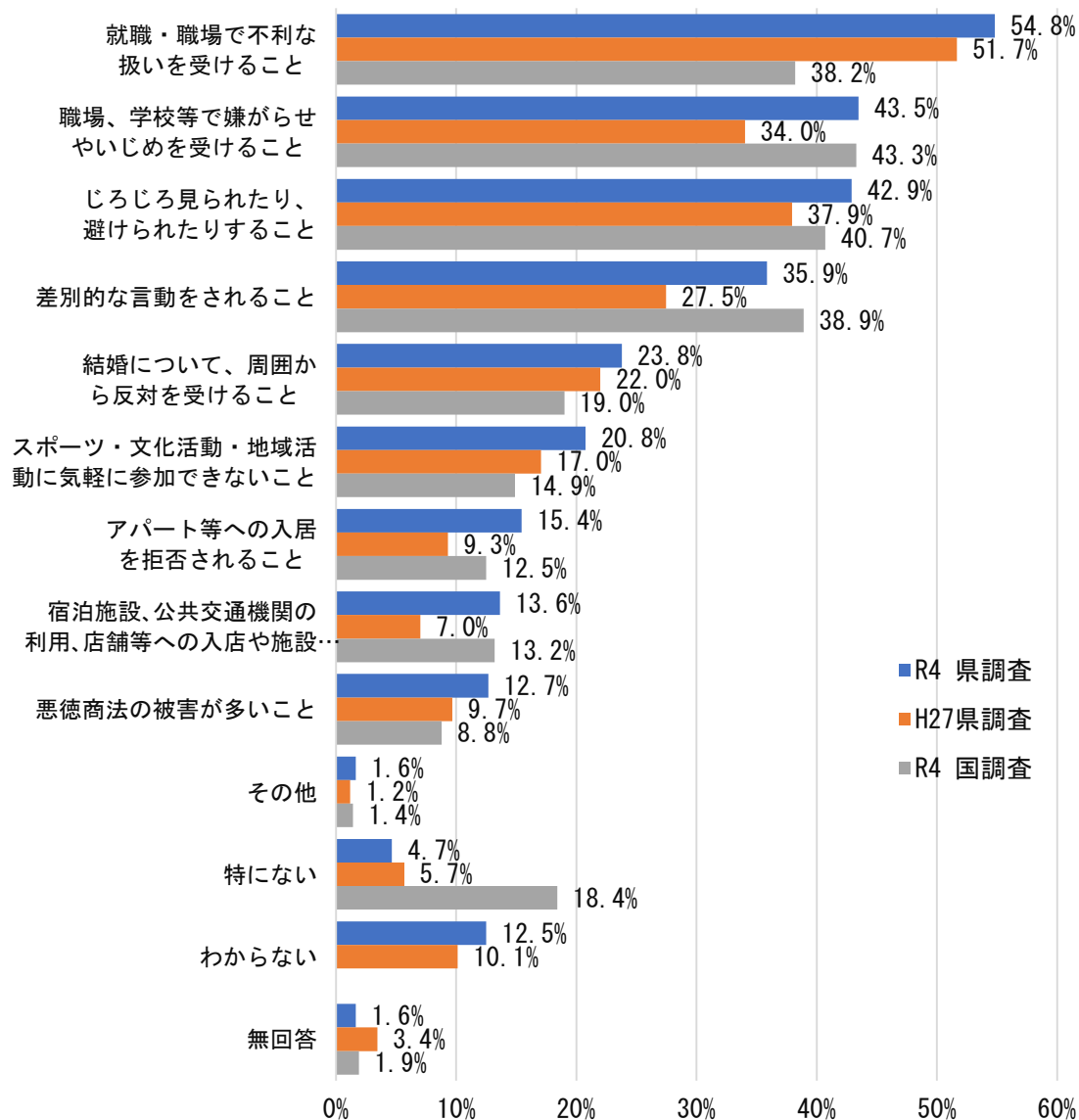
どの地区も「悪徳商法、特殊詐欺の被害が多いこと」が最も高くなっている。

【職業別】

自営業、公務員、教員、臨時・パート・アルバイトでは、「看護や介護において嫌がらせや虐待を受けること」が最も高く、会社員・各種団体役職員、無職では「悪徳商法、特殊詐欺の被害が多いこと」が最も高くなっている。

学生では、「看護や介護において嫌がらせや虐待を受けること」と「悪徳商法、特殊詐欺の被害が多いこと」が最も高くなっている。

問9 障がい者に関し、あなたは現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。
(複数回答可)



「就職・職場で不利な扱いを受けること（54.8%）」が最も高くなっている。

H27県調査と比較すると、「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」（34.0%→43.5%）など、全ての項目が増加している。

R4国調査と比較すると、「就職・職場で不利な扱いを受けること（国:38.2%、県:54.8%）」などが高くなっている。一方、「差別的な言動をされること」などは低くなっている。

【性別】

男性、女性とも「就職・職場で不利な扱いを受けること」が最も高くなっている。

【年齢別】

どの年齢も「就職・職場で不利な扱いを受けること」が最も高くなっている。

【地区別】

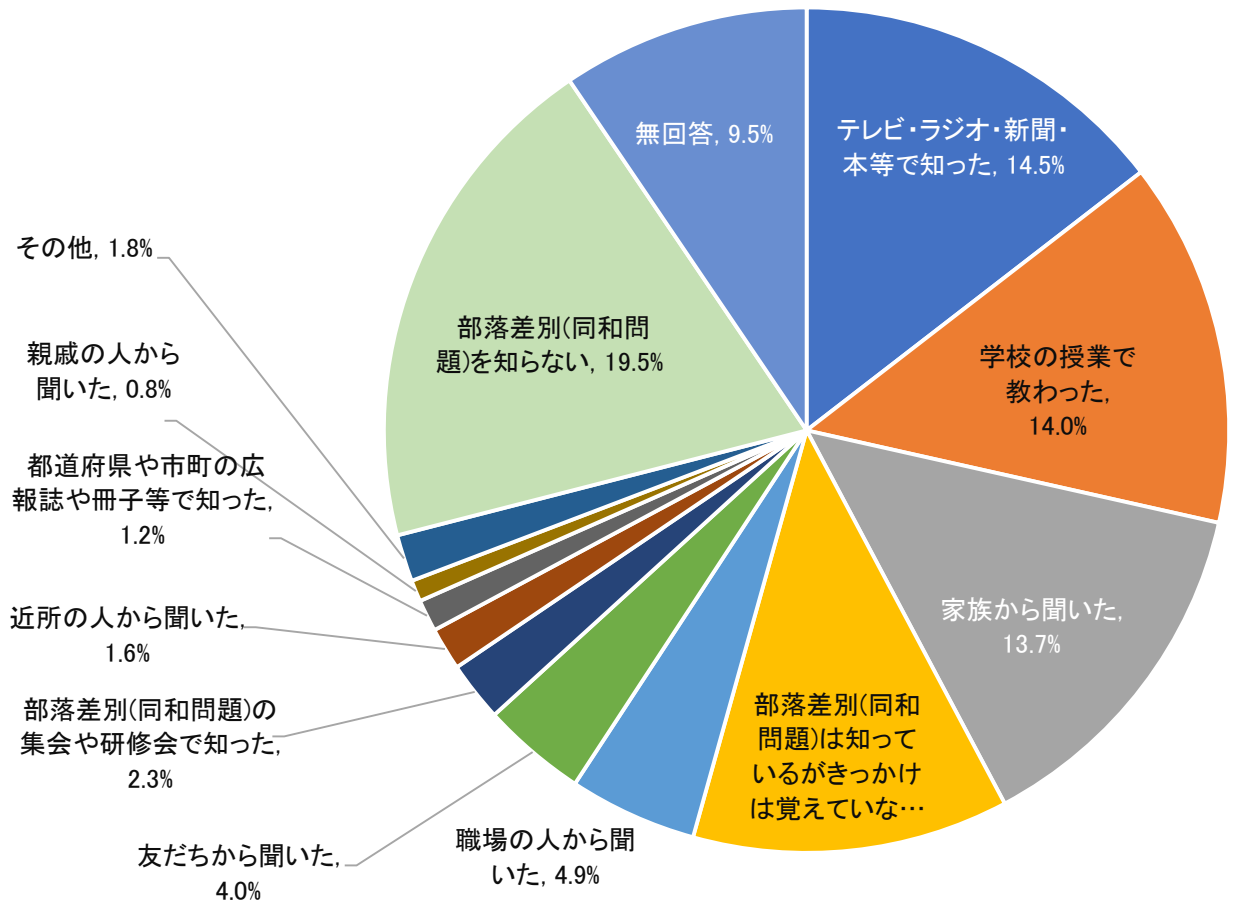
どの地区も「就職・職場で不利な扱いを受けること」が最も高くなっている。

【職業別】

教員では、「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」が最も高く、学生では、「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」と「就職・職場で不利な扱いを受けること」が最も高くなっている。

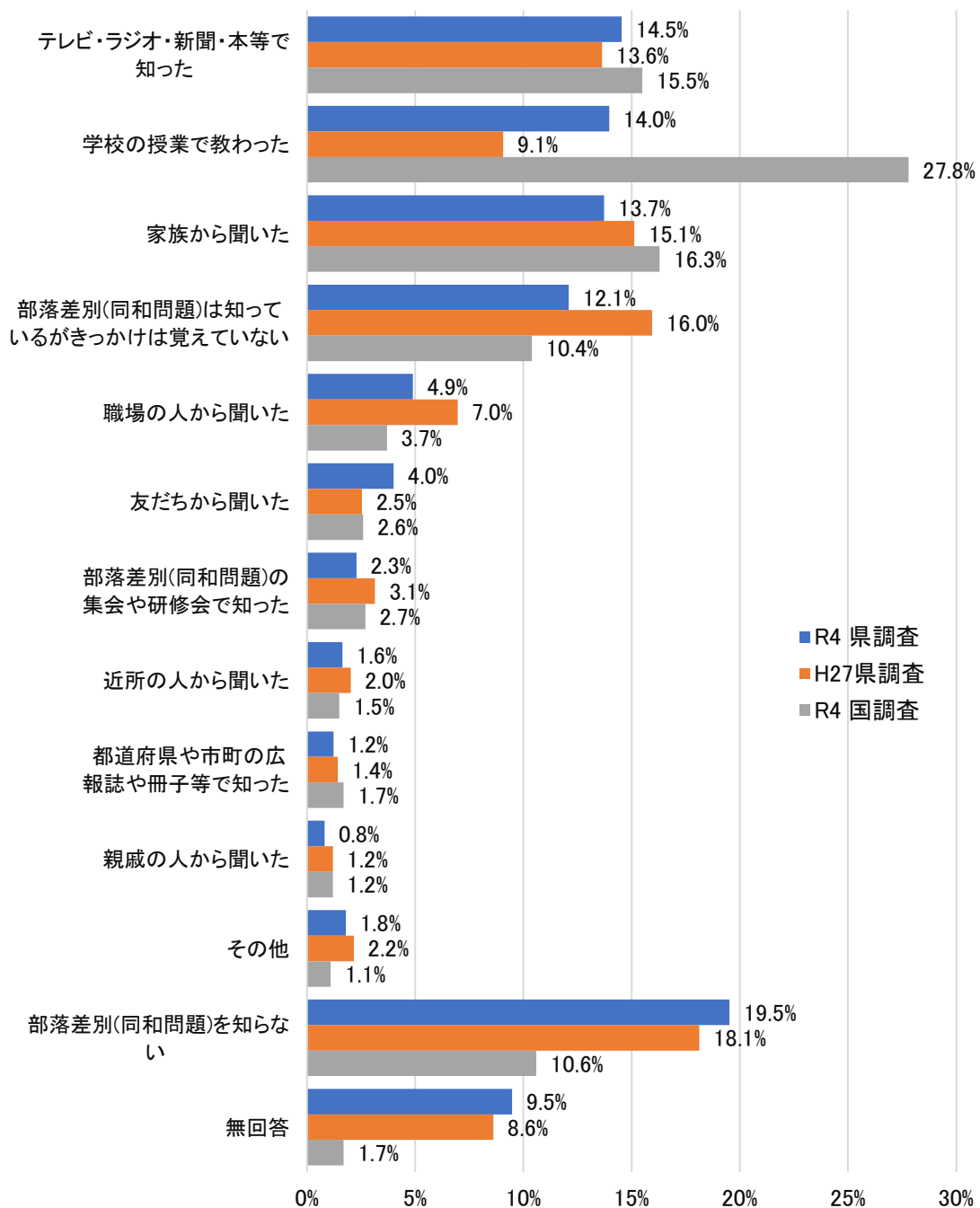
他の職業では、「就職・職場で不利な扱いを受けること」が最も高くなっている。

問10 部落差別(同和問題)について、あなたが初めて知ったきっかけは、何からですか。(1つ選択)



「テレビ・ラジオ・新聞・本等で知った (14.5%)」が最も高く、次いで、「学校の授業で教わった (14.0%)」、「家族から聞いた (13.7%)」が高くなっている。

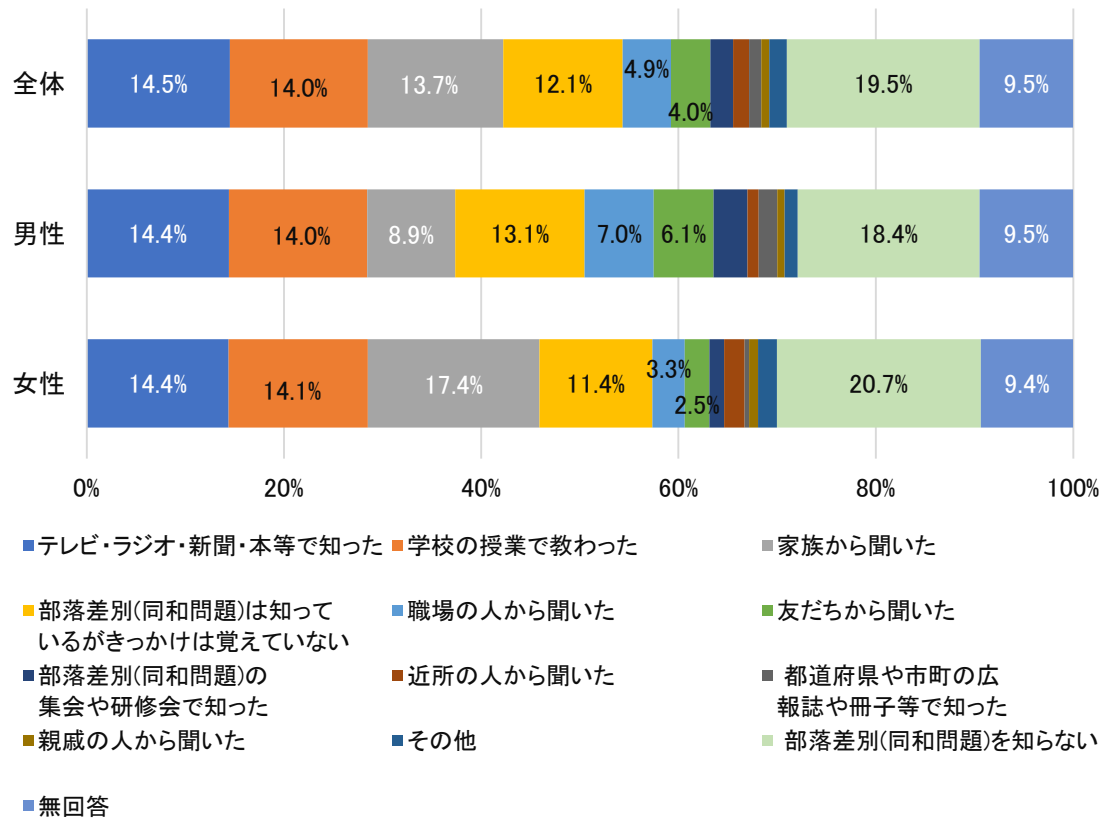
【経年比較】



H27 県調査と比較すると、「学校の授業で教わった (9.1%→14.0%)」が増加している。一方、「部落差別 (同和問題) は知っているがきっかけは覚えていない (16.0%→12.1%)」が減少している。

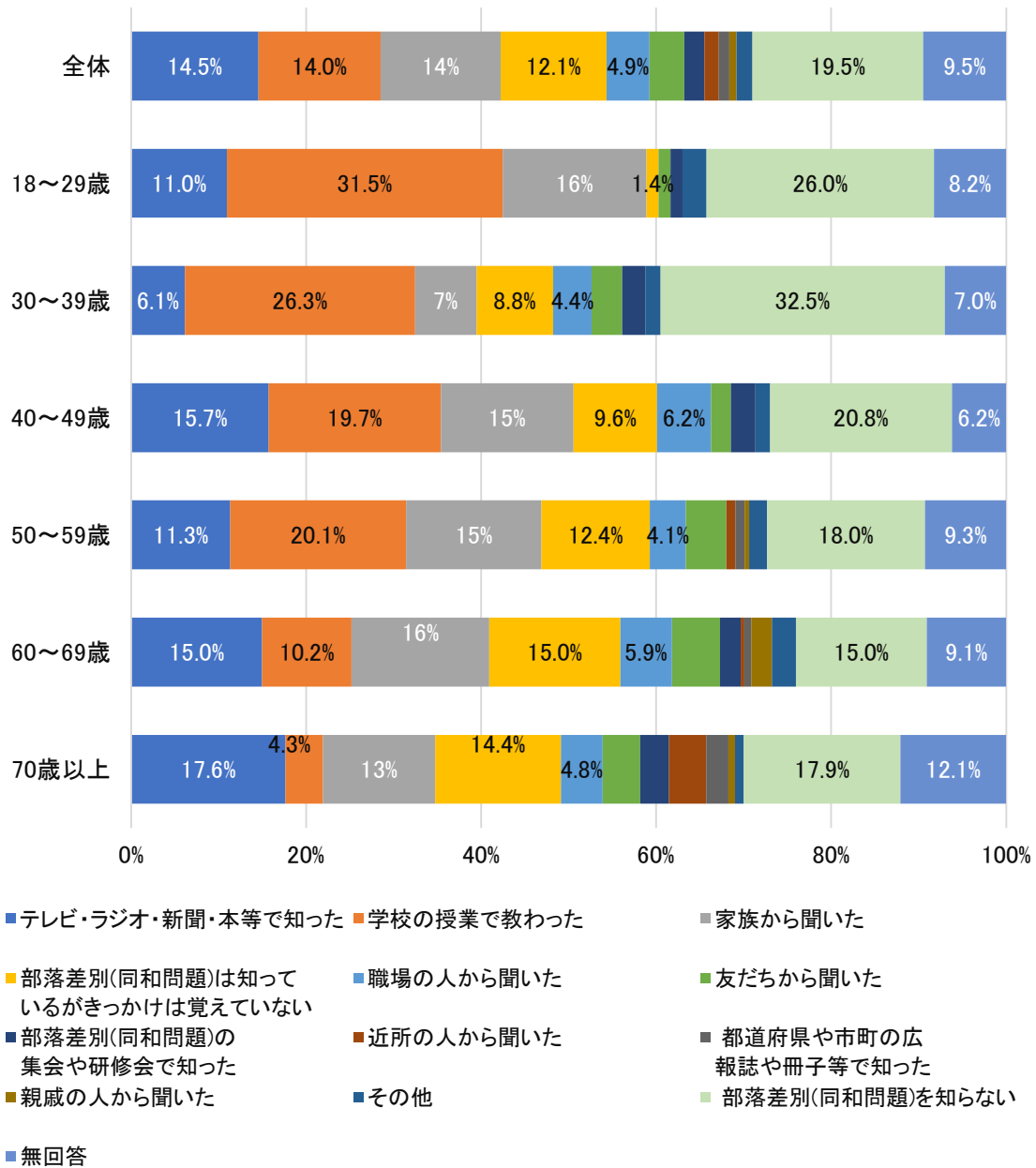
「部落差別の実態に係る調査 (法務省人権擁護局) (令和元年調査。以下、R1 国調査)」と比較すると、「部落差別 (同和問題) を知らない (国:10.6%、県:19.5%)」が高く、「学校の授業で教わった (国:27.8%、県:14.0%)」が低くなっている。

【性別】



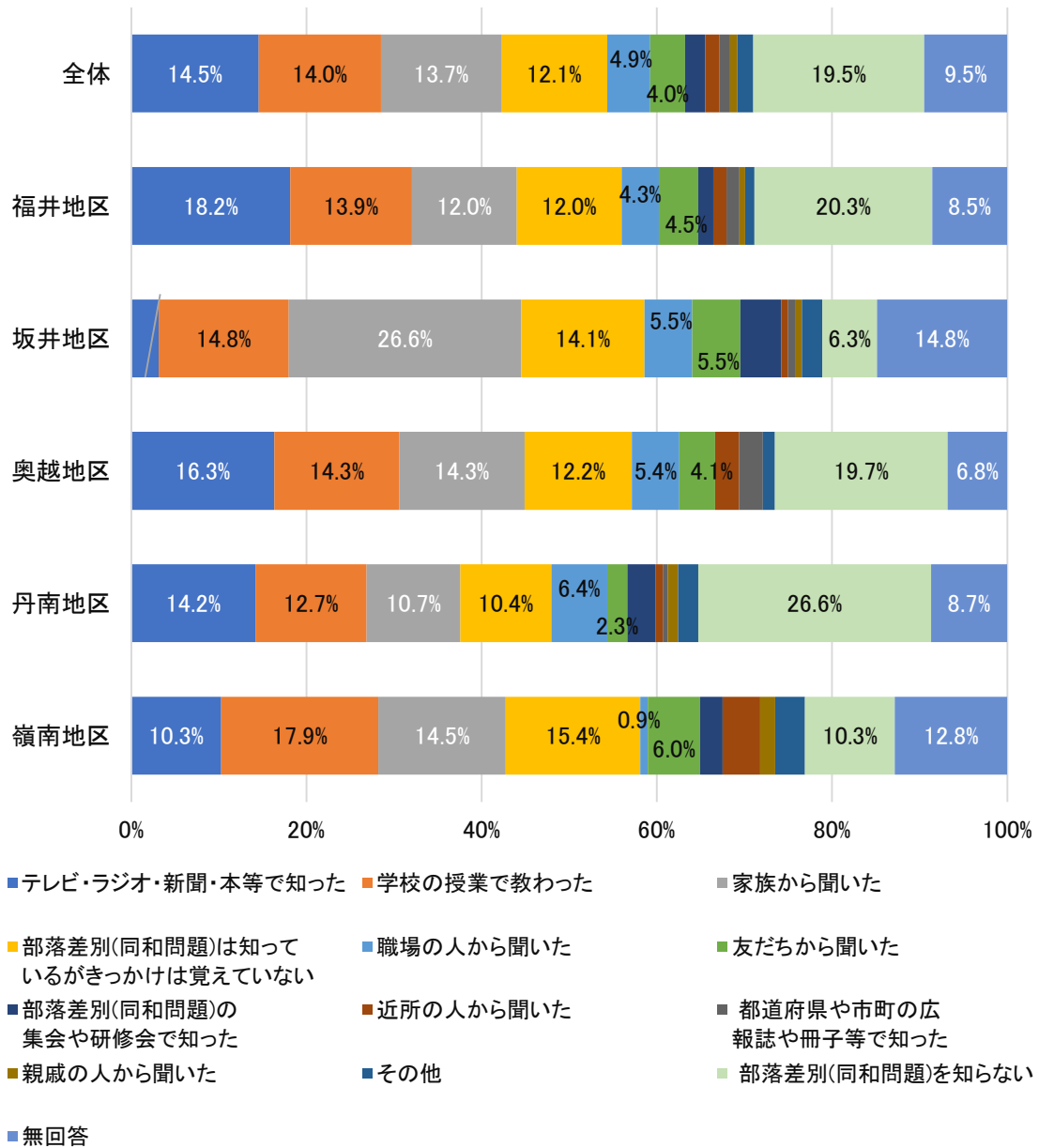
男性では、「テレビ・ラジオ・新聞・本等で知った」が最も高く、女性では、「家族から聞いた」が最も高くなっている。

【年齢別】



若い世代ほど、「学校の授業で教わった」が高くなっている。また、「部落差別（同和問題）を知らない」は、30~39歳(32.5%)が高く、60~69歳(15.0%)が低くなっている。

【地区別】

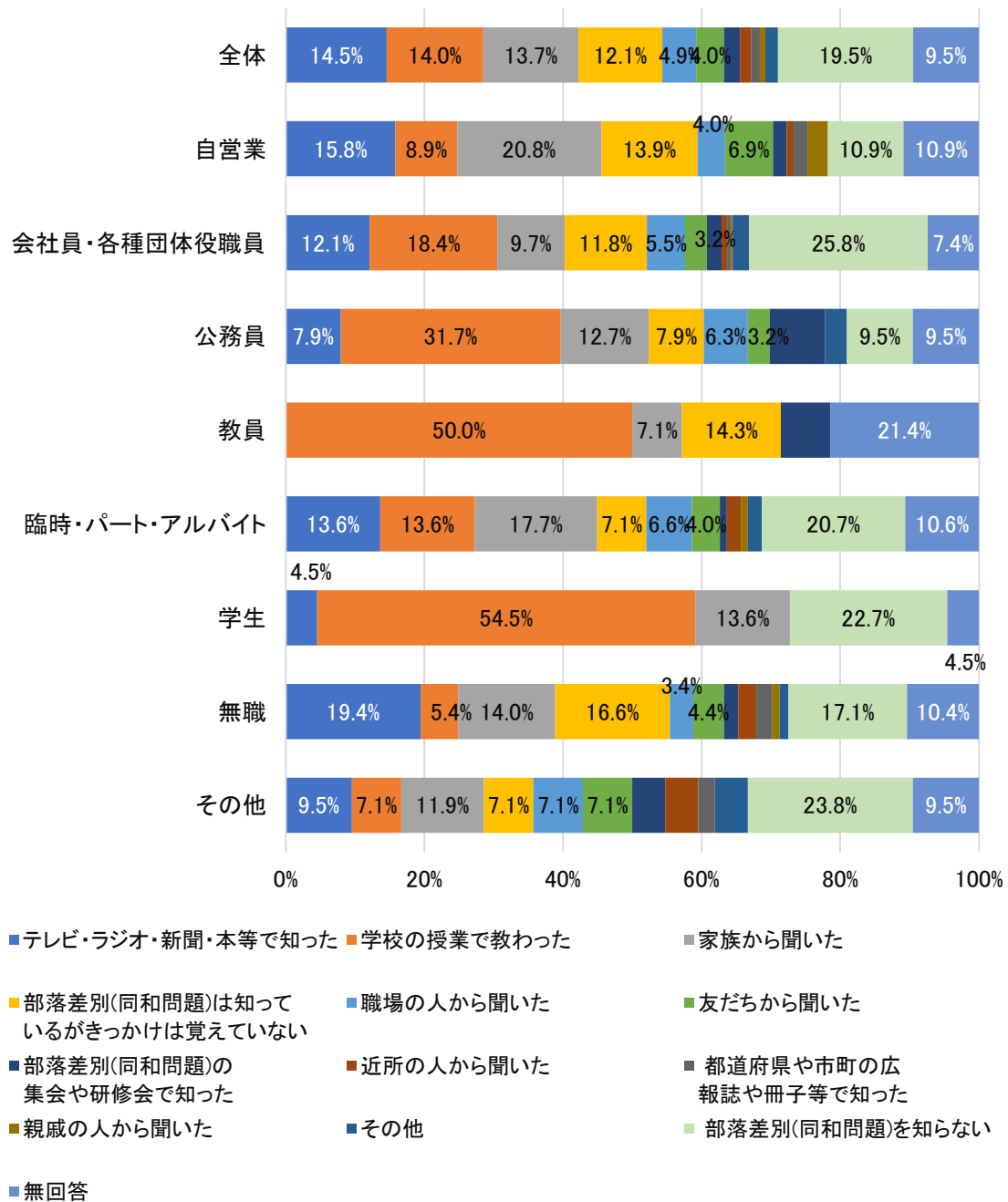


福井地区、奥越地区、丹南地区では、「テレビ・ラジオ・新聞・本等で知った」が最も高くなっている。

坂井地区では、「家族から聞いた」が最も高くなっている。

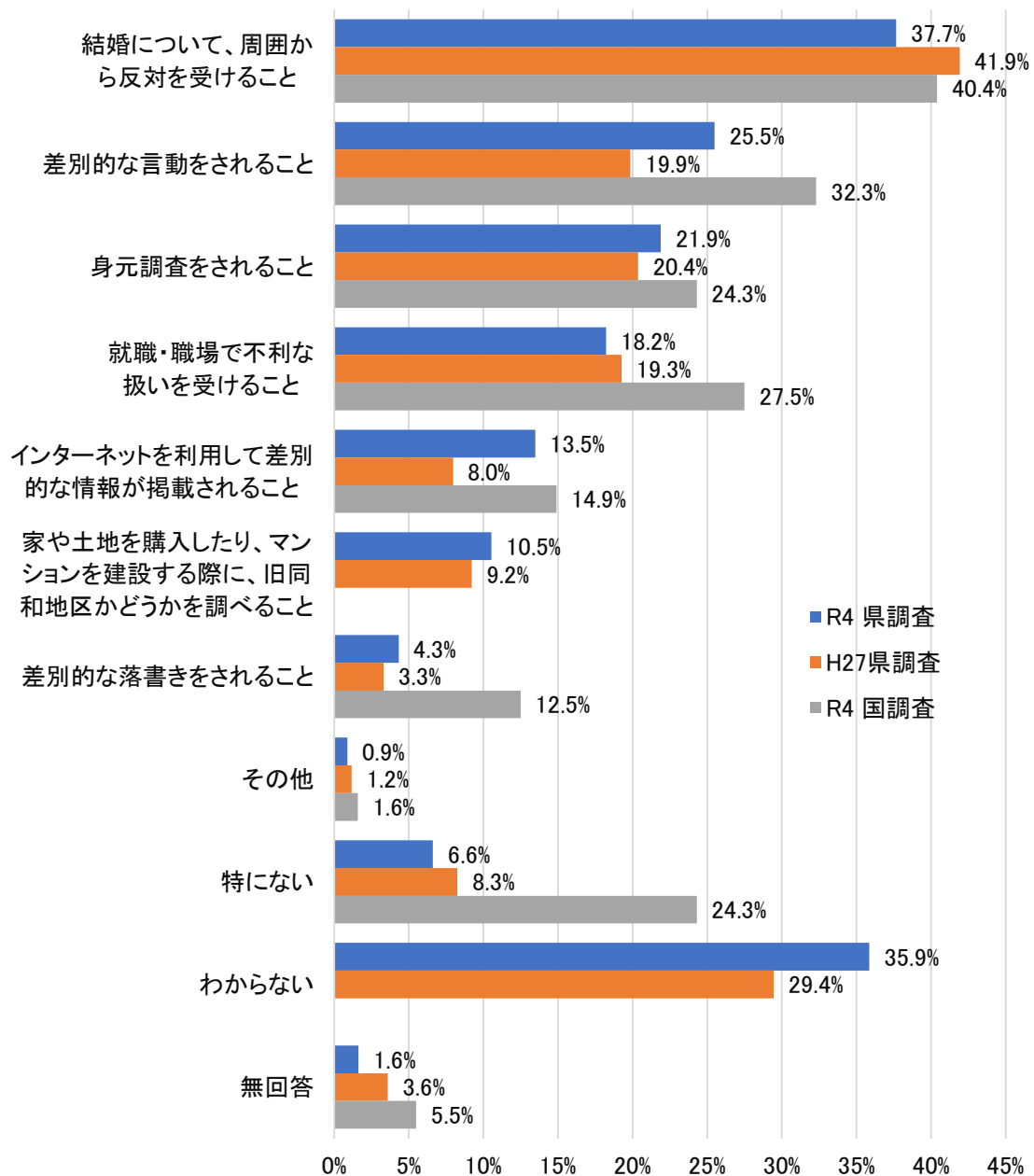
嶺南地区では、「学校の授業で教わった」が最も高くなっている。

【職業別】



自営業、臨時・パート・アルバイトでは、「家族から聞いた」が最も高くなっている。
 会社員・各種団体役職員、公務員、教員、学生では、「学校の授業で教わった」が最も高くなっている。
 無職では、「テレビ・ラジオ・新聞・本等で知った」が最も高くなっている。

問 1 1 部落差別（同和問題）に関し、あなたは現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。（複数回答可）



「結婚について、周囲から反対を受けること (37.7%)」が最も高く、次いで、「わからない (35.9%)」が高くなっている。

H27 県調査と比較すると、「差別的な言動をされること (19.9%→25.5%)」、「インターネットを利用して差別的な情報が掲載されること (8.0%→13.5%)」などが増加している。

R4 国調査と比較すると、多くの項目で低くなっている。

【性別】

男性、女性とも「結婚について、周囲から反対を受けること」が最も高くなっている。

【年齢別】

18～29歳、40～49歳、50～59歳、60～69歳では、「結婚について、周囲から反対を受けること」が最も高く、30～39歳、70歳以上では、「わからない」が最も高くなっている。

【地区別】

坂井地区、嶺南地区では、「結婚について、周囲から反対を受けること」が最も高く、福井地区、奥越地区では、「わからない」が最も高くなっている。

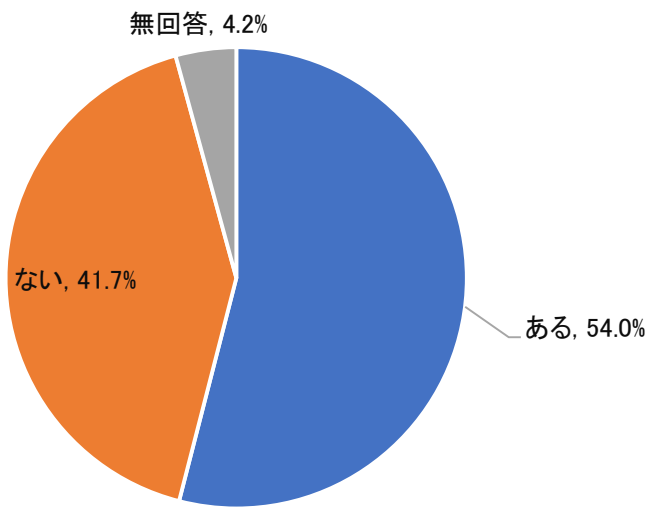
丹南地区は、「わからない」と「結婚について、周囲から反対を受けること」が最も高くなっている。

【職業別】

自営業、会社員・各種団体役職員、公務員、教員、学生では、「結婚について、周囲から反対を受けること」が最も高く、無職では、「わからない」が最も高くなっている。

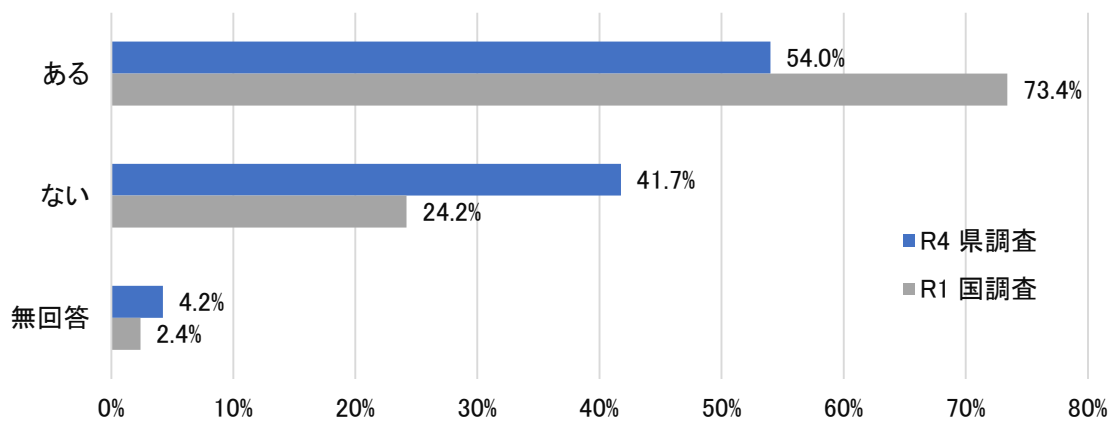
臨時・パート・アルバイトでは、「わからない」と「結婚について、周囲から反対を受けること」が最も高くなっている。

問12(1) あなたは、現在でも部落差別があると思いますか。(1つ選択)



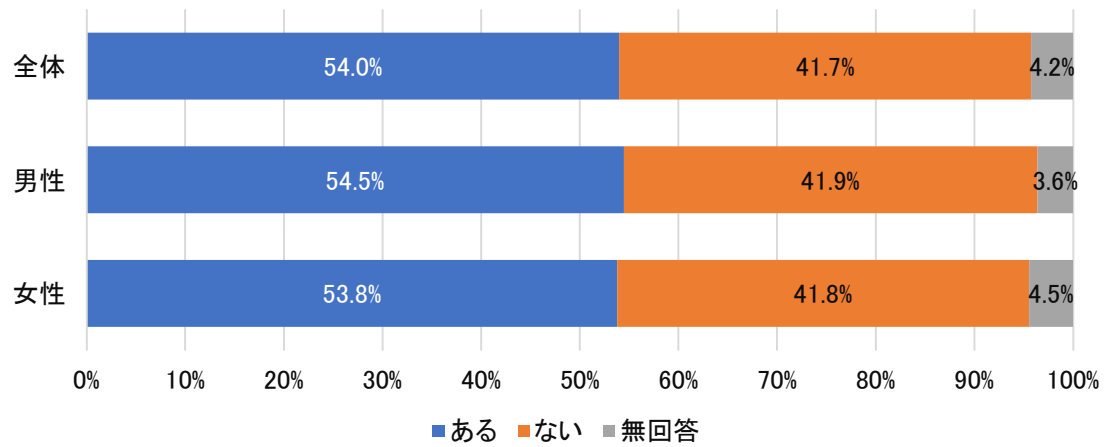
「ある (54.0%)」が5割を超えている。

【国との比較】



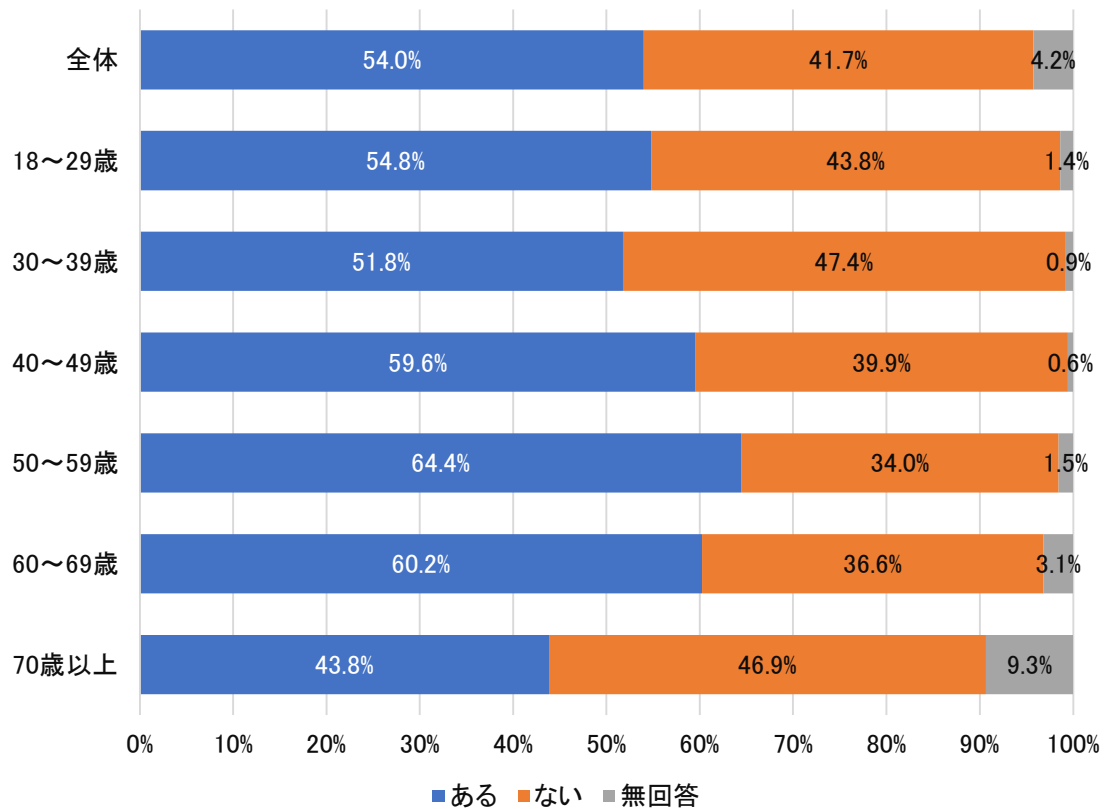
R1 国調査と比較すると、「ある (国:73.4%、県:54.0%)」が低く、「ない (国:24.2%、県:41.7%)」が高くなっている。

【性別】



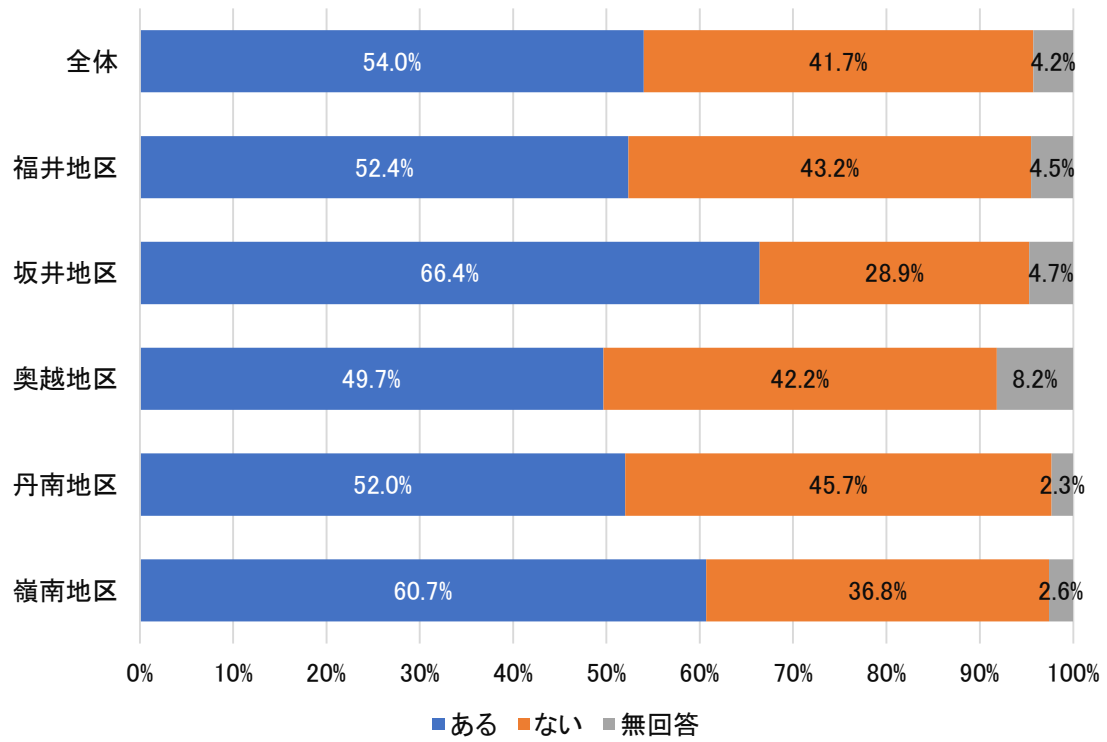
男性、女性とも「ある」が高くなっている。

【年齢別】



70歳以上では、「ない」が高く、他の年齢では「ある」が高くなっている。

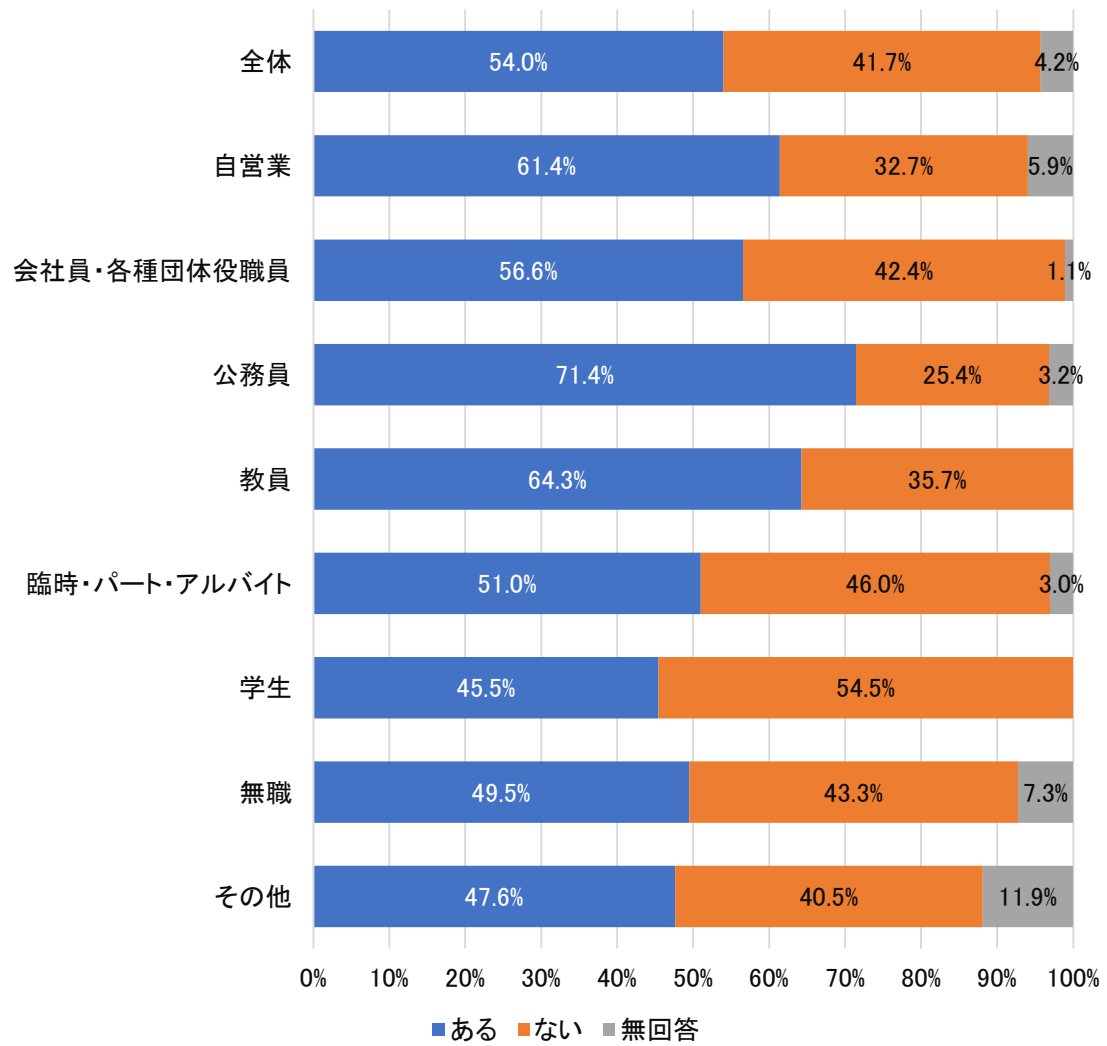
【地区別】



どの地区も「ある」が高くなっている。

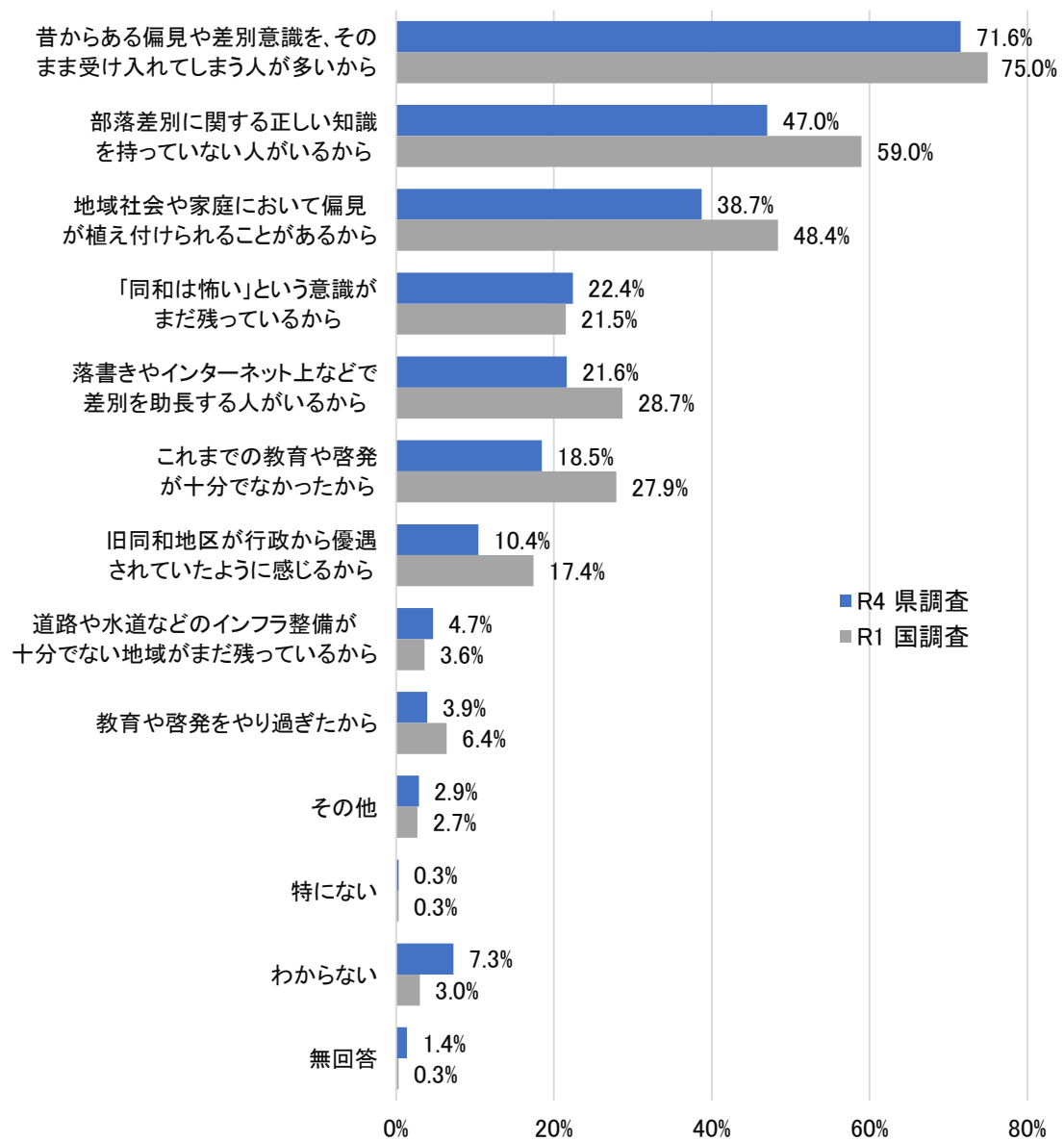
「ある」は、坂井地区が最も高く、奥越地区が最も低くなっている。

【職業別】



学生以外の職業では、「ある」が最も高くなっている。
公務員では、「ある」が最も高く、学生では、「ある」が最も低くなっている。

問12(2) 現在でも部落差別が残っているとすれば、その原因はどこにあると思いますか。(複数回答可)



「昔からある偏見や差別意識を、そのまま受け入れてしまう人が多いから (71.6%)」が最も高く、次いで、「部落差別に関する正しい知識を持っていない人がいるから (47.0%)」、「地域社会や家庭において偏見が植え付けられることがあるから (38.7%)」が高くなっている。

R1国調査と比較すると、多くの項目で低くなっており、「わからない(国:3.0%、県:7.3%)」が高くなっている。

【性 別】

男性、女性とも「昔からある偏見や差別意識を、そのまま受け入れてしまう人が多いから」が最も高くなっている。

【年齢別】

どの年齢も「昔からある偏見や差別意識を、そのまま受け入れてしまう人が多いから」が最も高くなっている。

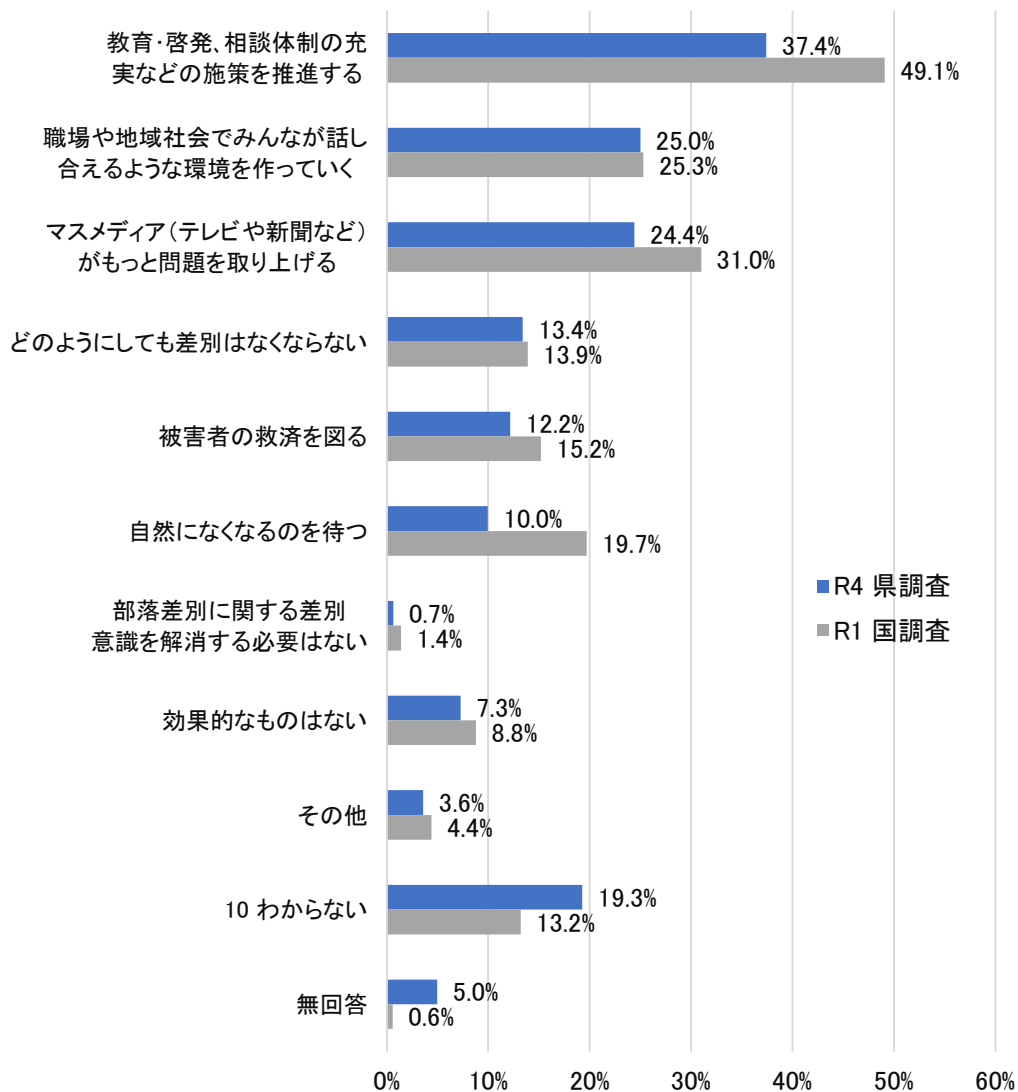
【地区別】

どの地区も「昔からある偏見や差別意識を、そのまま受け入れてしまう人が多いから」が最も高くなっている。

【職業別】

どの職業も「昔からある偏見や差別意識を、そのまま受け入れてしまう人が多いから」が最も高くなっている。

問 1 3 あなたは、部落差別に関する問題を解消するために効果的と思われることは何ですか。(複数回答可)



「教育・啓発、相談体制の充実などの施策を推進する (37.4%)」が最も高く、次いで、「職場や地域社会でみんなが話し合えるような環境を作っていく (25.0%)」、「マスメディア (テレビや新聞など) がもっと問題を取り上げる (24.4%)」が高くなっている。

R 1 国調査と比較すると、いずれの調査も「教育・啓発、相談体制の充実などの施策を推進する (国:49.1%、県:37.4%)」が最も高くなっている。

【性別】

男性、女性とも「教育・啓発、相談体制の充実などの施策を推進する」が最も高くなっている。

【年齢別】

どの年齢も「教育・啓発、相談体制の充実などの施策を推進する」が最も高くなっている。

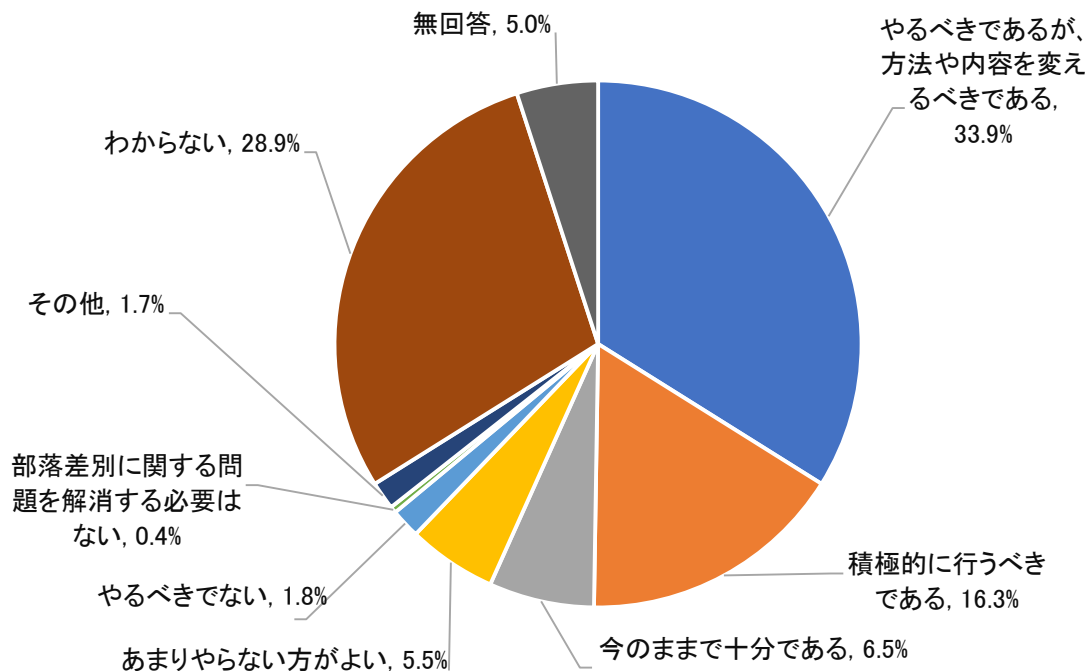
【地区別】

どの地区も「教育・啓発、相談体制の充実などの施策を推進する」が最も高くなっている。

【職業別】

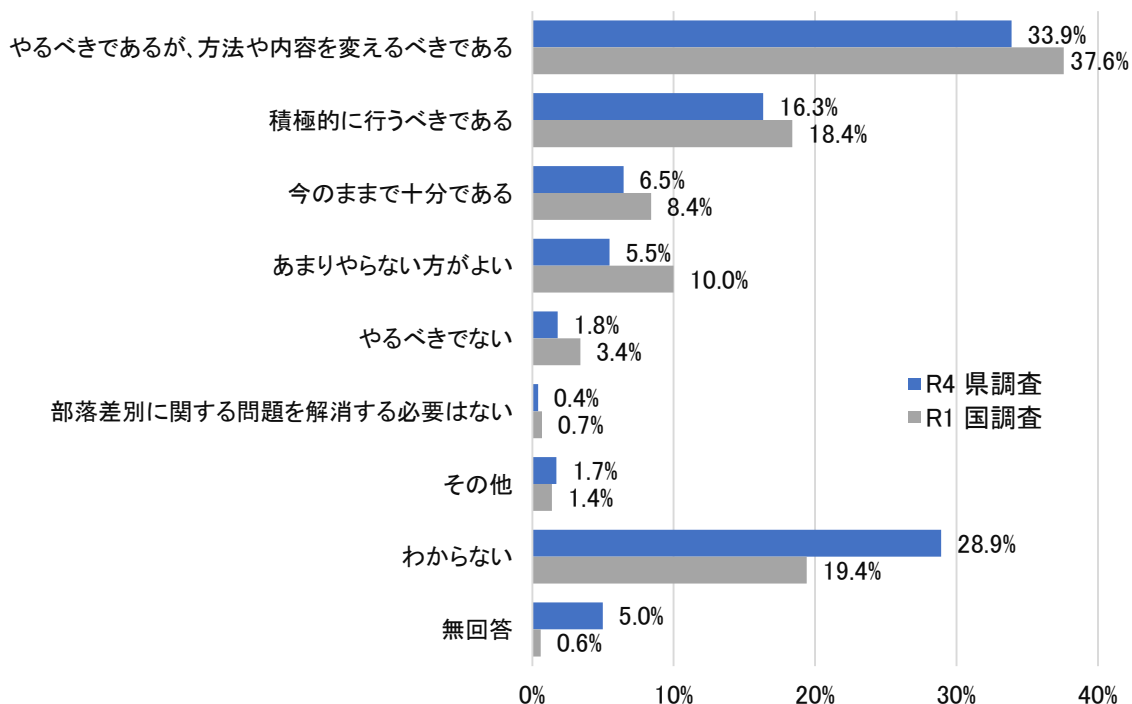
学生では、「職場や地域社会でみんなが話し合えるような環境を作っていく」が最も高く、他の職業では、「教育・啓発、相談体制の充実などの施策を推進する」が最も高くなっている。

問14 あなたは、部落差別に関する問題を解消するために、学校教育や啓発（講演会、研修会、広報等）を今後どのようにすればよいと思いますか。（1つ選択）



「やるべきであるが、方法や内容を変えるべきである（33.9%）」が最も高く、次いで、「わからない（28.9%）」、「積極的に行うべきである（16.3%）」が高くなっている。一方、「あまりやらない方がよい（5.5%）」、「やるべきでない（1.8%）」は低くなっている。

【国との比較】



R1国調査と比較すると、いずれの調査も「やるべきであるが、方法や内容を変えるべきである(国:37.6%、県:33.9%)」が最も高くなっている。

【性別】

男性、女性とも「やるべきであるが、方法や内容を変えるべきである」が最も高くなっている。

【年齢別】

70歳以上では、「わからない」が最も高く、次いで、「やるべきであるが、方法や内容を変えるべきである」が高くなっている。

他の年齢では、「やるべきであるが、方法や内容を変えるべきである」が最も高く、次いで、「わからない」が高くなっている。

【地区別】

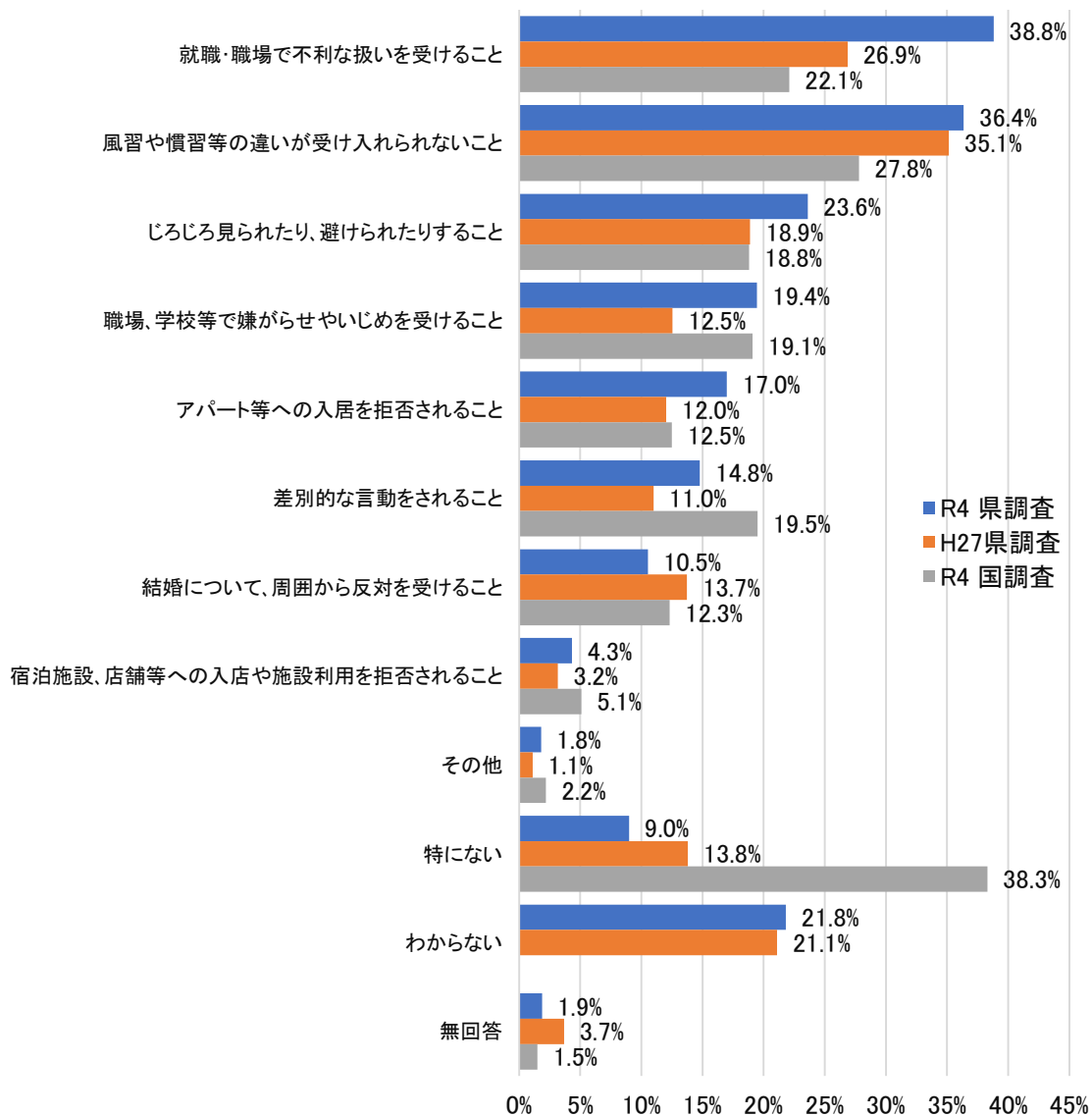
福井地区では、「わからない」が最も高く、次いで、「やるべきであるが、方法や内容を変えるべきである」が高くなっている。

他の地区では、「やるべきであるが、方法や内容を変えるべきである」が最も高く、次いで、「わからない」が高くなっている。

【職業別】

無職では、「わからない」が最も高く、他の職業では、「やるべきであるが、方法や内容を変えるべきである」が高くなっている。

問 1 5 日本に居住している外国人に関し、あなたは現在、どのような人権問題が起きて
いると思いますか。(複数回答可)



「就職・職場で不利な扱いを受けること(38.8%)」が最も高く、次いで、「風習や慣習等の違いが受け入れられないこと(36.4%)」、「じろじろ見られたり、避けられたりすること(23.6%)」が高くなっている。

H27 県調査と比較すると、「就職・職場で不利な扱いを受けること(26.9%→38.8%)」など多くの項目が増加している。

R4 国調査と比較すると、「就職・職場で不利な扱いを受けること(国:22.1%、県:38.8%)」、「風習や慣習等の違いが受け入れられないこと(国:27.8%、県:36.4%)」、「じろじろ見られたり、避けられたりすること(国:18.8%、県:23.6%)」が高く、「特にない(国:38.3%、県:9.0%)」が低くなっている。

【性別】

男性では、「風習や慣習等の違いが受け入れられないこと」、女性では、「就職・職場で不利な扱いを受けること」が最も高くなっている。

【年齢別】

18～29歳、30～39歳では、「風習や慣習等の違いが受け入れられないこと」、40～49歳、50～59歳、70歳以上では、「就職・職場で不利な扱いを受けること」が最も高くなっている。

60～69歳では、「風習や慣習等の違いが受け入れられないこと」と「就職・職場で不利な扱いを受けること」が最も高くなっている。

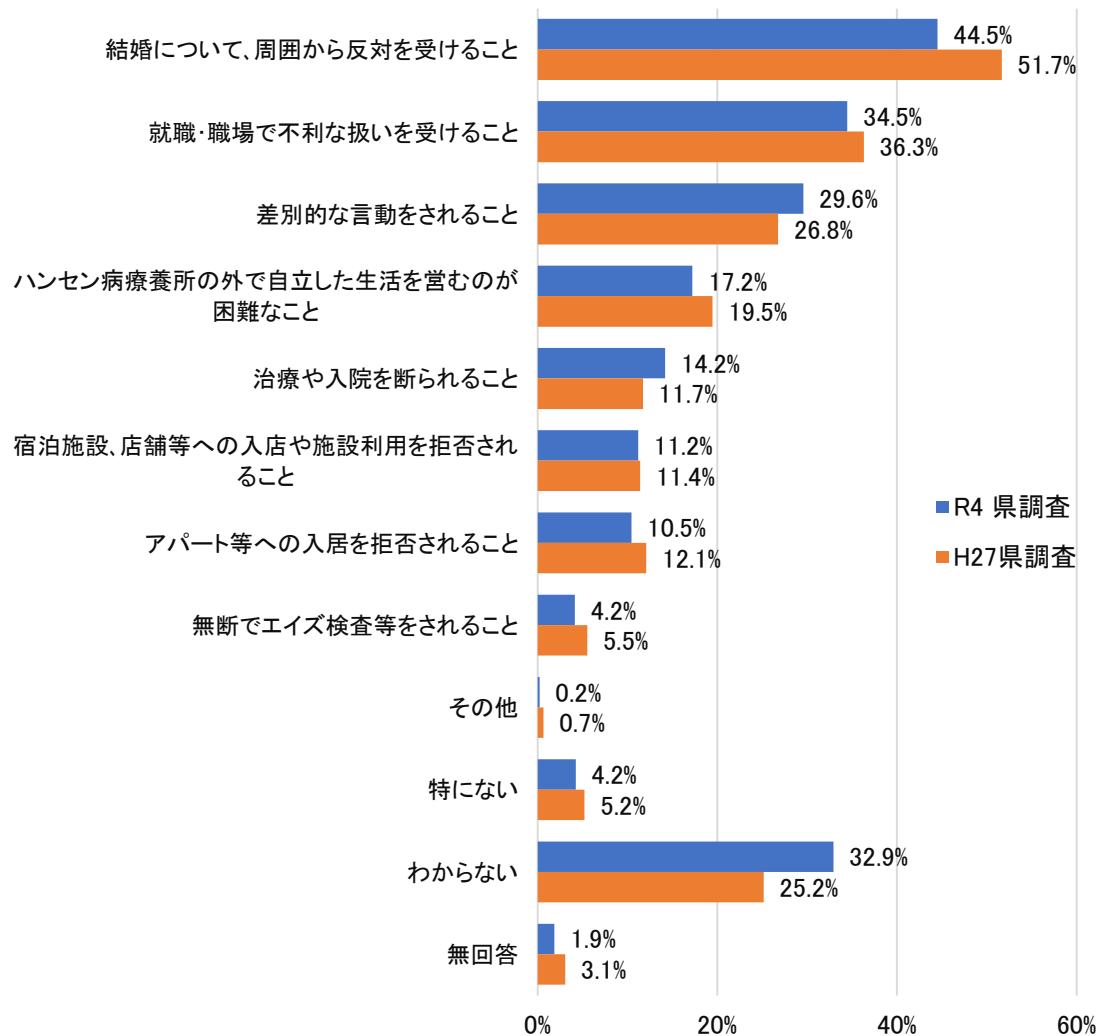
【地区別】

福井地区、坂井地区、丹南地区では、「就職・職場で不利な扱いを受けること」が最も高く、奥越地区、嶺南地区では、「風習や慣習等の違いが受け入れられないこと」が最も高くなっている。

【職業別】

自営業、会社員・各種団体役職員、教員、臨時・パート・アルバイト、無職では、「就職・職場で不利な扱いを受けること」が最も高く、公務員、学生では、「風習や慣習等の違いが受け入れられないこと」が最も高くなっている。

問 1 6 感染症患者やその家族に関し、あなたは現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(複数回答可)



「結婚について、周囲から反対を受けること (44.5%)」が最も高く、次いで、「就職・職場で不利な扱いを受けること (34.5%)」、「差別的な言動をされること (29.6%)」が高くなっている。

H27 県調査と比較すると、「結婚について、周囲から反対を受けること (51.7%→44.5%)」、「就職・職場で不利な扱いを受けること (36.3%→34.5%)」が減少している。

【性別】

男性、女性とも「結婚について、周囲から反対を受けること」が最も高くなっている。

【年齢別】

30～39歳では、「差別的な言動をされること」が高く、70歳以上では「わからない」が最も高くなっている。他の年齢では、「結婚について、周囲から反対を受けること」が最も高くなっている。

【地区別】

どの地区も「結婚について、周囲から反対を受けること」が最も高くなっている。

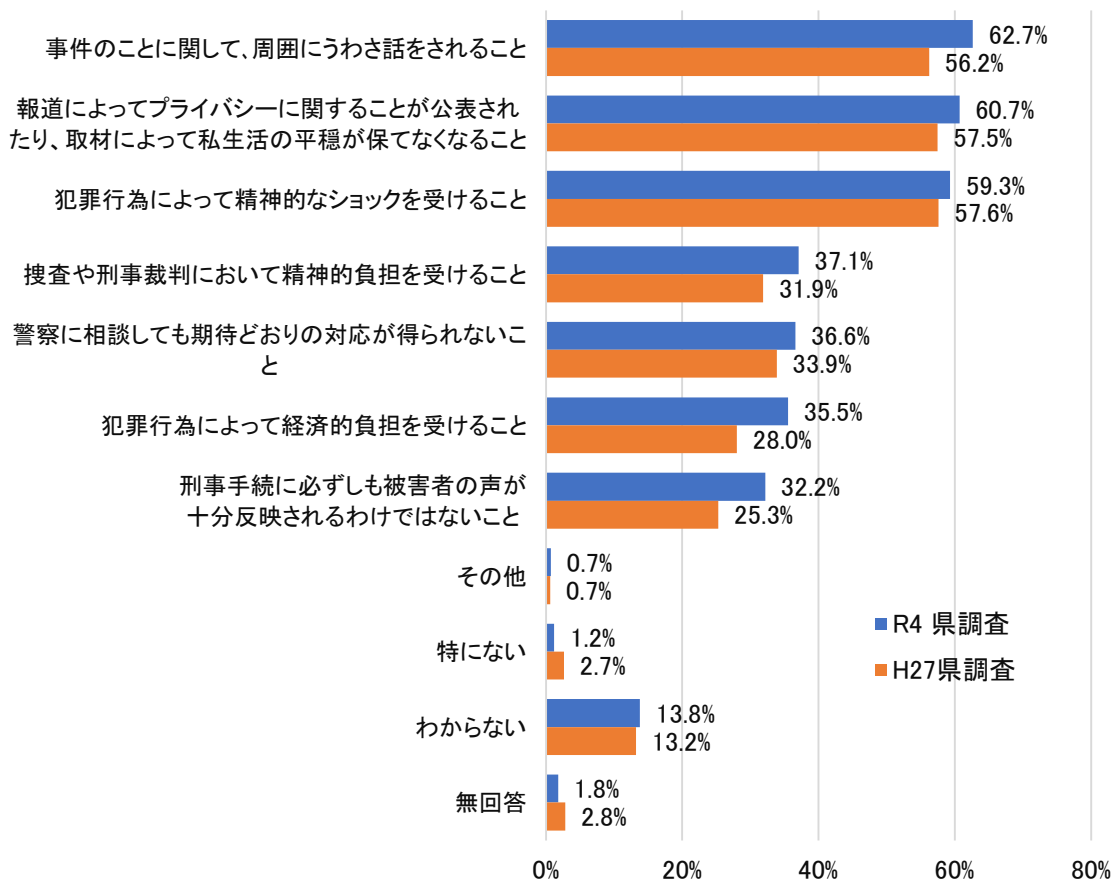
【職業別】

教員では、「差別的な言動をされること」が最も高く、無職では「わからない」が最も高くなっている。

公務員では、「結婚について、周囲から反対を受けること」と「差別的な言動をされること」が最も高くなっている。

他の職業では、「結婚について、周囲から反対を受けること」が最も高くなっている。

問 1 7 犯罪被害者やその家族等に関し、あなたは現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(複数回答可)



「事件のことに、周囲にうわさ話をされること (62.7%)」が最も高く、次いで、「報道によってプライバシーに関することが公表されたり、取材によって私生活の平穩が保てなくなること (60.7%)」、「犯罪行為によって精神的なショックを受けること (59.3%)」が高くなっている。

H 2 7 県調査と比較すると、「事件のことに、周囲にうわさ話をされること (56.2%→62.7%)」など多くの項目が増加している。

【性別】

男性、女性とも「事件のことにに関して、周囲にうわさ話をされること」が最も高くなっている。

【年齢別】

18～29歳、40～49歳、50～59歳、70歳以上では、「事件のことにに関して、周囲にうわさ話をされること」が最も高く、他の年齢では、「報道によってプライバシーに関することが公表されたり、取材によって私生活の平穏が保てなくなること」が最も高くなっている。

【地区別】

坂井地区では、「犯罪行為によって精神的にショックを受けること」が最も高く、奥越地区、丹南地区では、「事件のことにに関して、周囲にうわさ話をされること」が最も高く、嶺南地区では、「報道によってプライバシーに関することが公表されたり、取材によって私生活の平穏が保てなくなること」が最も高くなっている。

福井地区では、「事件のことにに関して、周囲にうわさ話をされること」と「報道によってプライバシーに関することが公表されたり、取材によって私生活の平穏が保てなくなること」が最も高くなっている。

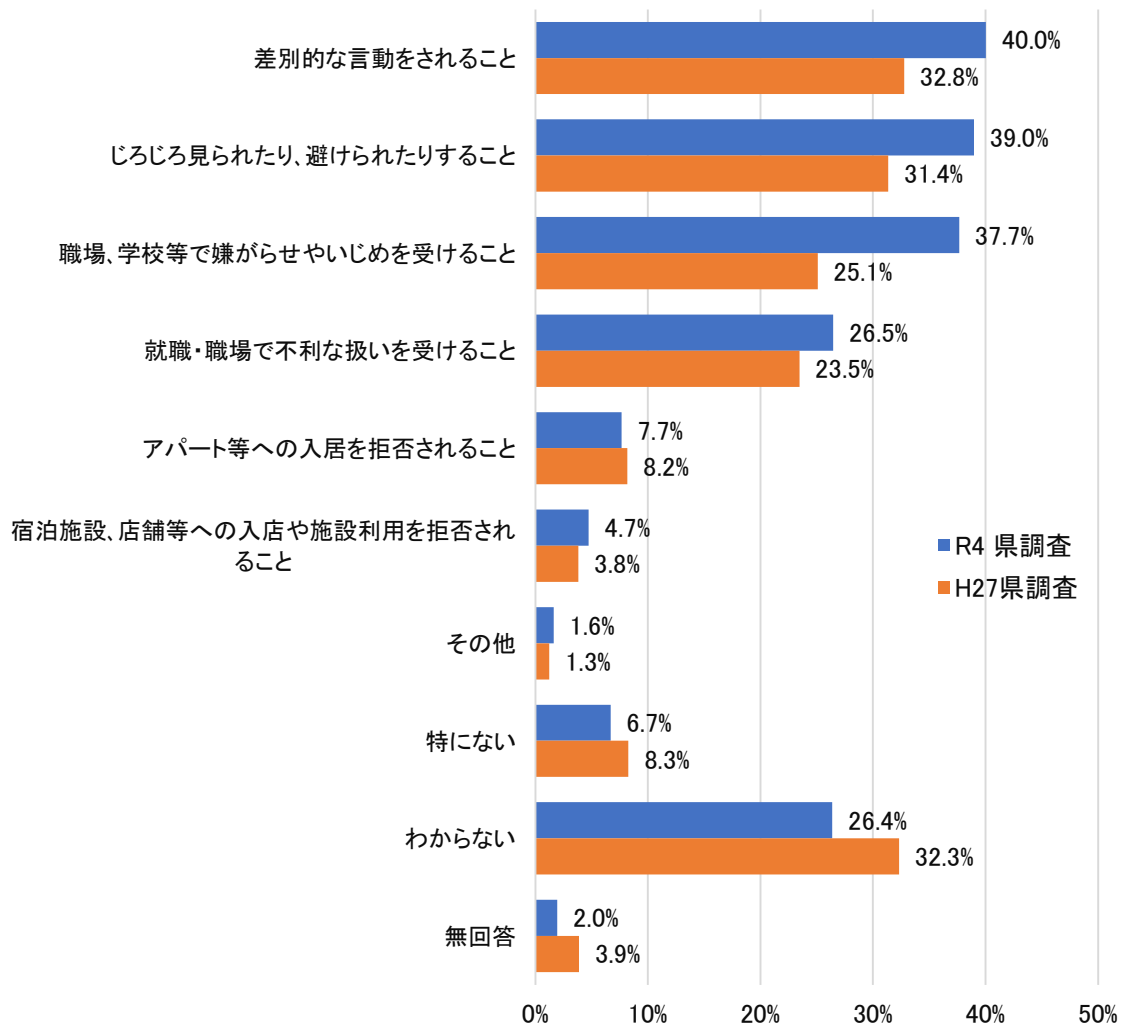
【職業別】

会社員・各種団体役職員、公務員、教員では、「事件のことにに関して、周囲にうわさ話をされること」が最も高くなっている。

自営業では、「報道によってプライバシーに関することが公表されたり、取材によって私生活の平穏が保てなくなること」が高くなっている。

臨時・パート・アルバイトでは、「犯罪行為によって精神的にショックを受けること」が最も高く、学生では、「報道によってプライバシーに関することが公表されたり、取材によって私生活の平穏が保てなくなること」と「事件のことにに関して、周囲にうわさ話をされること」が最も高くなっている。

問18 同性愛、両性愛といった性的指向に関し、あなたは現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(複数回答可)



「差別的な言動をされること (40.0%)」が最も高く、次いで、「じろじろ見られたり、避けられたりすること (39.0%)」、「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること (37.7%)」が高くなっている。

H27 県調査と比較すると、「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること (25.1% → 37.7%)」が増加するなど、多くの項目が増加している。

【性別】

男性、女性とも「差別的な言動をされること」が最も高くなっている。

【年齢別】

18～29歳、30～39歳、40～49歳、50～59歳では、「差別的な言動をされること」が最も高く、60～69歳では、「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」、70歳以上では、「わからない」が最も高くなっている。

【地区別】

福井地区、坂井地区、嶺南地区では、「差別的な言動をされること」が最も高く、奥越地区では、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」が最も高くなっている。

丹南地区では、「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」が最も高くなっている。

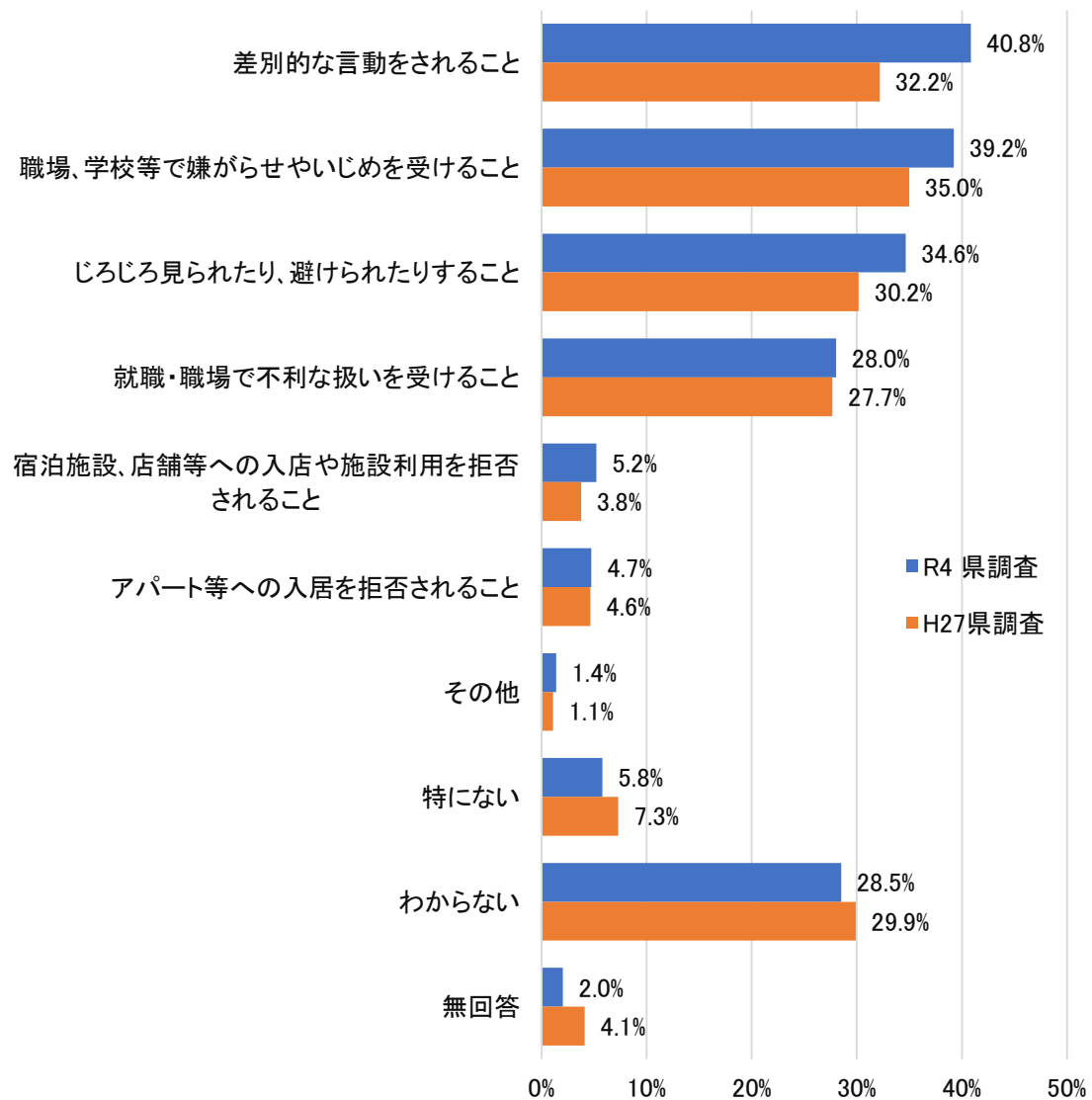
【職業別】

自営業、臨時・パート・アルバイトでは、「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」が最も高く、会社員・各種団体役職員、公務員、学生では、「差別的な言動をされること」が最も高くなっている。

教員では、「差別的な言動をされること」と「じろじろ見られたり、避けられたりすること」と「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」が最も高くなっている。

無職では、「わからない」が最も高くなっている。

問19 からだの性とところの性が一致しない性同一性障害者に関し、あなたは現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(複数回答可)



「差別的な言動をされること (40.8%)」が最も高く、次いで、「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること (39.2%)」、「じろじろ見られたり、避けられたりすること (34.6%)」が高くなっている。

H27 県調査と比較すると、「差別的な言動をされること (32.3%→40.8%)」など、多くの項目が増加している。

【性別】

男性では、「差別的な言動をされること」が最も高く、女性では、「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」、「差別的な言動をされること」が最も高くなっている。

【年齢別】

18～29 歳、30～39 歳では、「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」が最も高く、40～49 歳、50～59 歳、60～69 歳では、「差別的な言動をされること」が最も高くなっている。

70 歳以上では、「わからない」が最も高くなっている。

【地区別】

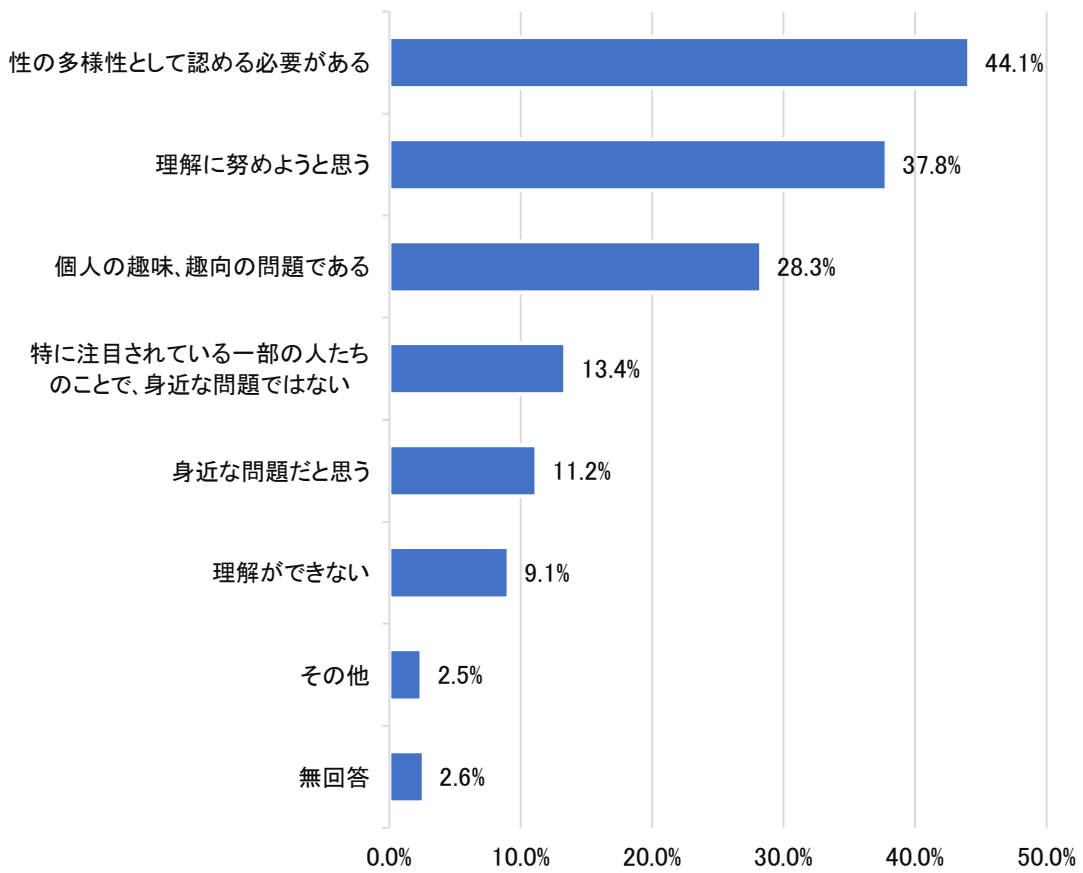
福井地区、坂井地区、奥越地区、嶺南地区では、「差別的な言動をされること」が最も高く、丹南地区では、「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」が最も高くなっている。

【職業別】

自営業、臨時・パート・アルバイトでは、「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」が最も高く、会社員・各種団体役職員、公務員、学生では、「差別的な言動をされること」が最も高くなっている。

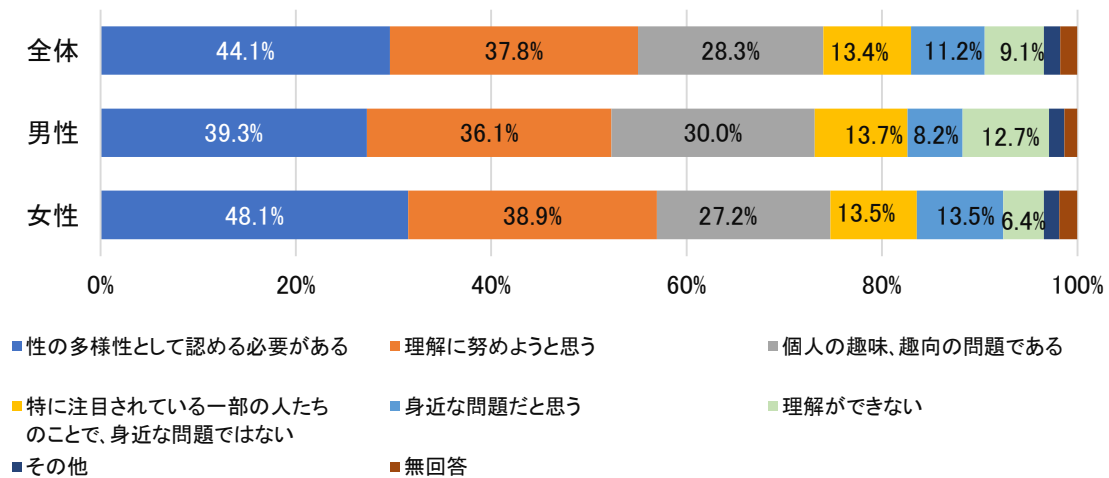
無職では、「わからない」が最も高く、教員では、「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」と「じろじろ見られたり、避けられたりすること」が最も高くなっている。

問20 あなたは性的マイノリティについてどのような考えやイメージをもっていますか。
(複数回答可)



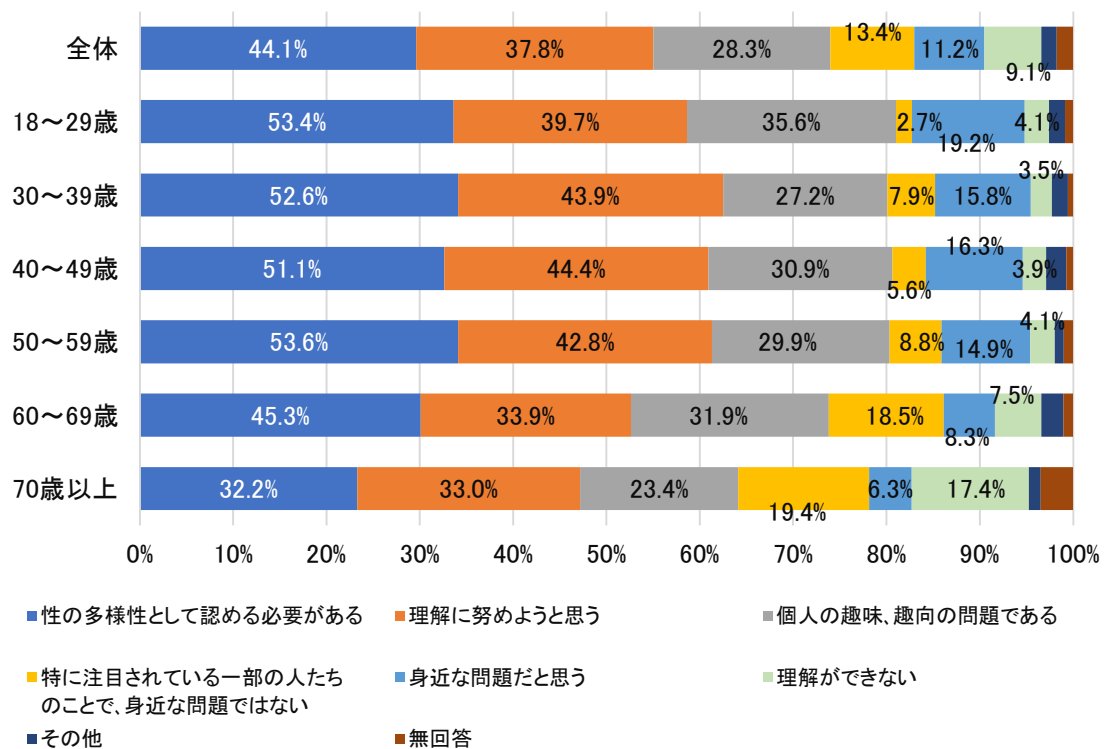
「性の多様性として認める必要がある (44.1%)」が最も高く、次いで、「理解に努めようと思う (37.8%)」、「個人の趣味、趣向の問題である(28.3%)」が高くなっている。

【性別】



男性、女性とも「性の多様性として認める必要がある」が最も高く、次いで、「理解に努めようと思う」が高くなっている。

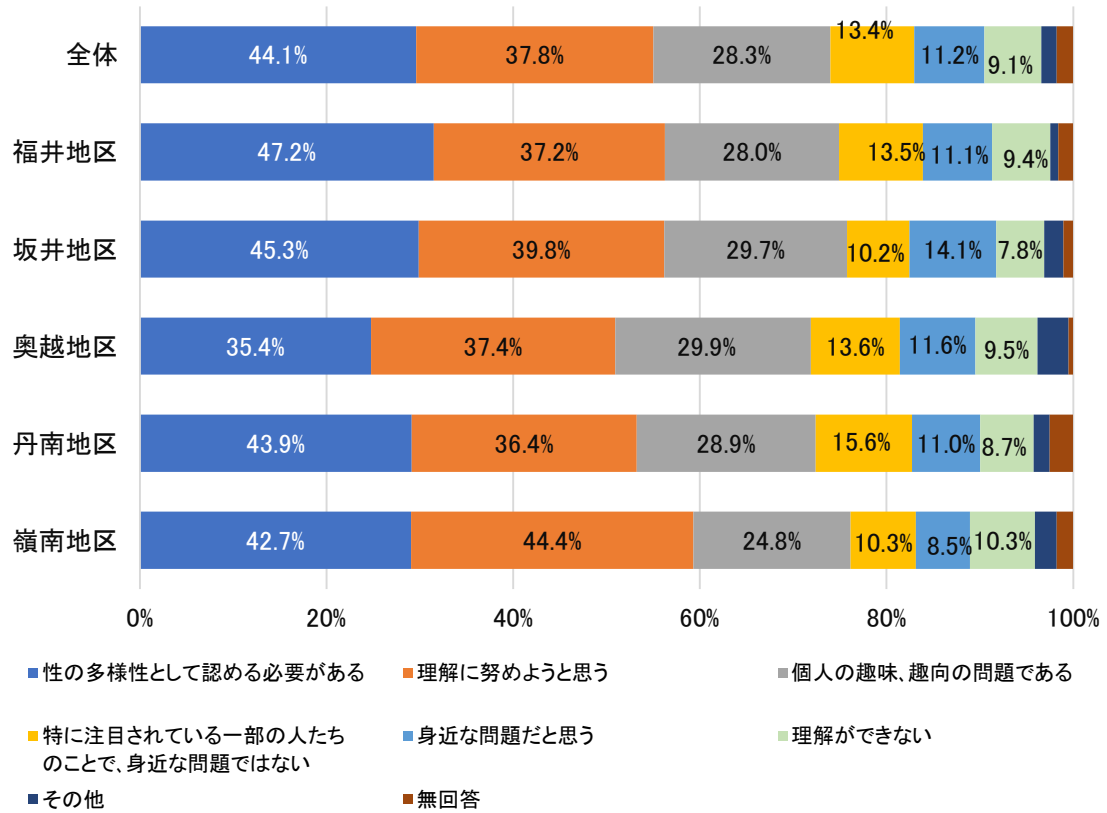
【年齢別】



70歳以上では、「理解に努めようと思う」が最も高く、他の年齢では、「性の多様性として認める必要がある」が最も高くなっている。

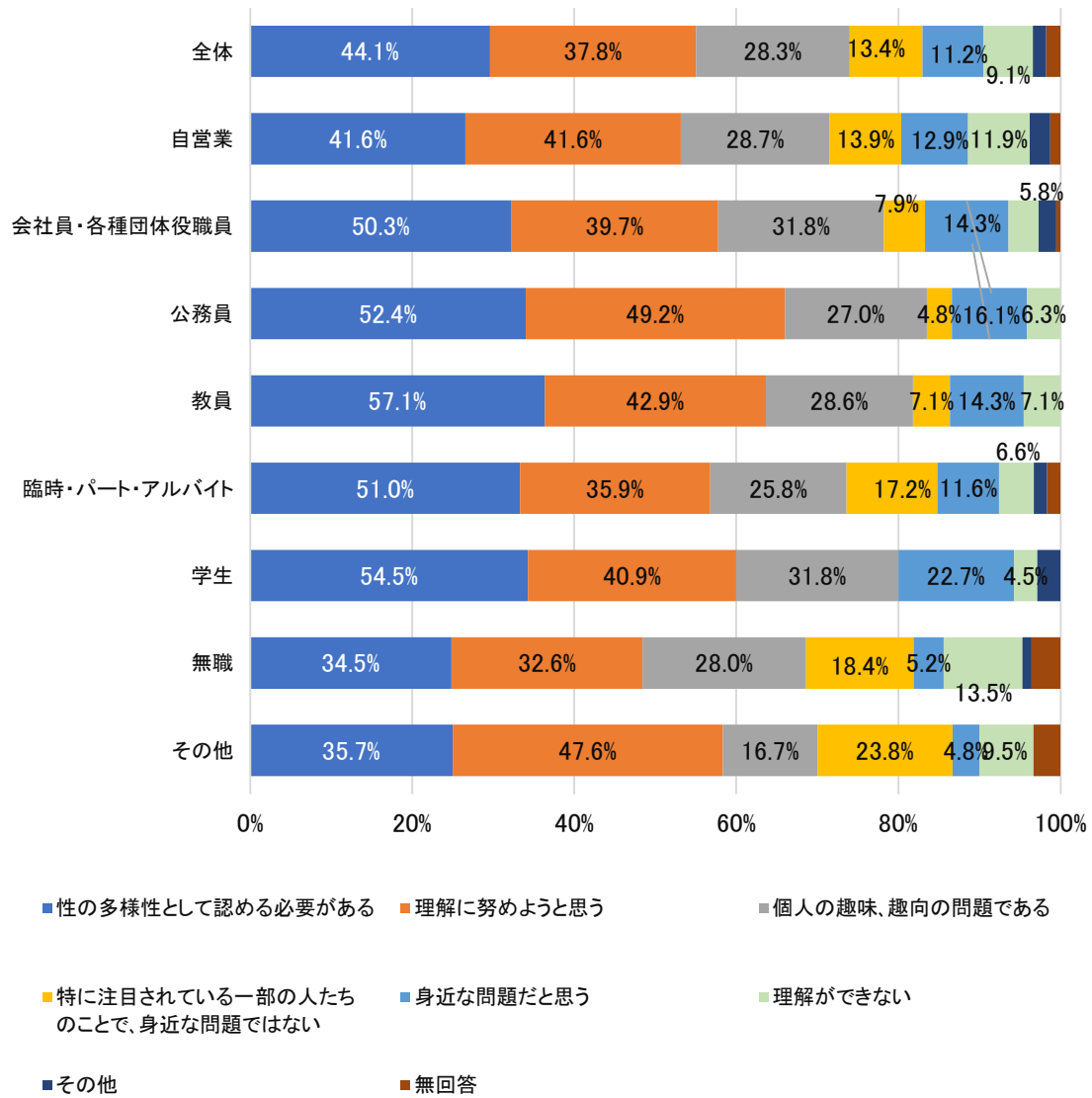
年齢が高くなるとともに「理解ができない」が増加している。

【地区別】



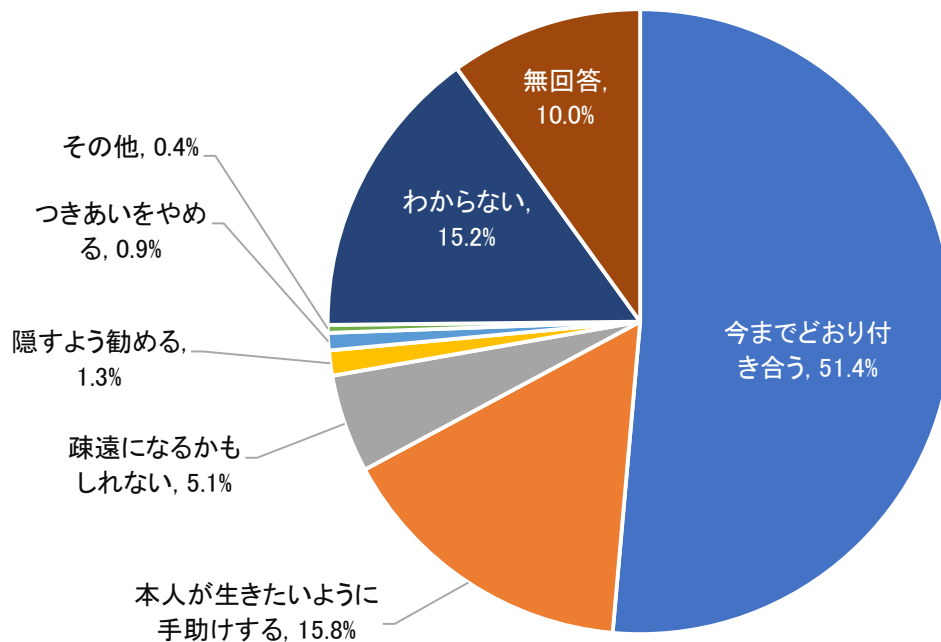
奥越地区、嶺南地区では、「理解に努めようと思う」が最も高く、他の地区では、「性の多様性として認める必要がある」が最も高くなっている。

【職業別】



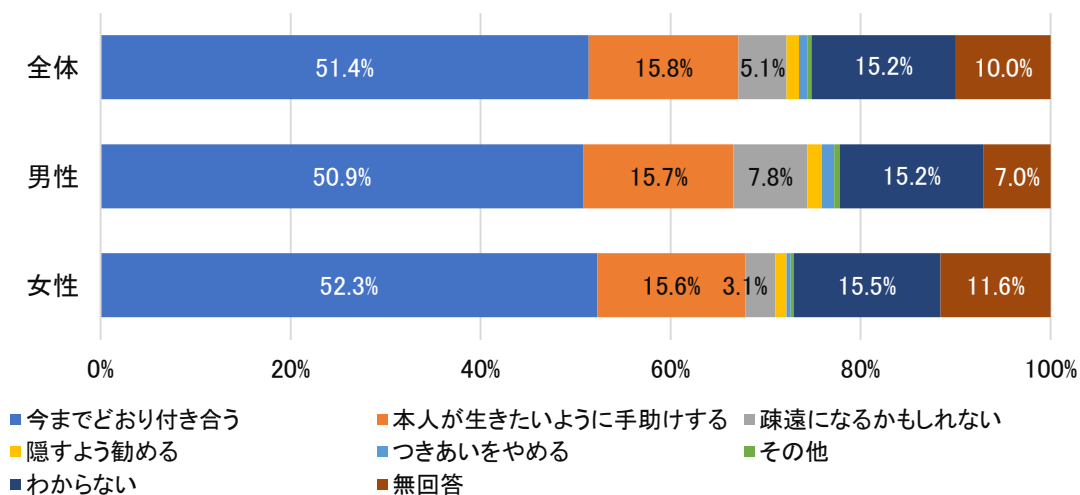
ほぼ全ての職業で「性の多様性として認める必要がある」が最も高くなっている。

問 2 1 あなたは、身近な人（家族、友人、職場の同僚等）から性的マイノリティであることをカミングアウト（自分が当事者であることを他人に告白すること）された場合、どうしますか。（1つ選択）



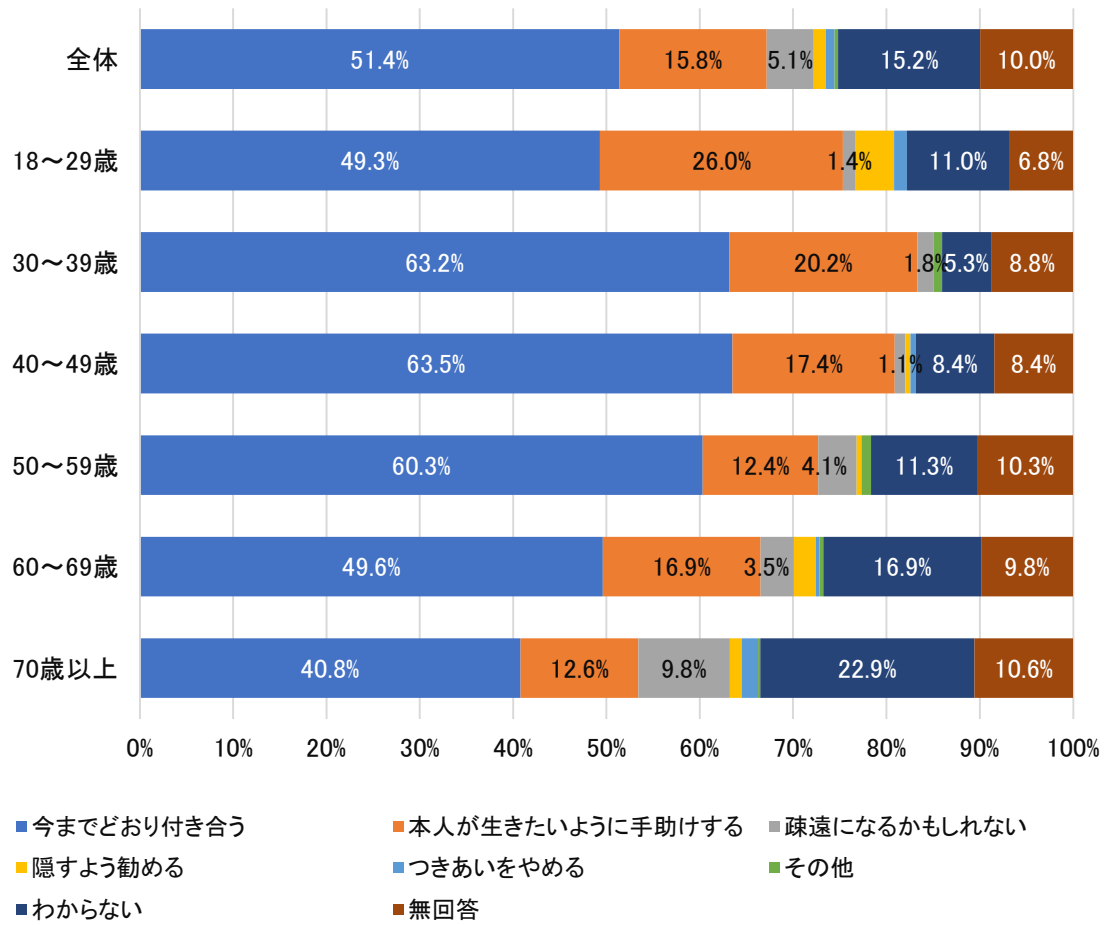
「今までどおり付き合う（51.4%）」が最も高く、次いで、「本人が生きたいように手助けする（15.8%）」、「わからない（15.2%）」が高くなっている。

【性別】



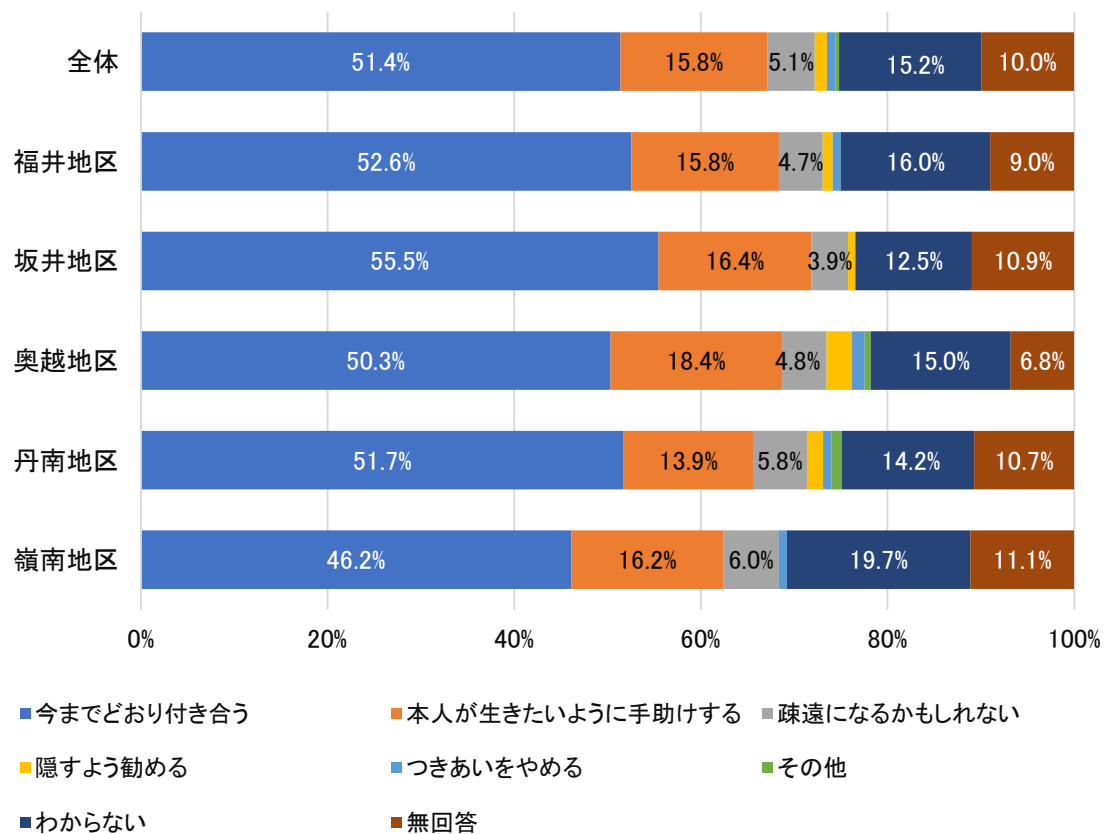
男性、女性とも「今までどおり付き合う」が最も高くなっている。

【年齢別】



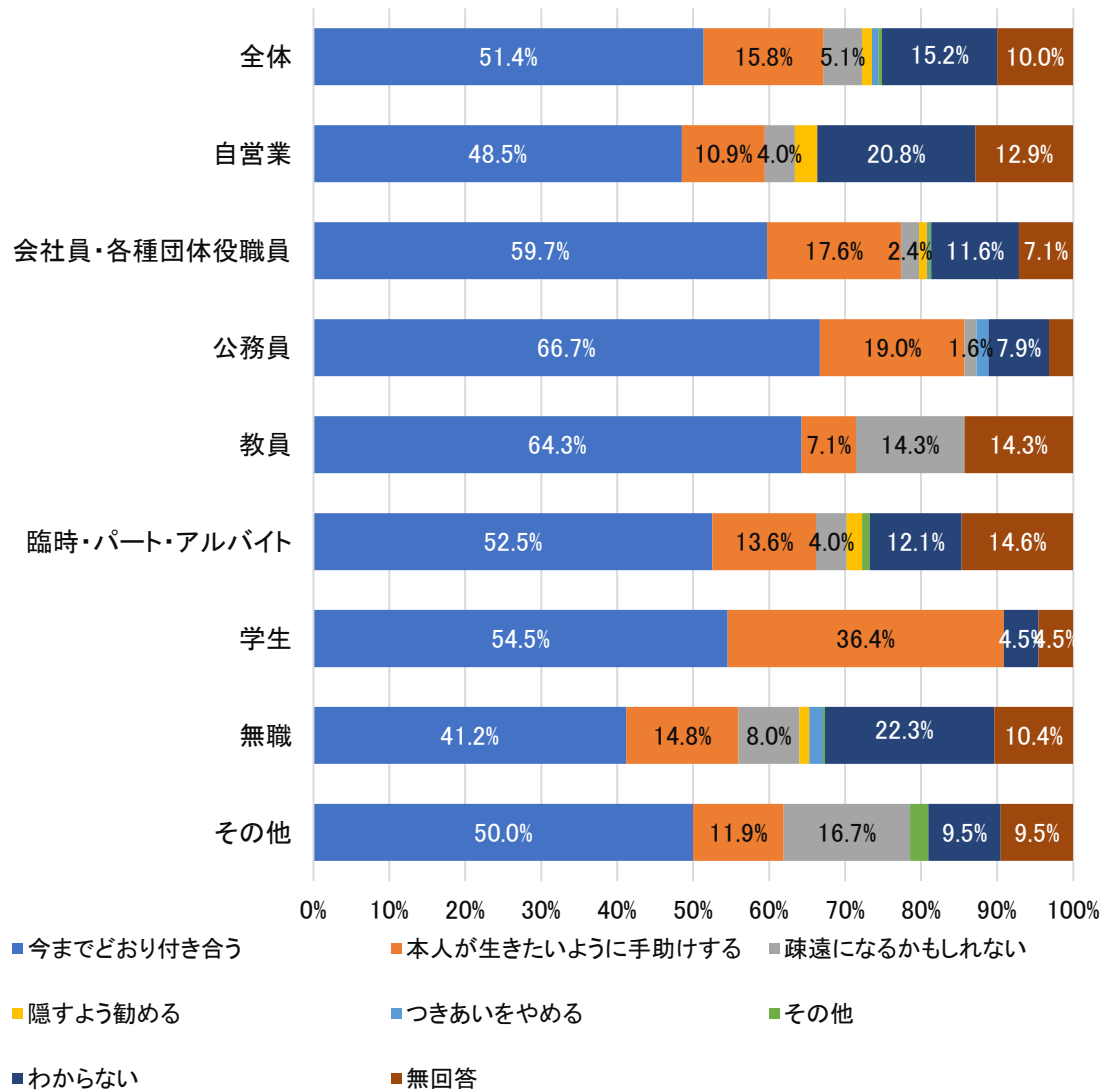
どの年齢も「今までどおり付き合う」が最も高くなっている。
 年齢が高くなるにつれ「わからない」が増加し、「今までどおり付き合う」が減少している。

【地区別】



どの地区も「今までどおり付き合う」が最も高くなっている。

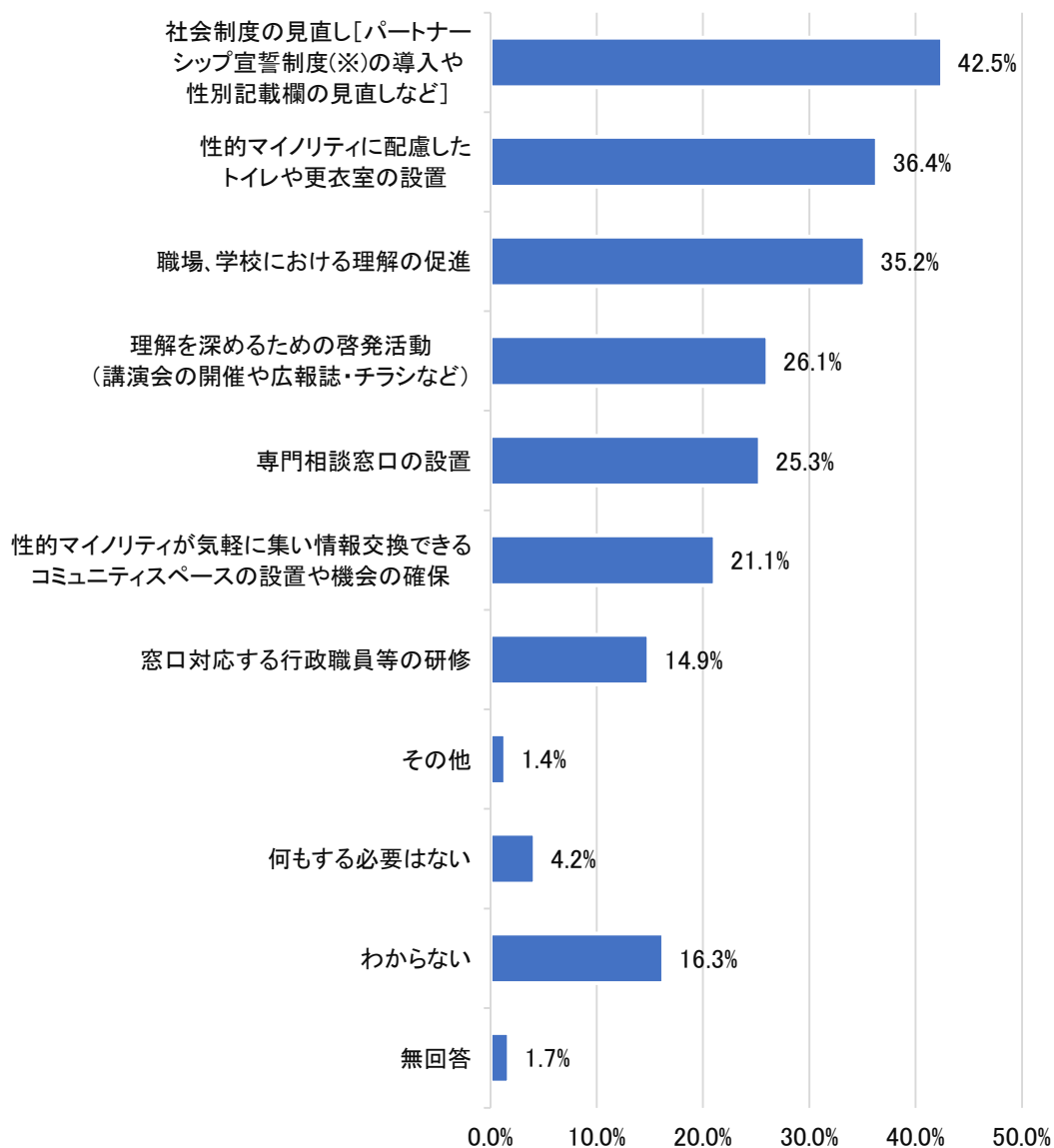
【職業別】



どの職業も「今までどおり付き合う」が最も高くなっている。

学生では、他の職業に比べて、「本人が生きたいように手助けする」が高くなっている。

問 2 2 性的マイノリティへの配慮に関し、あなたはどのような取り組みが必要だと思いますか。(複数回答可)



※ 一方または双方が性的マイノリティであるカップルが、互いを人生のパートナーであることを自治体の首長に宣誓し、自治体が受領証を交付する制度

「社会制度の見直し [パートナーシップ宣誓制度(※)の導入や性別記載欄の見直しなど] (42.5%)」が最も高く、次いで、「性的マイノリティに配慮しているトイレや更衣室の設置 (36.4%)」、「職場、学校における理解の促進 (35.2%)」が高くなっている。

【性 別】

男性、女性とも「社会制度の見直し」が最も高くなっている

【年齢別】

どの年齢でも「社会制度の見直し」が最も高くなっている

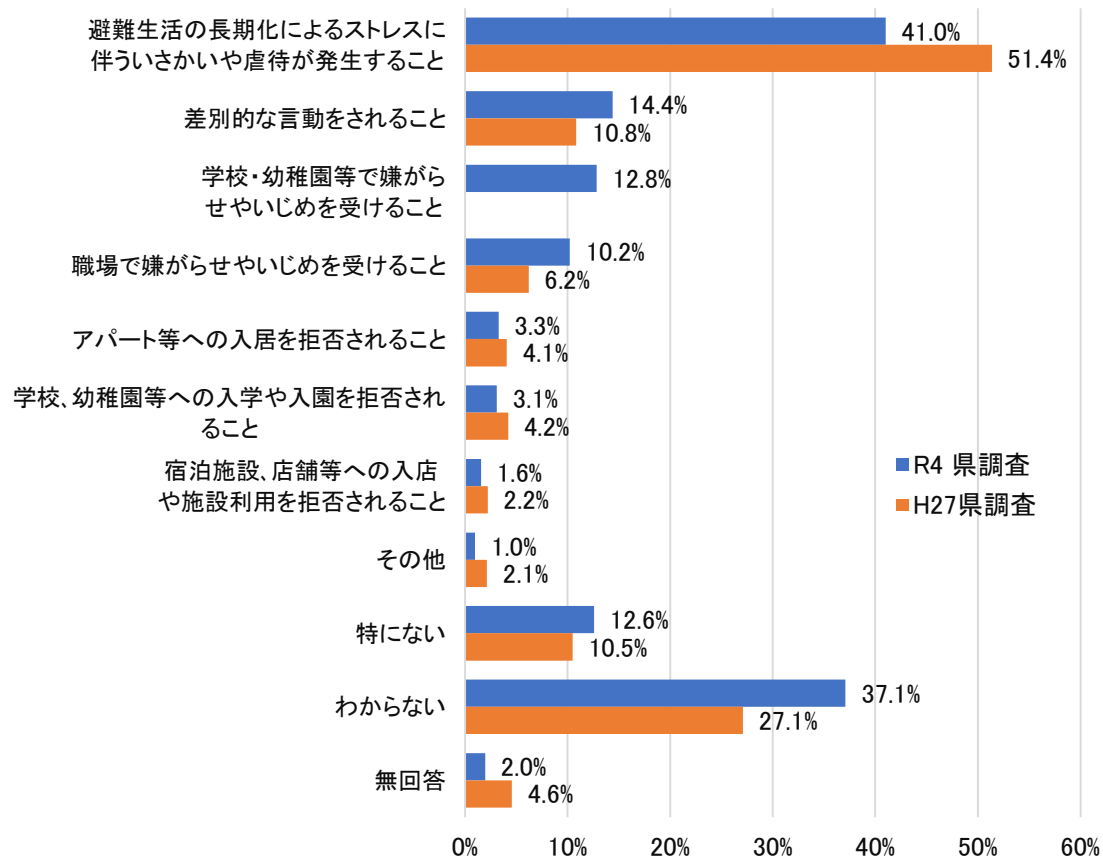
【地区別】

嶺南地区では、「性的マイノリティに配慮しているトイレや更衣室の設置」が最も高く、他の地区では、「社会制度の見直し」が最も高くなっている

【職業別】

自営業では、「性的マイノリティに配慮しているトイレや更衣室の設置」が最も高く、他の職業では、「社会制度の見直し」が最も高くなっている。

問 2 3 被災者の人権問題に関し、あなたは現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(複数回答可)



「避難生活の長期化によるストレスに伴ういさかや虐待が発生すること (41.0%)」が最も高く、次いで、「差別的な言動をされること (14.4%)」、「学校・幼稚園等で嫌がらせやいじめを受けること (12.8%)」が高くなっている。一方、「特になし (12.6%)」、「わからない (37.1%)」という回答も高くなっている。

H27 県調査と比較すると、「避難生活の長期化によるストレスに伴ういさかや虐待が発生すること (51.4%→41.0%)」が減少している。一方、「わからない」が増加している。

【性別】

男性では、「避難生活の長期化によるストレスに伴ういさかいや虐待が発生すること」が最も高く、女性では、「避難生活の長期化によるストレスに伴ういさかいや虐待が発生すること」と「わからない」が最も高くなっている。

【年齢別】

どの年齢も「避難生活の長期化によるストレスに伴ういさかいや虐待が発生すること」が最も高くなっている。

【地区別】

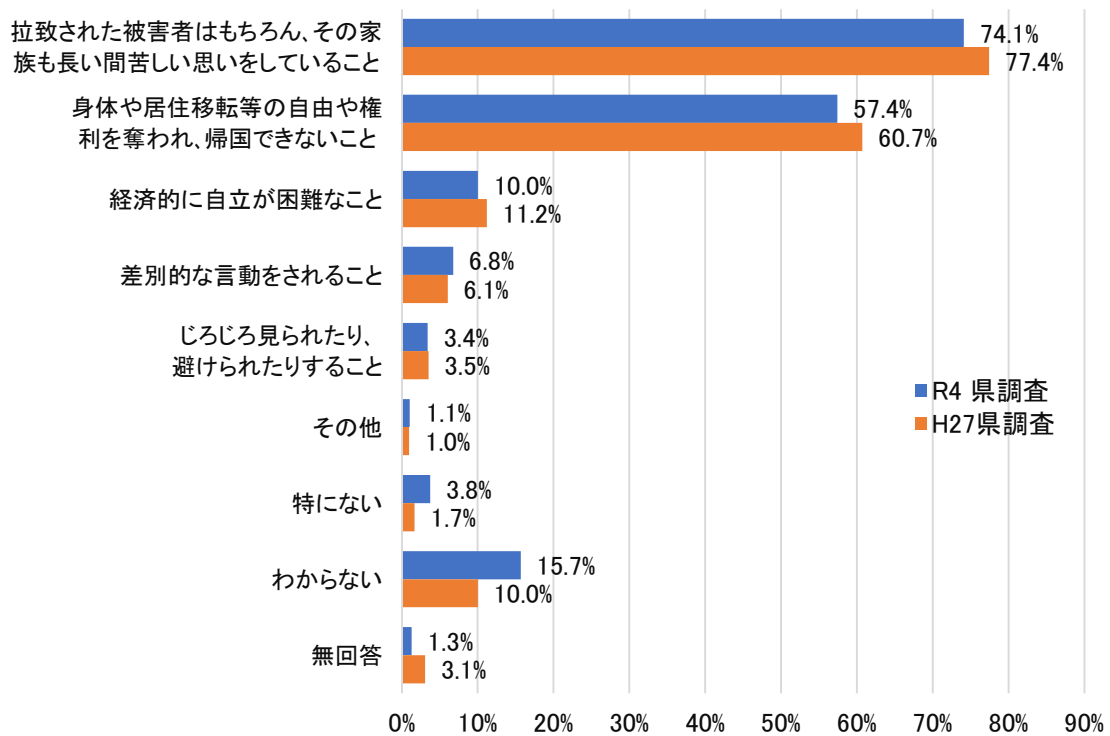
奥越地区では、「わからない」が最も高く、他の地区では、「避難生活の長期化によるストレスに伴ういさかいや虐待が発生すること」が最も高くなっている。

【職業別】

臨時・パート・アルバイト、無職では、「わからない」が最も高く、学生では、「避難生活の長期化によるストレスに伴ういさかいや虐待が発生すること」と「わからない」が最も高くなっている。

他の職業では、「避難生活の長期化によるストレスに伴ういさかいや虐待が発生すること」が最も高くなっている。

問 2 4 北朝鮮当局によって拉致された被害者やその家族等に関し、あなたは現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(複数回答可)



「拉致された被害者はもちろん、その家族も長い間苦しい思いをしていること (74.1%)」が最も高く、次いで、「身体や居住移転等の事由や権利を奪われ、帰国できないこと (57.4%)」が高くなっている。

H 2 7 県調査と比較すると、「拉致された被害者はもちろん、その家族も長い間苦しい思いをしていること (77.4→74.1%)」、「身体や居住移転等の事由や権利を奪われ、帰国できないこと (60.7%→57.4%)」が減少している。一方、「わからない (10.0%→15.7%)」が増加している。

【性 別】

男性、女性とも「拉致された被害者はもちろん、その家族も長い間苦しい思いをしていること」が最も高くなっている。

【年齢別】

どの年齢も「拉致された被害者はもちろん、その家族も長い間苦しい思いをしていること」が最も高くなっている。

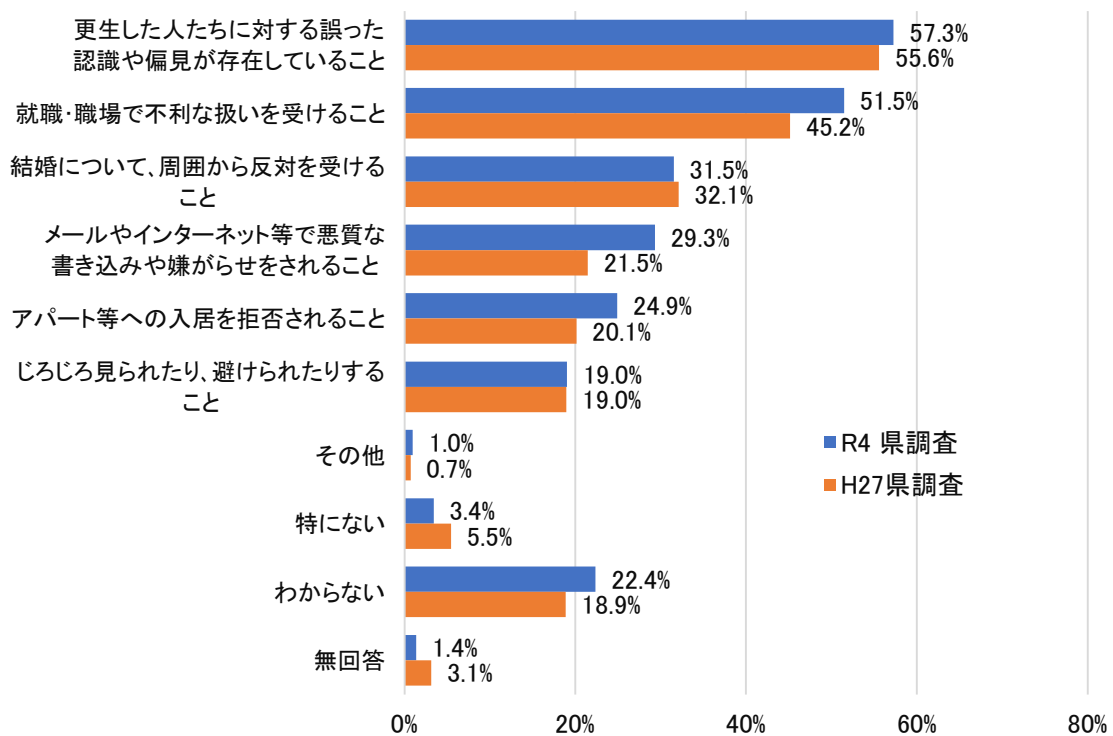
【地区別】

どの地区も「拉致された被害者はもちろん、その家族も長い間苦しい思いをしていること」が最も高くなっている。

【職業別】

どの職業も「拉致された被害者はもちろん、その家族も長い間苦しい思いをしていること」が最も高くなっている。

問 2 5 刑を終えて出所した人に関し、あなたは現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(複数回答可)



「更生した人たちに対する誤った認識や偏見が存在していること (57.3%)」が最も高く、次いで、「就職・職場で不利な扱いを受けること (51.5%)」、「結婚について、周囲から反対を受けること (31.5%)」が高くなっている。

H 2 7 県調査と比較すると、「メールやインターネット等で悪質な書き込みや嫌がらせをされること (21.5%→29.3%)」が最も増加している。

【性別】

男性、女性とも「更生した人たちに対する誤った認識や偏見が存在していること」が最も高くなっている。

【年齢別】

18～29歳、30～39歳、40～49歳では、「就職・職場で不利な扱いを受けること」が最も高く、他の年齢では、「更生した人たちに対する誤った認識や偏見が存在していること」が最も高くなっている。

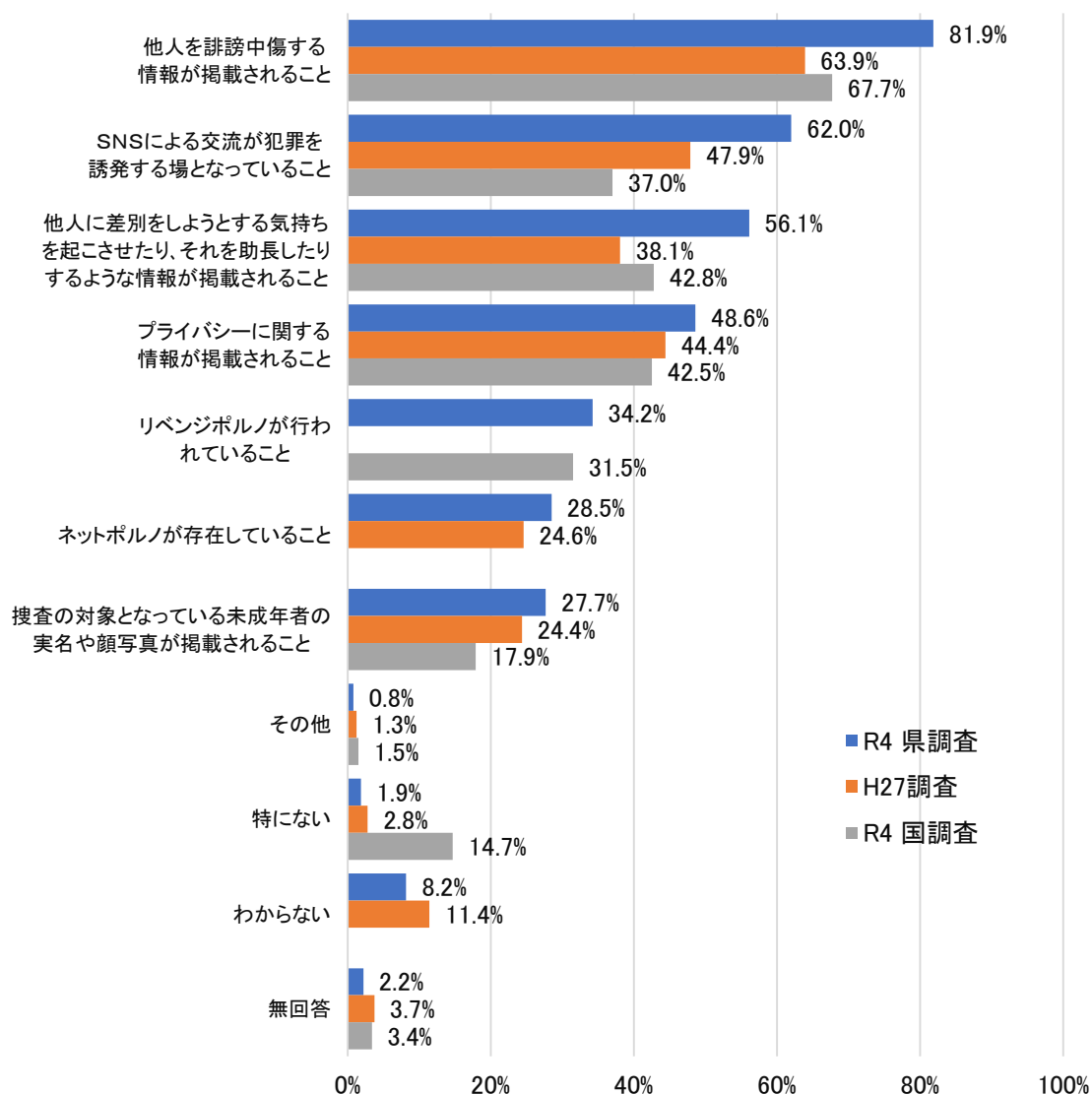
【地区別】

どの地区でも「更生した人たちに対する誤った認識や偏見が存在していること」が最も高くなっている。

【職業別】

教員、学生では、「就職・職場で不利な扱いを受けること」が最も高く、他の職業では、「更生した人たちに対する誤った認識や偏見が存在していること」が最も高くなっている。

問26 インターネットによる人権侵害に関し、あなたは現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(複数回答可)



「他人を誹謗中傷する情報が掲載されること (81.9%)」が最も高く、次いで、「SNSによる交流が犯罪を誘発する場となっていること (62.0%)」、「他人に差別をしようとする気持ちを起こさせたり、それを助長したりするような情報が掲載されること (56.1%)」が高くなっている。

H27 県調査と比較すると、「他人を誹謗中傷する情報が掲載されること (63.9%→81.9%)」、「他人に差別をしようとする気持ちを起こさせたり、それを助長したりするような情報が掲載されること (38.1%→56.1%)」などが増加している。

R4 国調査と比較すると、「SNSによる交流が犯罪を誘発する場となっていること (国:37.0%、県:62.0%)」などは高くなっている。

【性 別】

男性、女性とも「他人を誹謗中傷する情報が掲載されること」が最も高くなっている。

【年齢別】

どの年齢も「他人を誹謗中傷する情報が掲載されること」が最も高くなっている。

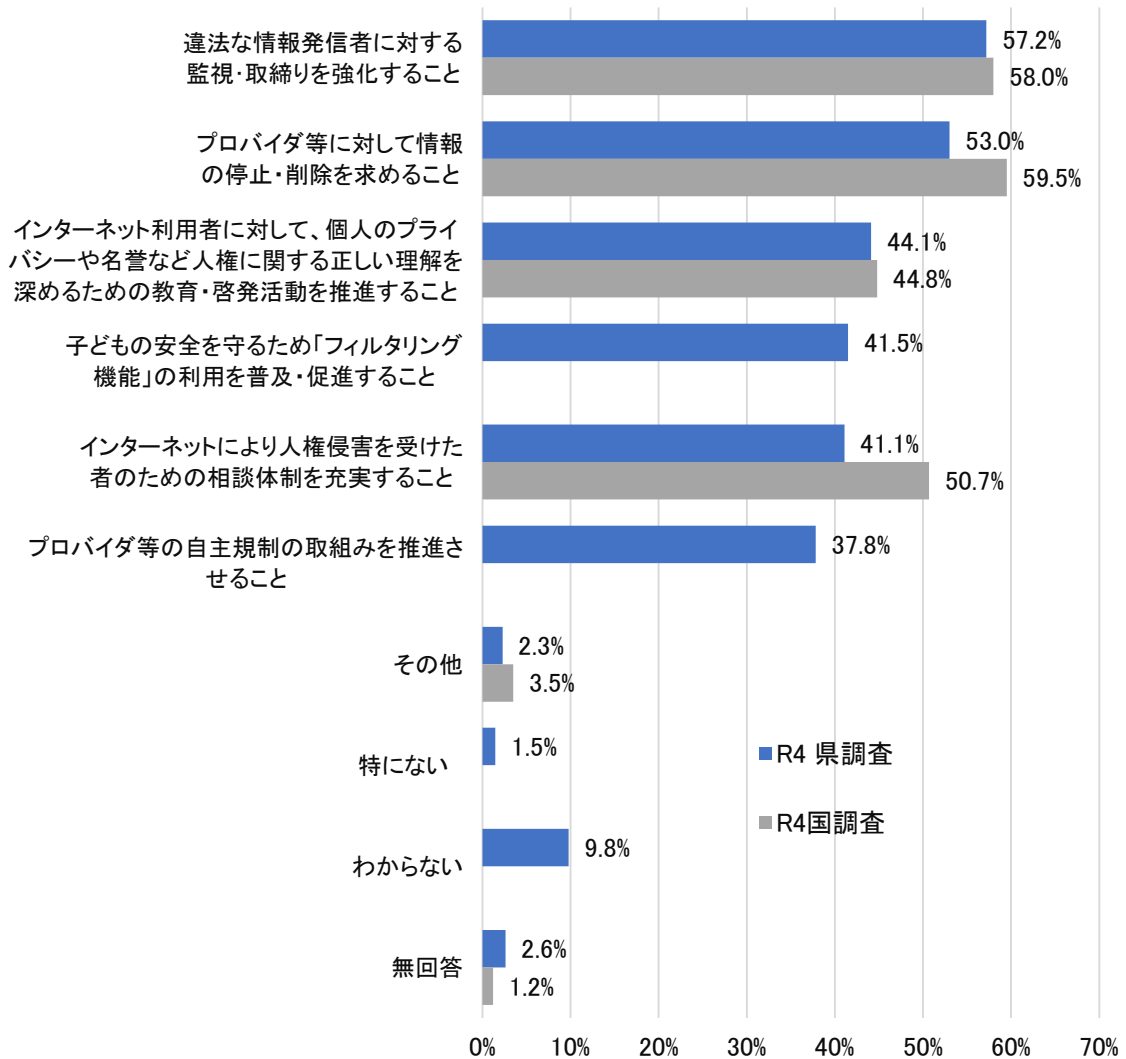
【地区別】

どの地区も「他人を誹謗中傷する情報が掲載されること」が最も高くなっている。

【職業別】

どの職業も「他人を誹謗中傷する情報が掲載されること」が最も高くなっている。

問27 インターネットによる人権侵害を解決するために、あなたは、どのようなことが必要だと思いますか。(複数回答可)



「違法な情報発信者に対する監視・取締りを強化すること (57.2%)」が最も高く、次いで、「プロバイダ等に対して情報の停止・削除を求めること (53.0%)」、「インターネット利用者に対して、個人のプライバシーや名誉など人権に関する正しい理解を深めるための教育・啓発活動を推進すること (44.1%)」が高くなっている。

R4 国調査と比較すると、全ての項目で低くなっている。

【性別】

男性、女性とも「違法な情報発信者に対する監視・取締りを強化すること」が最も高くなっている。

【年齢別】

18～29歳では、インターネット利用者に対して、個人のプライバシーや名誉など人権に関する正しい理解を深めるための教育・啓発活動を推進すること」が最も高くなっている。

30～39歳、70歳以上では、「違法な情報発信者に対する監視・取締りを強化すること」が最も高くなっている。

40～49歳、50～59歳、60～69歳では、「プロバイダ等に対して情報の停止・削除を求めること」が最も高くなっている。

【地区別】

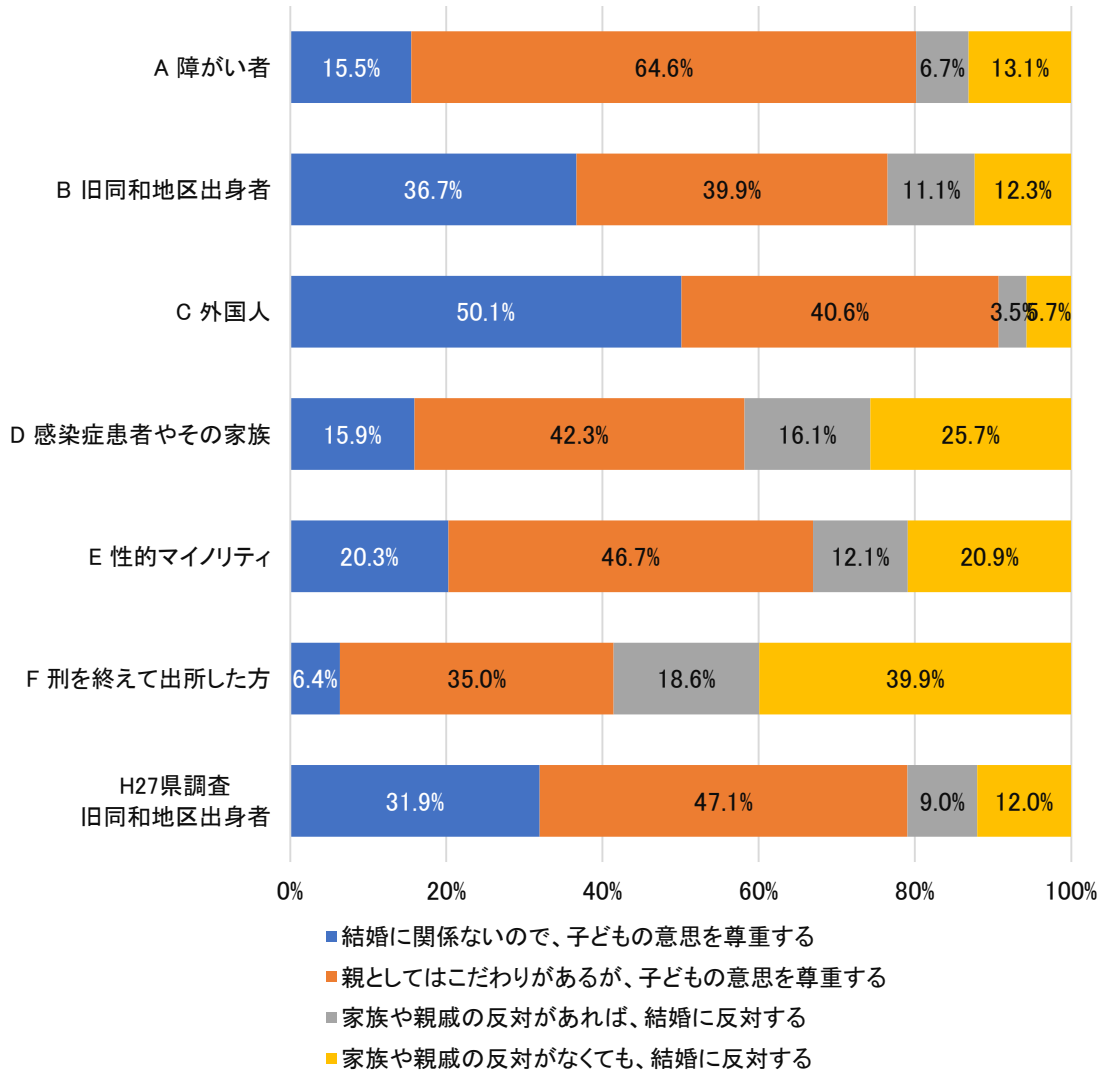
福井地区では、「プロバイダ等に対して情報の停止・削除を求めること」が最も高く、坂井地区、奥越地区、丹南地区、嶺南地区では、「違法な情報発信者に対する監視・取締りを強化すること」が最も高くなっている。

【職業別】

自営業、公務員、教員では、「プロバイダ等に対して情報の停止・削除を求めること」が最も高く、他の職業では、「違法な情報発信者に対する監視・取締りを強化すること」が最も高くなっている。

<既婚の人のみ>

問28 (1) 仮に、あなたのお子さんの結婚や交際しようとする相手が、A～Fの人であれば、あなたはどうしますか。お子さんがいない場合は、いると仮定してお答えください。(AからFごとに1つ選択)



(A 障がい者)

「親としてはこだわりがあるが、子どもの意思を尊重する(64.6%)」が最も高く、次いで、「結婚に関係ないので、子どもの意思を尊重する(15.5%)」が高くなっており、子どもの意思を尊重する割合が8割(80.1%)となっている。

一方、「家族や親戚の反対がなくても、結婚に反対する(13.1%)」および「家族や親戚の反対があれば、結婚に反対する(6.7%)」に「親としてはこだわりがあるが、子どもの意思を尊重する(64.6%)」を加えると、8割(84.4%)が結婚・交際に反対やこだわりの感情を持っている。

(B 旧同和地区出身者)

「親としてはこだわりがあるが、子どもの意思を尊重する(39.9%)」が最も高く、次いで、「結婚に関係ないので、子どもの意思を尊重する(36.7%)」が高くなっており、子どもの意思を尊重する割合が8割(76.6%)となっている。

一方、「家族や親戚の反対がなくても、結婚に反対する(12.3%)」と「家族や親戚の反対があれば、結婚に反対する(11.1%)」に「親としてはこだわりがあるが、子どもの意思を尊重する(39.9%)」を加えると、6割(63.3%)が結婚・交際に反対やこだわりの感情を持っている。

H27県調査と比較すると、「結婚に関係ないので、子どもの意思を尊重する(31.9%→36.7%)」が増加し、結婚に反対やこだわりの感情を持っている割合[「家族や親戚の反対がなくても、結婚に反対する」と「家族や親戚の反対があれば、結婚に反対する」と「親としてはこだわりがあるが、子どもの意思を尊重する」の合計(68.1→63.3%)]は減少している。

(C 外国人)

「結婚に関係ないので、子どもの意思を尊重する(50.1%)」が最も高く、次いで、「親としてはこだわりがあるが、子どもの意思を尊重する(40.6%)」が高くなっており、子どもの意思を尊重する割合が9割(90.7%)となっている。

一方、「家族や親戚の反対がなくても、結婚に反対する(5.7%)」と「家族や親戚の反対があれば、結婚に反対する(3.5%)」に「親としてはこだわりがあるが、子どもの意思を尊重する(40.6%)」を加えると、5割(49.8%)が結婚・交際に反対やこだわりの感情を持っている。

(D 感染症患者やその家族)

「親としてはこだわりがあるが、子どもの意思を尊重する(42.3%)」が最も高く、次いで、「結婚に関係ないので、子どもの意思を尊重する(15.9%)」が高くなっており、子どもの意思を尊重する割合が6割(58.2%)となっている。

一方、「家族や親戚の反対がなくても、結婚に反対する(25.7%)」と「家族や親戚の反対があれば、結婚に反対する(16.1%)」に「親としてはこだわりがあるが、子どもの意思を尊重する(42.3%)」を加えると、8割(84.1%)が結婚・交際に反対やこだわりの感情を持っている。

(E 性的マイノリティ)

「親としてはこだわりがあるが、子どもの意思を尊重する(46.7%)」が最も高く、次いで、「家族や親戚の反対がなくても、結婚に反対する(20.9%)」が高くなっている。

子どもの意思を尊重する割合[「結婚に関係ないので、子どもの意思を尊重する(20.3%)」と「親としてはこだわりがあるが、子どもの意思を尊重する(46.7%)」の合計]は、7割(67.0%)となっている。

一方、「家族や親戚の反対がなくても、結婚に反対する(20.9%)」と「家族や親戚の反対があれば、結婚に反対する(12.1%)」に「親としてはこだわりがあるが、子どもの意思を尊重する(46.7%)」を加えると、8割(79.7%)が結婚・交際に反対やこだわりの感情を持っている。

(F 刑を終えて出所した方)

「家族や親戚の反対がなくても、結婚に反対する(39.9%)」が最も高く、次いで、「親としてはこだわりがあるが、子どもの意思を尊重する(35.0%)」が高くなっている。

子どもの意思を尊重する割合[「結婚に関係ないので、子どもの意思を尊重する(6.4%)」と「親としてはこだわりがあるが、子どもの意思を尊重する(35.0%)」の合計]は、4割(41.4%)となっている。

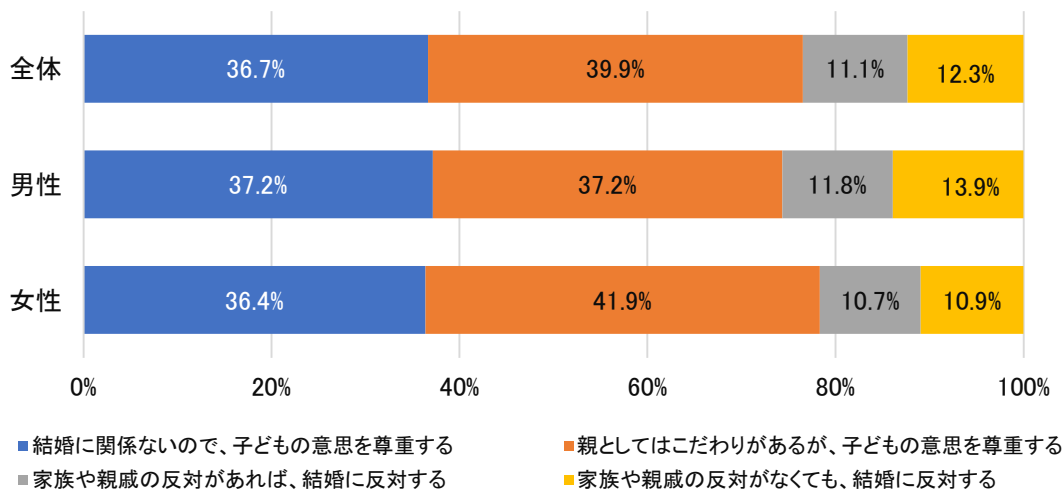
一方、「家族や親戚の反対がなくても、結婚に反対する(39.9%)」と「家族や親戚の反対があれば、結婚に反対する(18.6%)」に「親としてはこだわりがあるが、子どもの意思を尊重する(35.0%)」を加えると、9割(93.5%)が結婚・交際に反対やこだわりの感情を持っている。

【参考】「子どもの意思を尊重する割合」「結婚に反対やこだわりの感情を持つ割合」の一覧表

子どもの結婚相手	子どもの意思を尊重する割合	結婚・交際に反対やこだわりの感情を持つ割合
外国人	9割 (90.7%)	5割 (49.8%)
障がい者	8割 (80.1%)	8割 (84.4%)
旧同和地区出身者	8割 (76.6%)	6割 (63.3%)
性的マイノリティ	7割 (67.0%)	8割 (79.7%)
感染症患者やその家族	6割 (58.2%)	8割 (84.1%)
刑を終えて出所した人	4割 (41.4%)	9割 (93.5%)

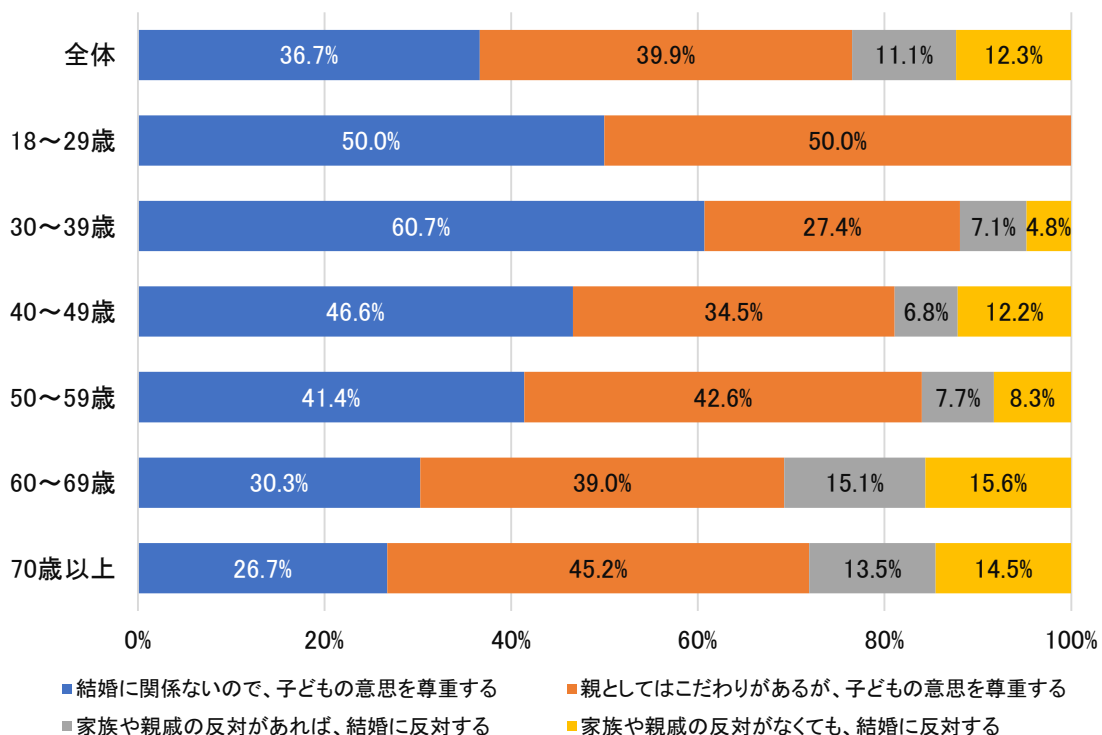
(B 旧同和地区出身者)の属性別(性別、年齢別、地区別、職業別)比較結果

【性別】



「結婚に関係ないので、子どもの意思を尊重する」は、男性(37.2%)が女性(36.4%)より高くなっている。また、「家族や親戚の反対がなくても、結婚に反対する」は、男性(13.9%)が女性(10.9%)より高くなっている。

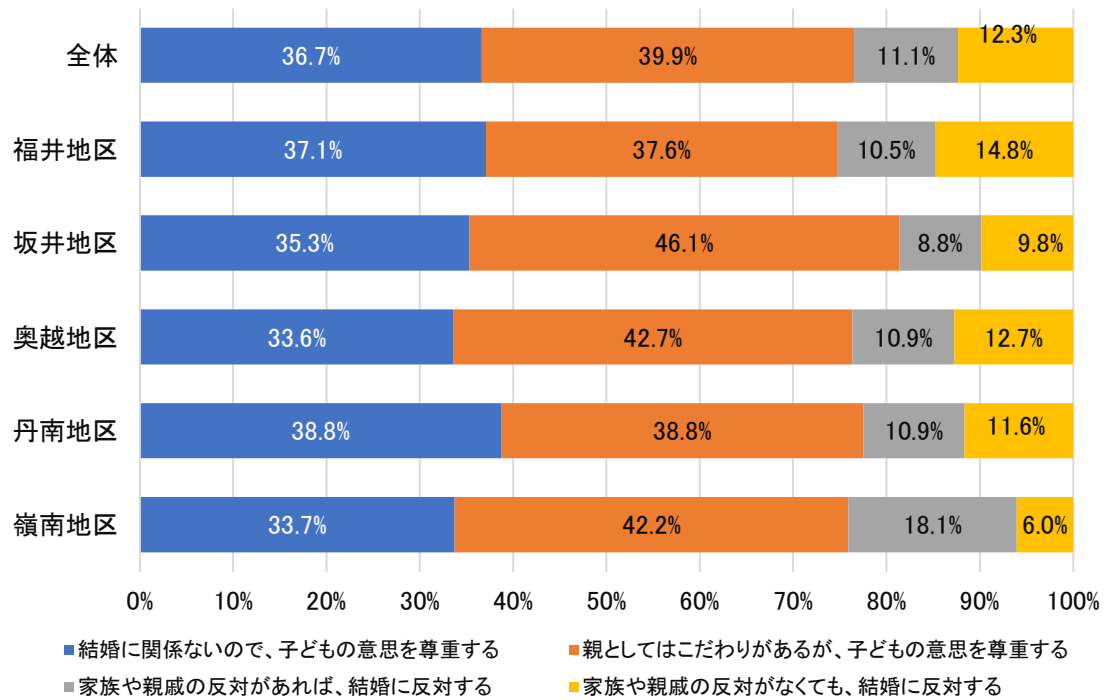
【年齢別】



「結婚に関係ないので、子どもの意思を尊重する」は、30～39歳(60.7%)が最も高く、次いで18～29歳(50.0%)となり、年齢が上がるにつれて低くなっている。

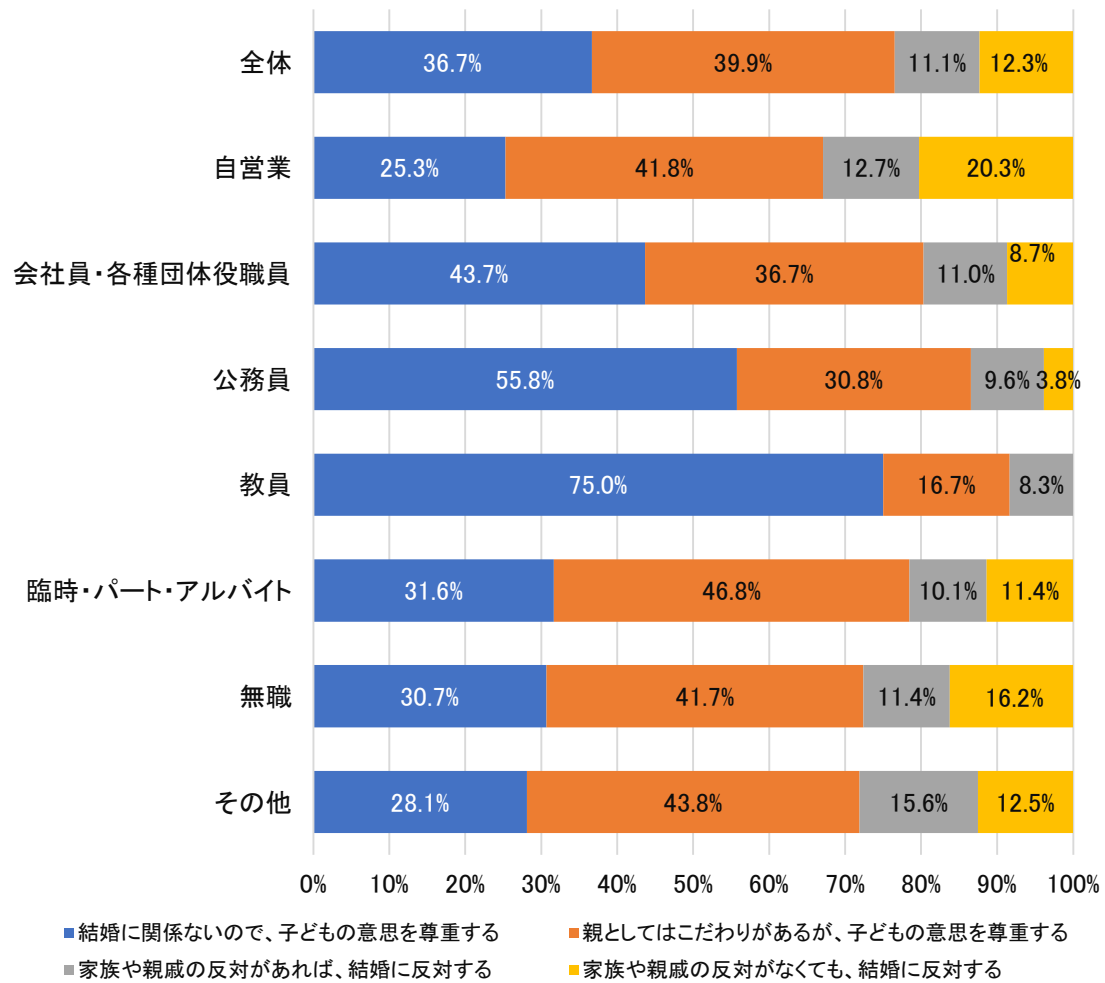
また、50～59歳、60～69歳、70歳以上では、「親としてはこだわりがあるが、子どもの意思を尊重する」が最も高くなっている。

【地区別】



「結婚に関係ないので、子どもの意思を尊重する」は、丹南地区（38.8%）が最も高く、他の地区も30%台となっている。また、「家族や親戚の反対がなくても、結婚に反対する」は福井地区（14.8%）が最も高くなっている。

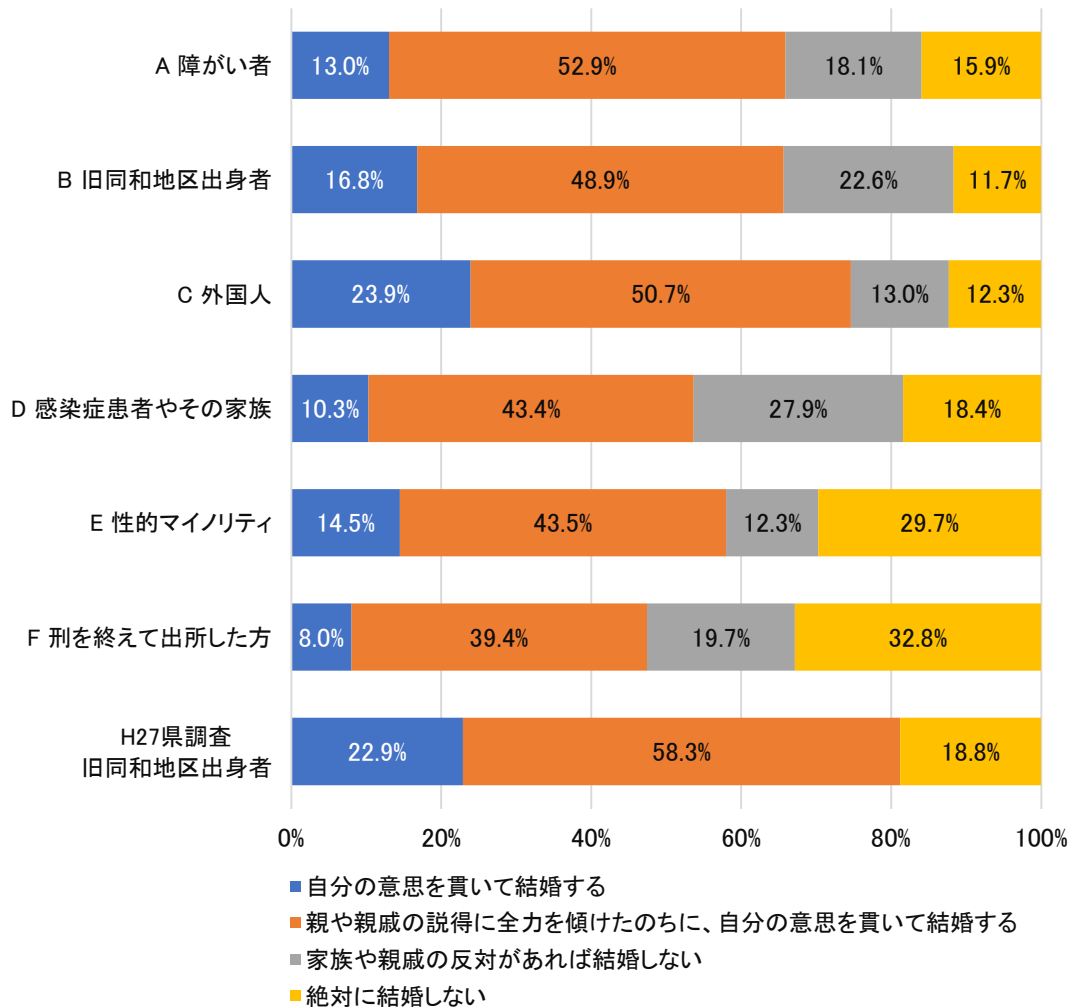
【職業別】



「結婚に関係ないので、子どもの意思を尊重する」は、教員（75.0%）が最も高く、次いで、公務員（55.8%）、会社員・各種団体役員（43.7%）が高くなっている。また、「家族や親戚の反対がなくても、結婚に反対する」は、自営業（20.3%）が最も高くなっている。

<未婚の人のみ>

問28 (2) 仮に、あなたがA～Fの人と結婚や交際しようとしているとき、親や親戚から強い反対を受けたら、あなたはどうしますか。(AからFごとに1つ選択)



(A 障がい者)

「親や親戚の説得に全力を傾けたのちに、自分の意思を貫いて結婚する (52.9%)」が最も高く、次いで、「家族や親戚の反対があれば結婚しない (18.1%)」、「絶対に結婚しない (15.9%)」となっている。

(B 旧同和地区出身者)

「親や親戚の説得に全力を傾けたのちに、自分の意思を貫いて結婚する (48.9%)」が最も高く、次いで、「家族や親戚の反対があれば結婚しない (22.6%)」、「自分の意思を貫いて結婚する (16.8%)」となっている。

(C 外国人)

「親や親戚の説得に全力を傾けたのちに、自分の意思を貫いて結婚する (50.7%)」が最も高く、次いで、「自分の意思を貫いて結婚する (23.9%)」、「家族や親戚の反対があれば結婚しない (13.0%)」となっている。

(D 感染症患者やその家族)

「親や親戚の説得に全力を傾けたのちに、自分の意思を貫いて結婚する (43.4%)」が最も高く、次いで、「家族や親戚の反対があれば結婚しない (27.9%)」、「絶対に結婚しない (18.4%)」となっている。

(E 性的マイノリティ)

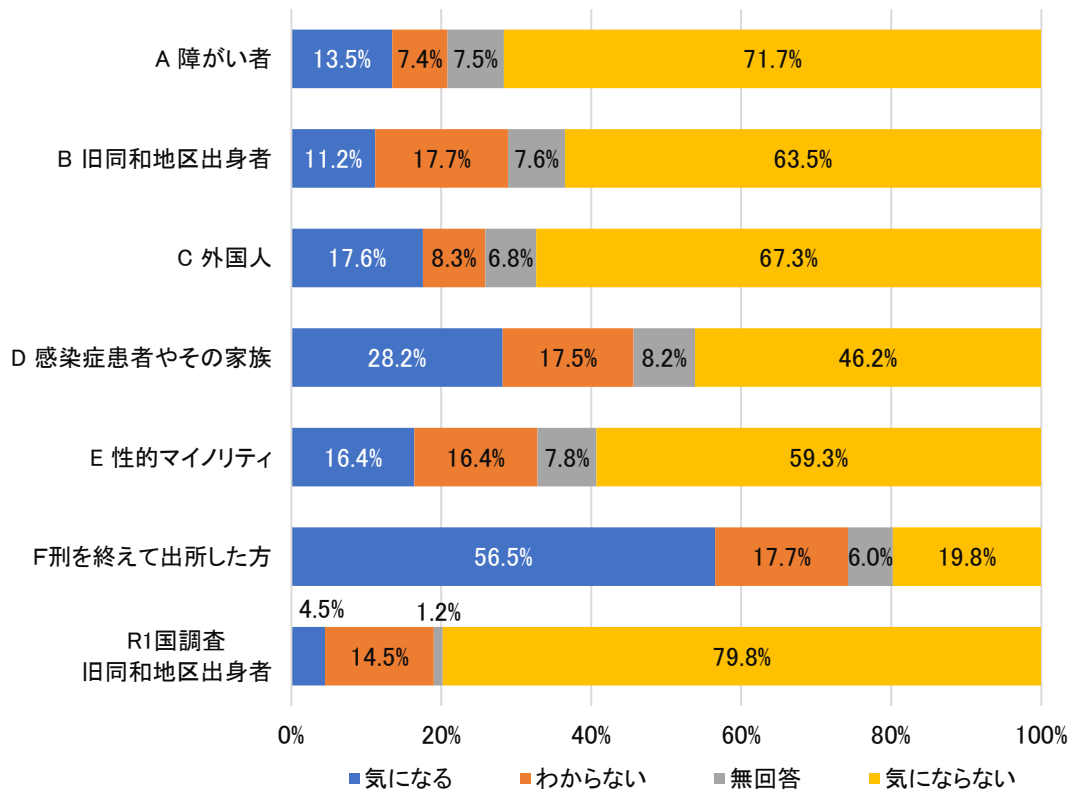
「親や親戚の説得に全力を傾けたのちに、自分の意思を貫いて結婚する (43.5%)」が最も高く、次いで、「絶対に結婚しない (29.7%)」、「自分の意思を貫いて結婚する (14.5%)」となっている。

(F 刑を終えて出所した方)

「親や親戚の説得に全力を傾けたのちに、自分の意思を貫いて結婚する (39.4%)」が最も高く、次いで、「絶対に結婚しない (32.8%)」、「家族や親戚の反対があれば結婚しない (19.7%)」となっている。

問29 あなたは、近所の人を、A～Fの人であるか否か気になりますか。

(AからFごとに1つ選択)



(A 障がい者)

「気にならない (71.7%)」が7割となっている。

(B 旧同和地区出身者)

「気にならない (63.5%)」が6割となっている。

R1国調査と比較すると、「気になる (国:4.5%、県:11.2%)」が高く、「気にならない (国:79.8%、県:63.5%)」が低くなっている。

(C 外国人)

「気にならない(67.3%)」が7割となっている。

(D 感染症患者やその家族)

「気にならない(46.2%)」が5割、「気になる (28.2%)」が3割となっている。

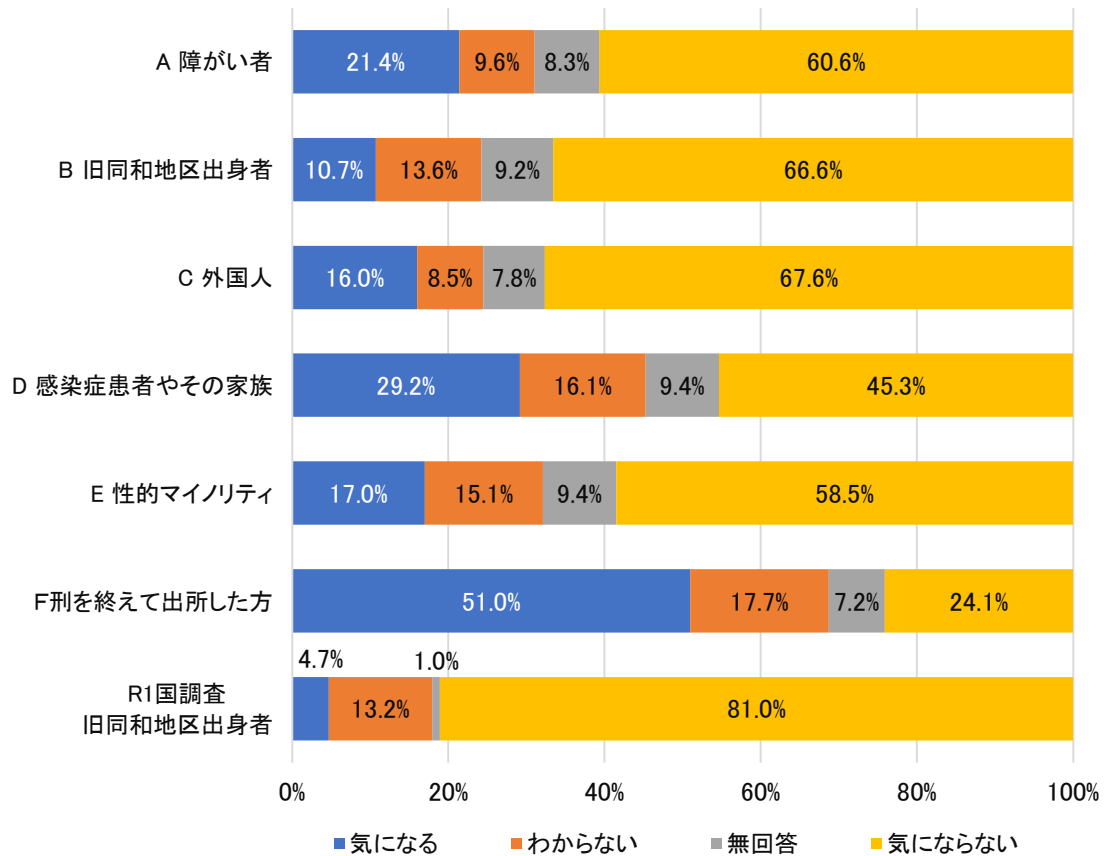
(E 性的マイノリティ)

「気にならない (59.3%)」が6割となっている。

(F 刑を終えて出所した方)

「気になる(56.5%)」が6割、「気にならない (19.8%)」が2割となっている。

問30 あなたは、求人に対する応募者や職場の同僚が、A～Fの人であるか否か気になりますか。(AからFごとに1つ選択)



(A 障がい者)

「気にならない (60.6%)」が6割となっている。

(B 旧同和地区出身者)

「気にならない (66.6%)」が7割となっている。

R1国調査と比較すると、「気にならない (国:81.0%、県:66.6%)」が低く、「気になる (国:4.7%、県:10.7%)」が高くなっている。

(C 外国人)

「気にならない (67.6%)」が7割となっている。

(D 感染症患者やその家族)

「気にならない (45.3%)」が5割、「気になる (29.2%)」が3割となっている。

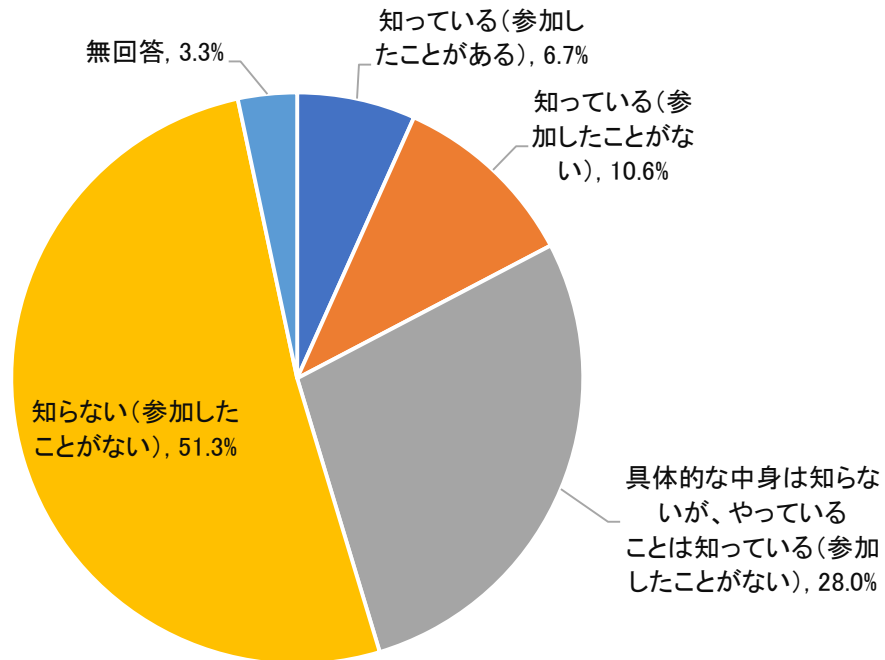
(E 性的マイノリティ)

「気にならない (58.5%)」が6割となっている。

(F 刑を終えて出所した方)

「気になる (51.0%)」が5割、「気にならない (24.1%)」が2割となっている。

問31(1) 県・市町では、人権に関する取組みとして、下記のような啓発活動を行っておりますが、あなたは、このような人権に関する啓発活動を知っていますか、または、啓発活動に参加したことがありますか。(1つ選択)

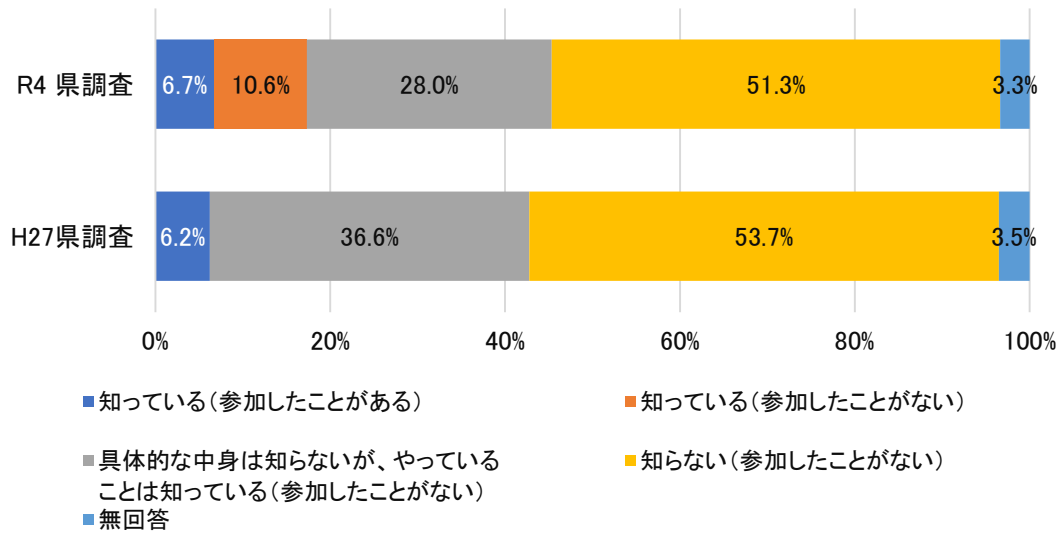


「知らない(参加したことがない)(51.3%)」が最も高く、次いで、「具体的な中身は知らないが、やっていることは知っている(参加したことがない)(28.0%)」となっている。

【令和3年度啓発活動例】

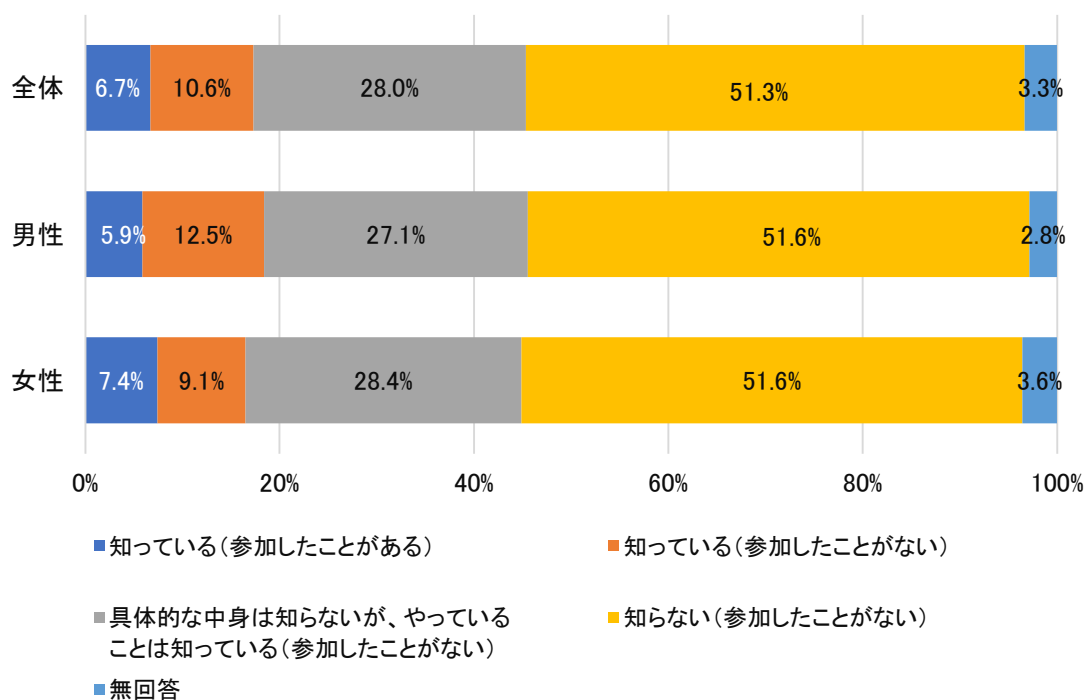
- ・児童虐待防止や男女共同参画などに関する講演会
- ・オンラインで楽しみながら人権を学べる人権フェスティバル
- ・サッカーチーム(福井ユナイテッドFC)や野球チーム(福井ワイルドドラプターズ)と連携したいじめ防止の啓発活動
- ・花の苗の植栽を通して、命の大切さを教える「人権の花運動」
- ・拉致問題に関する講演会、北朝鮮人権侵害問題啓発週間における街頭啓発
- ・福井県人権センターによる人権啓発DVD貸出、出張出前講座
- ・人権啓発セミナーなどのオンライン講演
- ・男女共同参画に関する標語コンクール・作文などの実施

【H 2 7 県調査との比較】



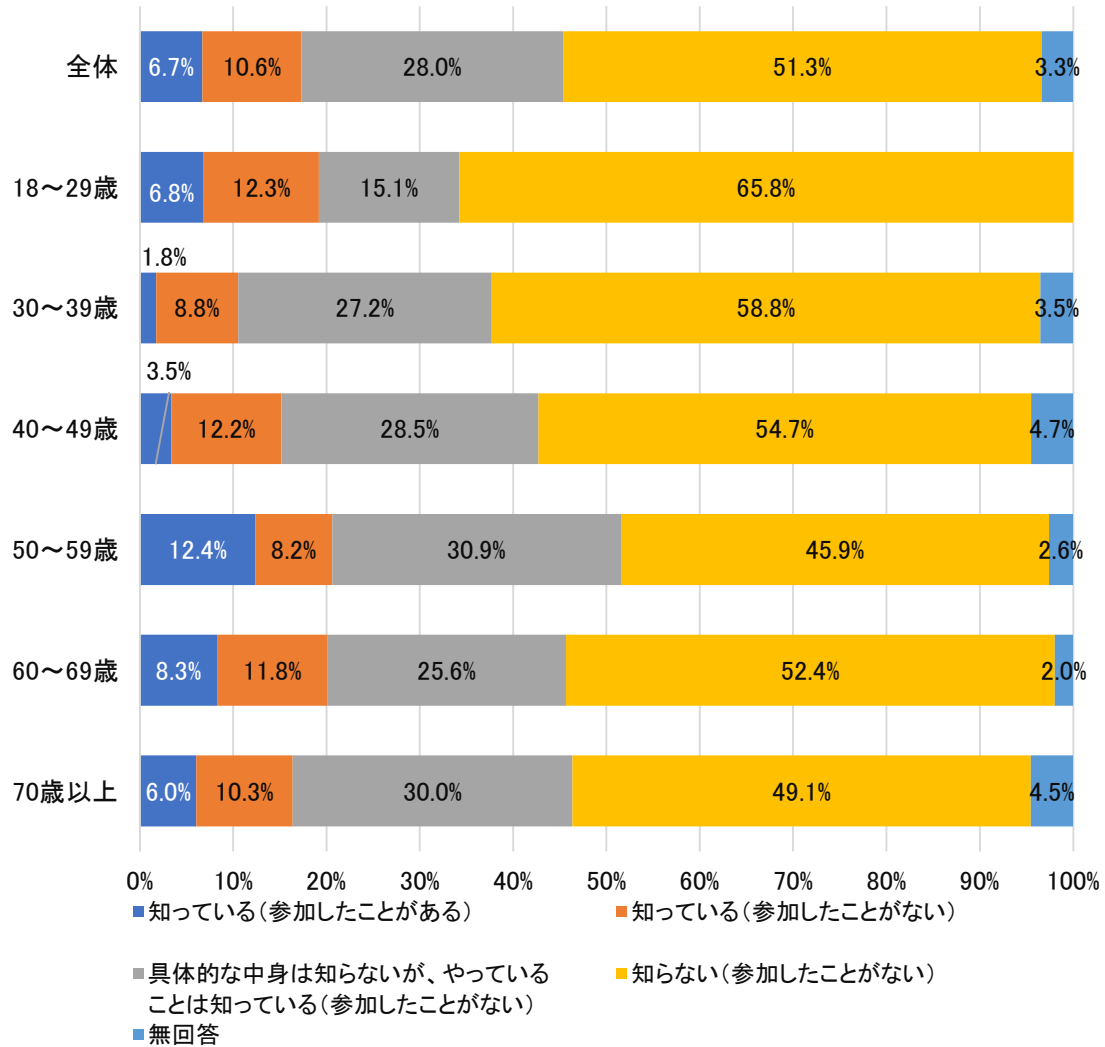
H 2 7 県調査と比較すると、「知っている（参加していることがある）（6.2%→6.7%）」、「参加したことがない（90.3%→89.9%）」と大きな差は見られない。

【性別】



男性、女性とも大きな差は見られない。

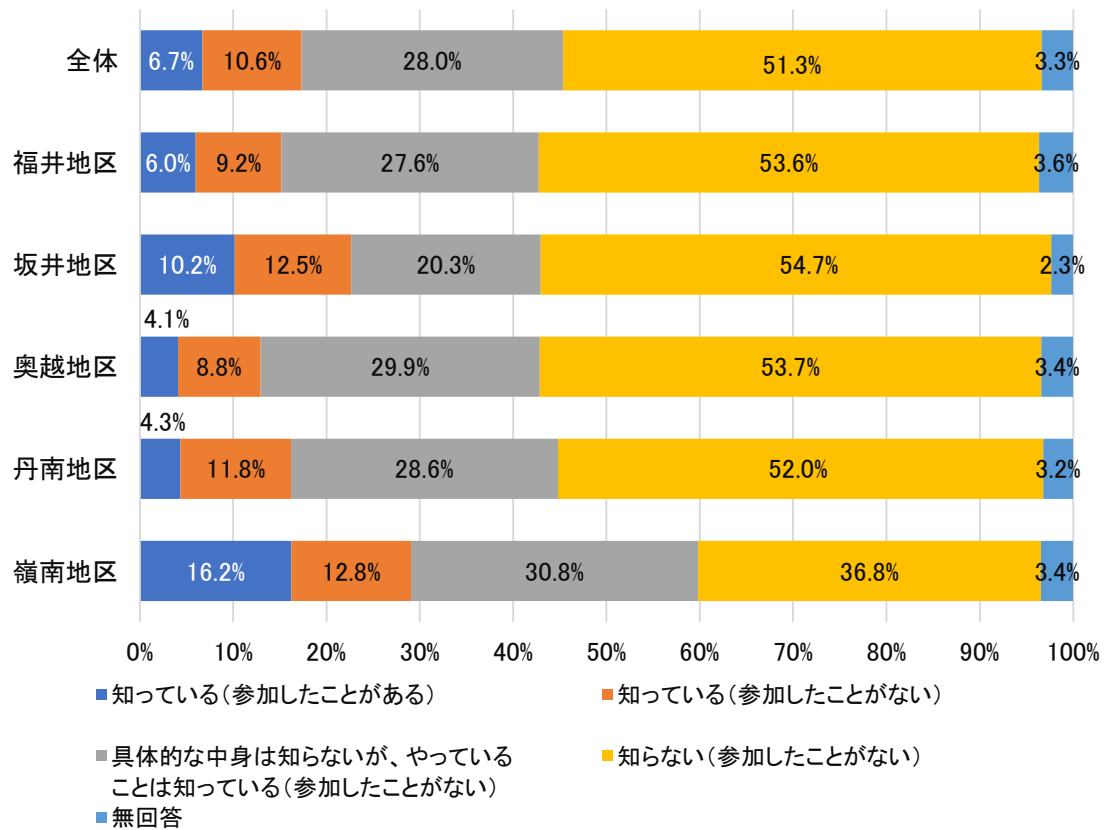
【年齢別】



「知っている（参加していることがある）」は50～59歳(12.4%)で最も高く、30～39歳(1.8%)で最も低くなっている。

「知らない（参加したことがない）」は50～59歳(45.9%)で最も低く、18～29歳(65.8%)で最も高くなっている。

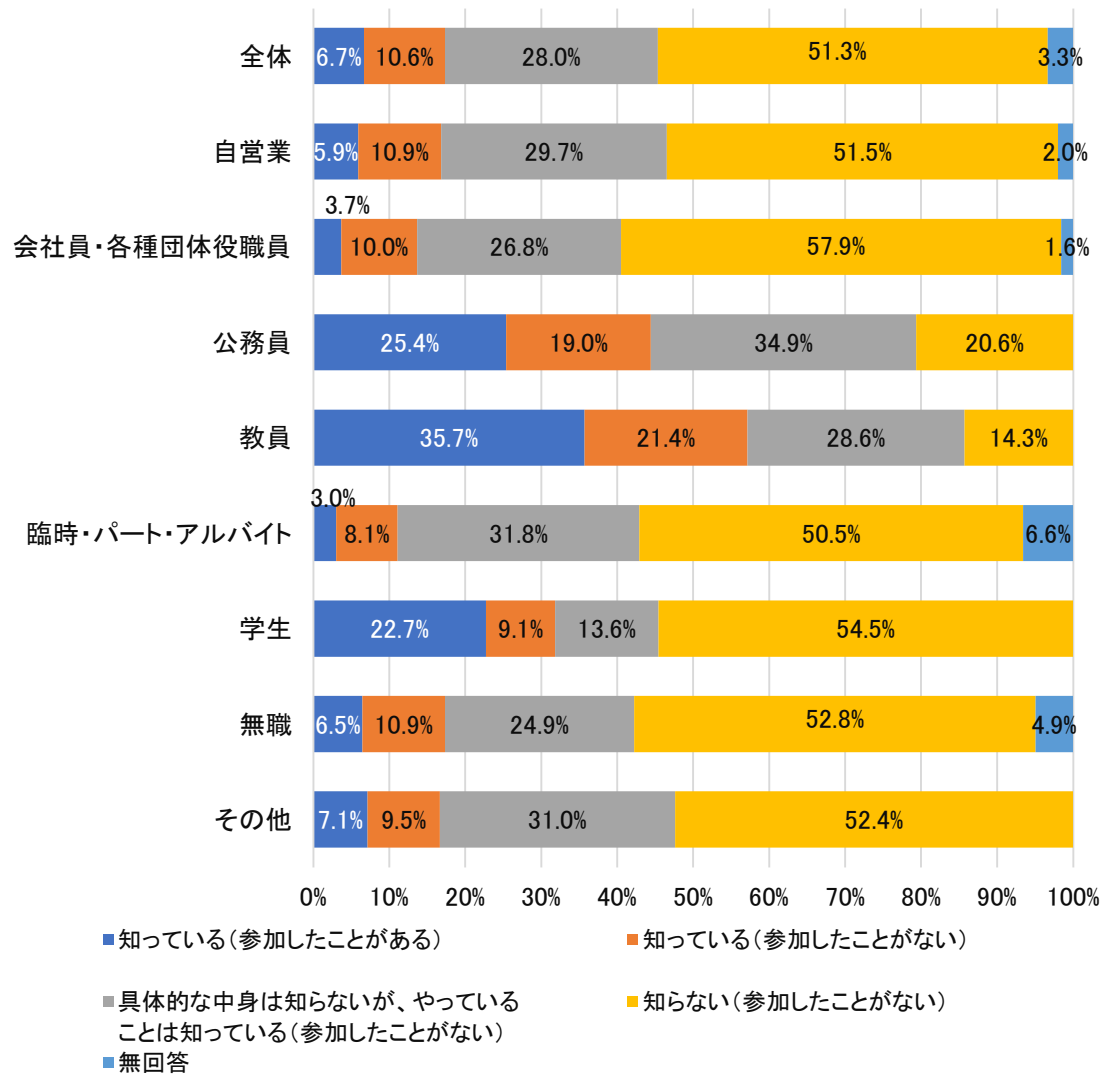
【地区別】



「知っている（参加していることがある）」は、嶺南地区(16.2%)で最も高く、次いで、坂井地区（10.2%）で高くなっている。

「知らない（参加したことがない）」は嶺南地区(36.8%)で最も低く、他の地区では、大きな差は見られない。

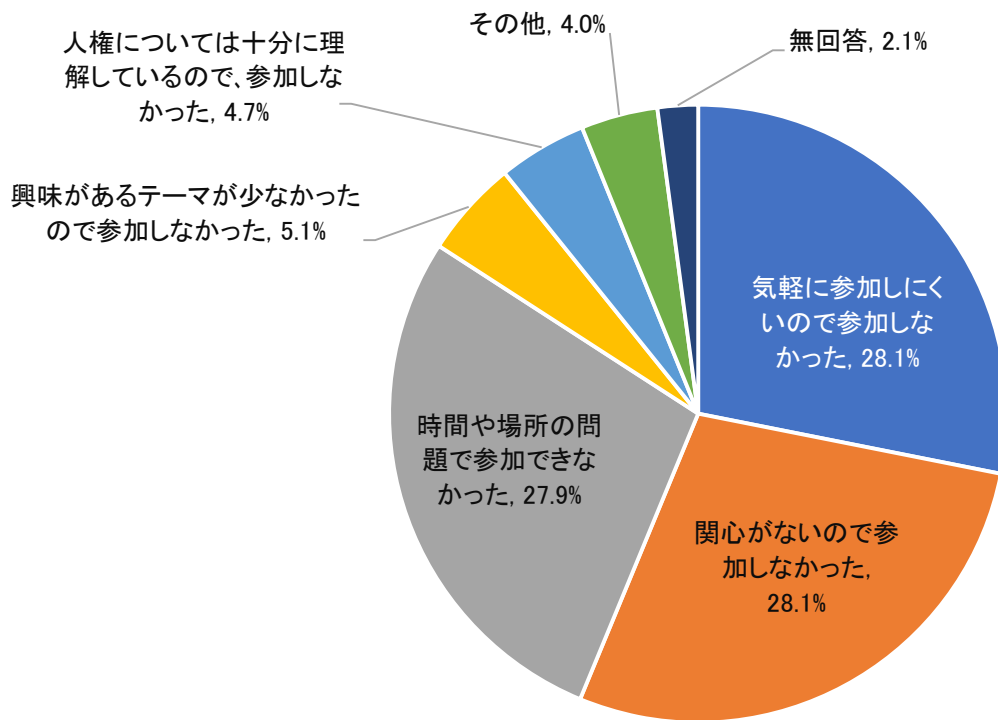
【職業別】



「知っている（参加していることがある）」は、教員（35.7%）が最も高く、次いで、公務員（25.4%）、学生（22.7%）が高く、臨時・パート・アルバイト、会社員・各種団体役職員では低くなっている。

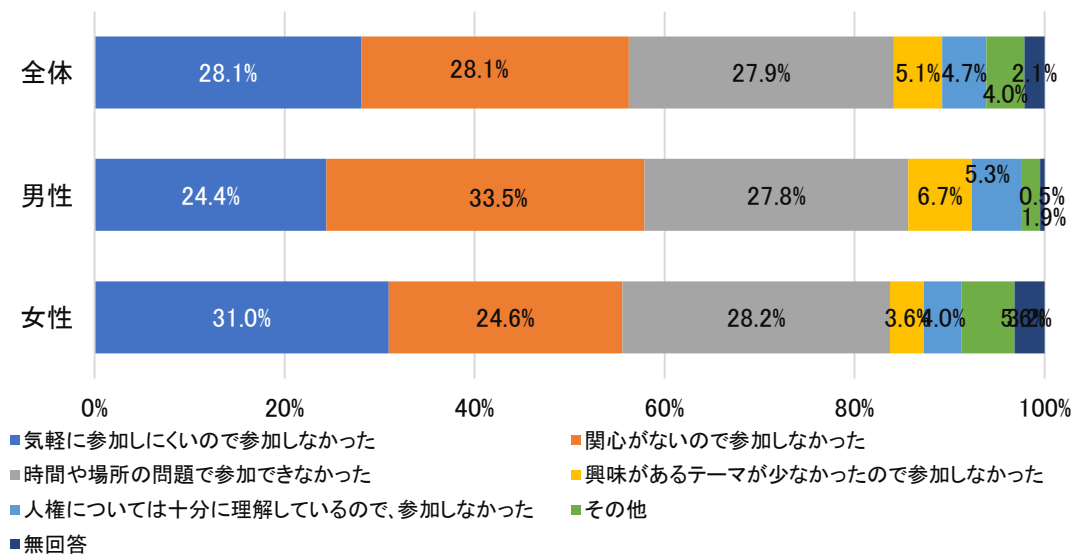
「知らない（参加したことがない）」は、会社員・各種団体役職員（57.9%）が最も高く、教員（14.3%）、公務員（20.6%）では低くなっている。

問31 (2) どのような理由で参加しませんでしているか。(1つ選択)



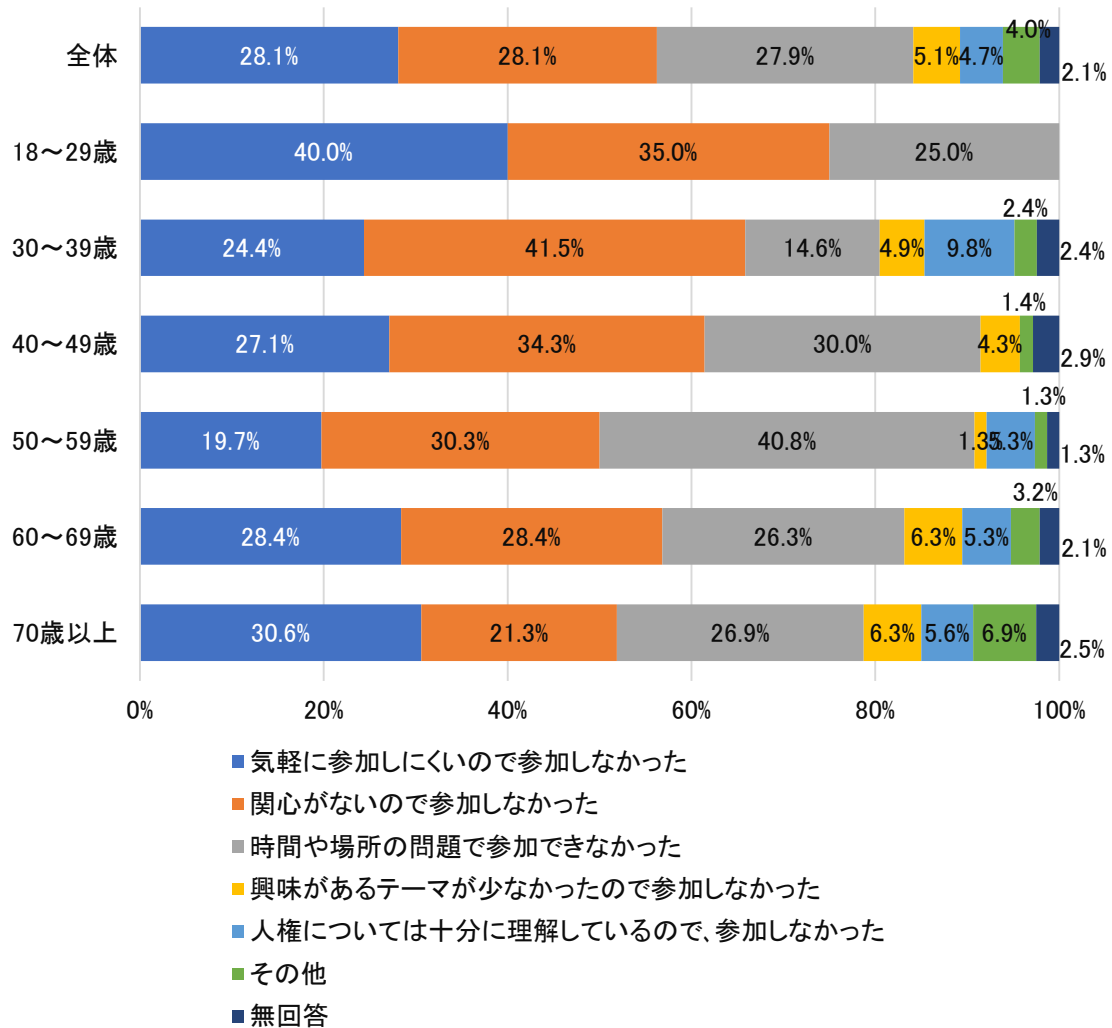
「気軽に参加しにくいので参加しなかった(28.1%)」が最も高く、次いで、「関心がないので参加しなかった(28.1%)」、「時間や場所の問題で参加できなかった(27.9%)」が高くなっている。

【性別】



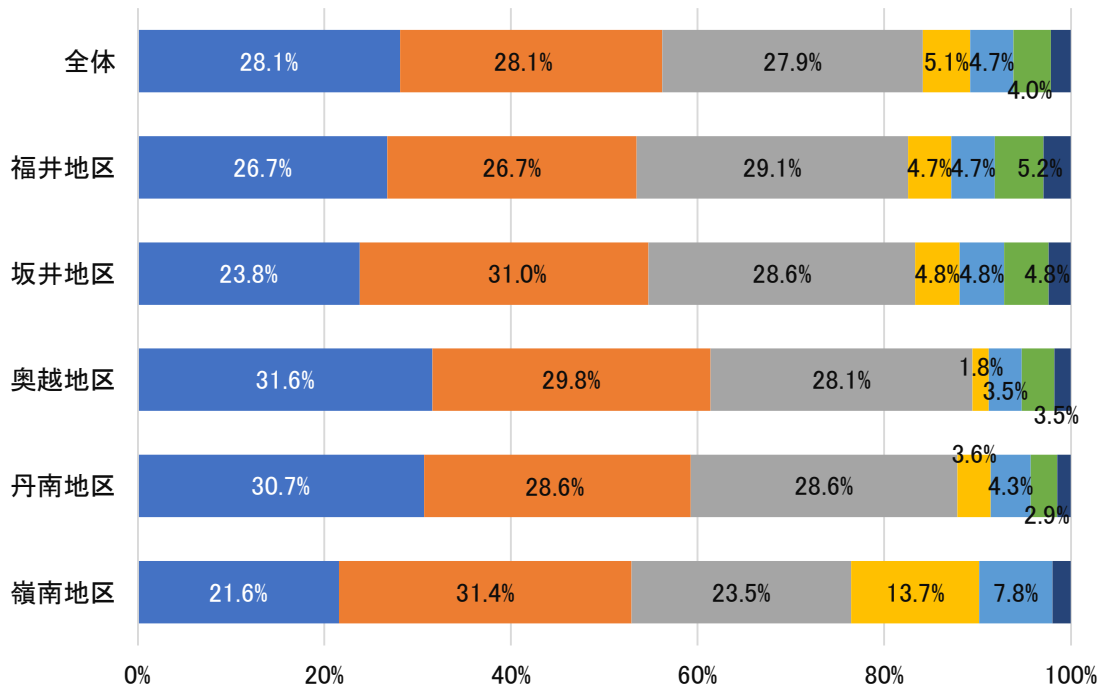
男性は「関心がないので参加しなかった (33.5%)」が最も高く、女性は「気軽に参加しにくいので参加しなかった(31.0%)」が最も高くなっている。

【年齢別】



「気軽に参加しにくいので参加しなかった」は18~29歳(40.0%)が高く、「関心がないので参加しなかった」は30~39歳(41.5%)、「時間や場所の問題で参加できなかった」は50~59歳(40.8%)が高くなっている。

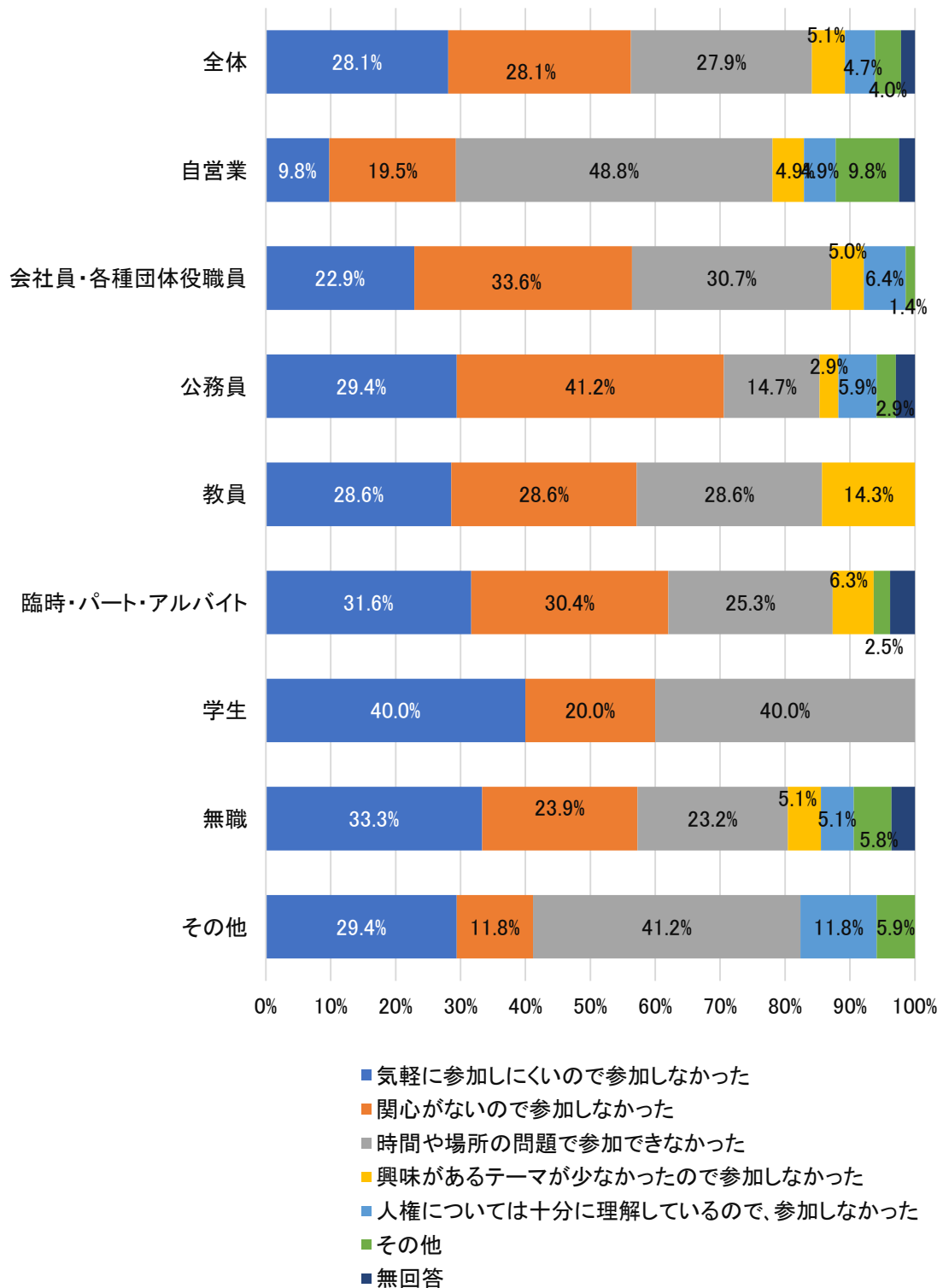
【地区別】



- 気軽に参加しにくいので参加しなかった
- 関心がないので参加しなかった
- 時間や場所の問題で参加できなかった
- 興味があるテーマが少なかったので参加しなかった
- 人権については十分に理解しているので、参加しなかった
- その他
- 無回答

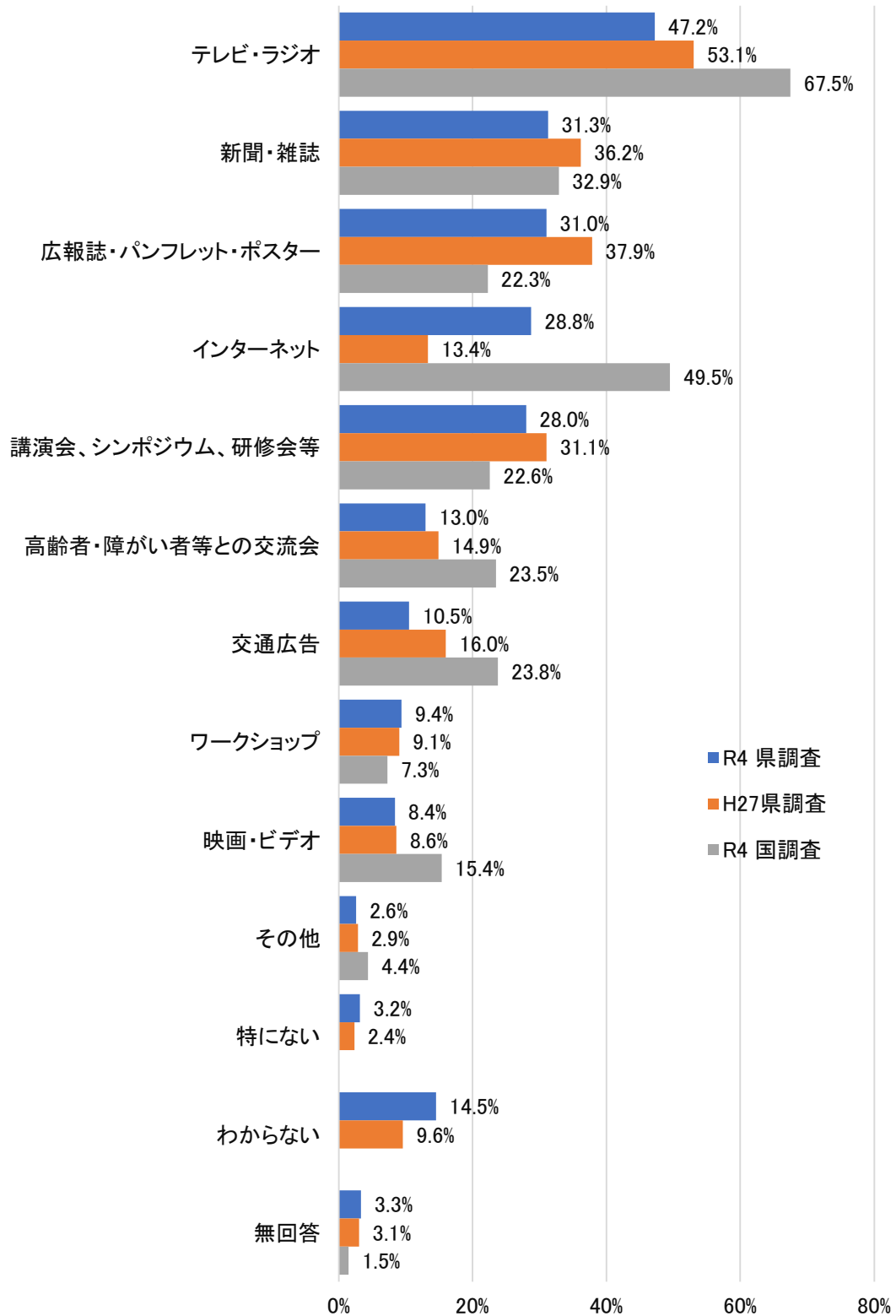
「気軽に参加しにくいので参加しなかった」は奥越地区(31.6%)が最も高く、「関心がないので参加しなかった」は嶺南地区(31.4%)が、「時間や場所の問題で参加できなかった」は福井地区(29.1%)が最も高くなっている。

【職業別】



「気軽に参加しにくいので参加しなかった」は学生(40.0%)が高く、「関心がないので参加しなかった」は公務員(41.2%)が、「時間や場所の問題で参加できなかった」は自営業(48.8%)が最も高くなっている。

問3 2 県内において、人権啓発を推進するためには、あなたは県民に対してどのような啓発広報活動が効果的だと思いますか。(複数回答可)



「テレビ・ラジオ(47.2%)」が最も高く、次いで、「新聞・雑誌(31.3%)」、「広報誌・パンフレット・ポスター(31.0%)」が高くなっている。

H27県調査と比較すると、「インターネット(13.4%→28.8%)」が倍増している。

R4国調査と比較すると、「広報誌・パンフレット・ポスター(国:22.3%、県31.0%)」が高く、他の項目は低くなっている。

【性別】

男性、女性とも「テレビ・ラジオ」が最も高くなっている。

【年齢別】

18～29歳では、「インターネット」が最も高くなっている。他の年齢では、「テレビ・ラジオ」が最も高くなっている。

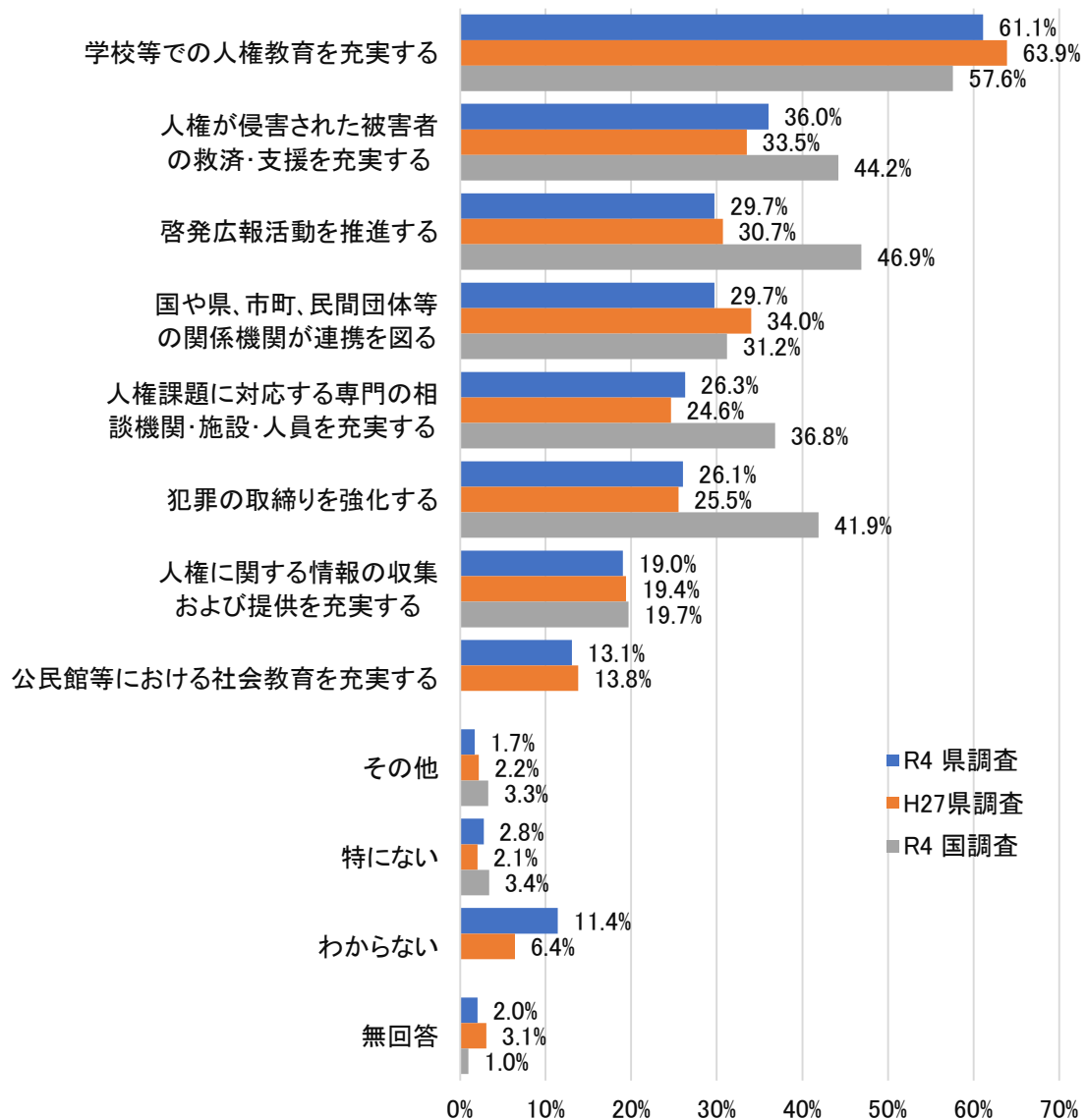
【地区別】

どの地区も「テレビ・ラジオ」が最も高くなっている。

【職業別】

どの職業も「テレビ・ラジオ」が最も高くなっている。

問33 あなたは今後、人権課題の解決に向けて、どのようなことに力を入れていけばよいと思いますか。(複数回答可)



「学校等での人権教育を充実する (61.1%)」が最も高く、次いで、「人権が侵害された被害者の救済・支援を充実する (36.0%)」、「啓発広報活動を推進する (29.7%)」、「国や県、市町、民間団体等の関係機関が連携を図る (29.7%)」が高くなっている。

平成27年県調査と比較すると、大きな差は見られない。

R4国調査と比較すると、「学校等での人権教育を充実する (国:57.6%、県:61.1%)」などが高く、「人権が侵害された被害者の救済・支援を充実する (国:44.2%、県:36.0%)」、「啓発広報活動を推進する (国:46.9%、県:29.7%)」などが低くなっている。

【性別】

男性、女性とも「学校等での人権教育を充実する」が最も高くなっている。

【年齢別】

どの年齢も「学校等での人権教育を充実する」が最も高くなっている。

【地区別】

どの地区も「学校等での人権教育を充実する」が最も高くなっている。

【職業別】

教員では、「学校等での人権教育を充実する」と「人権が侵害された被害者の救済・支援を充実する」が最も高く、他の職業では、「学校等での人権教育を充実する」が最も高くなっている。